

令和7年度

(2025)

林 窓

知的探究イベーターの学び	2
3年間の学びの全体像	4
学習の指針	5
教育課程表	7
3年間の教科学習の構成	9
国語科	10
地理歴史科	11
公民科	12
数学科	13
理科	15
保健体育科	17
外国語科	19
家庭科	20
情報科	21
教科・科目の学習指導計画	22
国語科	23
地理歴史科	39
公民科	58
数学科	72
理科	99
保健体育科	117
芸術科	129
外国語科	136
家庭科	157
情報科	161
総合的な探究の時間	164

東京都立三田高等学校

この冊子の使い方

- ・本冊子を年度初めの授業に必ず準備し、教科担当の先生からの説明を受けてください。
- ・普段は、自宅の勉強机に置き、予習・復習・定期考査の準備に利用してください。
- ・教科担当者が「年間授業計画」について、若干の修正を行ったり、担当者が変更となったりすることもあります。あらかじめ了承してください。

「林窓」の由来

東京都立三田高等学校は、九州の外様大名有馬家（久留米藩）上屋敷（注1）の敷地の一部に建っています。その歴代藩主の中に、江戸中期に活躍した有馬頼僮（1714-1783）という数学好きの殿様がいました。

彼は、藩邸に数学者を呼んで数学を学ぶとともに数学者を援助しました。そして、自らも一生懸命勉強した結果、一流の数学者となり、1769(明和6)年に『拾璣算法』という数学書を著しました。その著書の中で、彼は当時最高水準の高等数学のすべてを150問にまとめて解説するとともに、関孝和などの数学者達の業績を紹介しました。

今回、シラバスを作成するにあたり、学問を愛した久留米藩主有馬頼僮の号（注2）「林窓舎」にちなんで、シラバスの名前としました。

（注1）大名が江戸に持っていた邸宅のうち大名自身が居住した本邸のこと。

（注2）学者などが本名以外に使用する呼称。

元副校長 飯山昌幸

知的探究の学び

令和7年度は、令和2年度まで知的探究イノベーター推進事業の指定を受け、本校が他校に先駆けて取り組んできた探究的な学びを一層発展する年です。

A Iの著しい進展の中で、日常生活が激変します。生活の質が変化するだけでなく、我々の思考の在り方そのものも変化を余儀なくされています。沢山の知識を蓄積し、それを迅速に活用することで「学力がある」と言われていた時代はすでに過去です。「良い大学に行けば、良い企業に就職できて、良い人生が送れる」、そんな時代も過去のものとなりました。自分はどうなりたいのか、そのために何を学ぶのか、必要となる資質は一生学び続ける力です。ビッグデータをフルに活用し、瞬時に検索し、答えを導く能力は、A Iにはかきません。我々に必要な学力は、「覚えてきたことを再生する力」ではなく、「新しい価値を生み出す力」です。三田高校では、この力を「創造力」と呼びます。

これまで、三田高校が取り組んできた3つのプレゼンテーション、特に、課題研究を進化させた「探究と創造」の時間で、自らの課題を自らが設定し、主体的に調べ・試す探究活動を通して、自らが深く考えたことを自らの手法で表現する方法を学びます。つまり、「創造力」を培う学びです。

三田高校は、学問の土台となる基礎基本の学習を大切に、保健体育科・芸術科・家庭科・情報科を含め、まんべんなく全て教科の学習を大事にします。どの教科の学習でも、探究活動を重視します。「主体的・対話的で深い学び」を実践し、いわゆるアクティブラーニングを授業に取り入れています。生徒が生徒を教えるという授業にも挑戦しています。

高大接続改革の中で、高等学校の授業や大学の授業、そしてそれらをつなぐ大学入試が大きく変化しています。知的探究の学びは、新学習指導要領の目指すところの新しい時代に必要となる資質・能力「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」や「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の理念の上に立つ学習活動です。

新学習指導要領の実施に伴い、高等学校の学習の評価の在り方が変わります。絶対評価である「評定」の他に、目標に準拠した評価である観点別評価が導入されます。三田高校では、観点別に作問した定期考査、生徒による授業評価、Can-Do リスト、ルーブリック（評価）、授業中の相互評価、レポート評価、ポートフォリオ評価、発表活動時のパフォーマンス評価等を既に導入しています。生徒自らが、学習の中で自己変革・自己改善につなげられる評価を取り入れています。

「探究学習の充実」で、主体的・対話的で深い学びを自ら実践します。観点別評価の導入で、自らの学びの姿勢を改善していくチャンスを得ます。この「林窓」を活用し、将来を見据えて、様々な学習改善を実践している三田高校の学びを、あなたも開始しましょう。そして、生徒自らが学び合う、活発な授業を展開していきましょう。

Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow.

The important thing is not to stop questioning.



Have Wings and Fly High!



— 教養・探究・立志 へ 世界へ —

< 自律 > < 自学 > < イノベーター (開拓者) >

新しい価値の創造

創造力 CREATIVITY

外部機関との連携

大学 企業 地域
国際機関 (大使館等)
図書館 研究機関
NGO NPO

ユネスコスクール

SDGs
(国際社会の共通課題解決に向けた探究)
ESD
(持続可能な開発のための教育)

課題研究 RESEARCH

思考力・判断力 ・表現力等

CRITICAL THINKING
JUDGEMENT
EXPRESSIVENESS
読書プレゼンテーション
ホームプロジェクト
プレゼンテーション
ポートフォリオ

探究 SELF-EXPLORATION

幅広い教育課程
長期休業中の講習

知識・技能

KNOWLEDGE
SKILLS
言語の4技能修得
第二外国語
情報処理

志 教養

学校行事
部活動
委員会活動

勉強合宿
進路講演会
評論演習

AMBITION WORLDLINESS

大学・研究機関の
フォーラム・セミナー・実験体験
姉妹校交流
留学希望生徒支援

チーム三田
コミュニケーション

協同・協働
パートナーシップ

主体的な学び・鍛える授業

3年間の学びの全体像

主体的・対話的で深い学びを目指して

「シラバス」とは、一般的には「年間授業計画」のことを意味します。教授者から学習者に対して、これから勉強する教科・科目の目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等をあらかじめ示したものです。この「林窓～シラバス～」から、三田高校の授業で、何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるかを理解してください。

三田高校の「三年間の学びの全体像」を示してあります。各教科が、三年間で皆さんにどんな力を身に付けてほしいか、そのためにどんな順番で何を学ぶのかということ、皆さん自身が理解して、毎年毎年の学びに見通しをもって、学習に臨んでください。

《 第一志望の進路実現にむけた三田高校の学習計画 》

	学習面	生活面	進路指導
3 年 生	<p>○理科・社会を中心に 後半は問題演習で完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の中心は、国語・数学・英語から理科・社会に移っている時期です。 ・夏休み以降は、問題演習で、実践力を養いましょう。 	<p>○規則正しい生活リズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ大学受験を強く意識する時期です。 ・心身ともに健康でなければ受験勉強に集中できません。 	<p>○第一志望への合格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志望する大学に合わせた学習をする時期です。 ・受験は団体戦です。仲間と励まし合って、学校での学びを大切にしましょう。
2 年 生	<p>○国語・数学・英語の 基礎完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の3教科は、2年生までに、必要な科目の学習の基礎が終了します。この学習で大学受験に立ち向かえます。 ・進路の幅を狭めないためにも、この時期も5教科の学習を継続します。 	<p>○メリハリのある 生活リズムを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活の最大の行事である修学旅行があり、行事や部活動の中心となって活躍するのが2年生です。 ・メリハリをつけ、切り替えを上手に、生活にリズムを持たせることが大切です。 	<p>○進路選択に向けた準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来就きたい職業や自らの適性を考え、具体的な志望校をいくつか絞っていく時期です。 ・4技能の力を試す英語検定に挑戦しましょう。
1 年 生	<p>○苦手科目をつくらない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての勉強法を固める時期です。 ・5教科まんべんなく学習しましょう。それが、進路の幅を狭めないポイントです。 ・苦手科目・学習を諦める科目をつくってははいけません。総合的な学力が求められています。 	<p>○規則正しい生活習慣の 確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三田高校生として、品位ある学生生活の基本を確立します。 ・学年+1時間の家庭学習の時間を確保してください。 	<p>○職業や大学を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来に向けて視野を広げ、選択肢を多く持つために、情報収集をする時期です。 ・国際理解教育やキャリア教育の機会に、目的意識をもって参加しましょう。

学習の指針

高等学校での学習

中学校で、みなさんは成績でクラスの上位にいたと思います。それは、高校と比べて中学校の学習は、レベルがそれほど高くありませんので、定期考査の直前に短時間勉強すればある程度の点数がとれたからです。しかし高校ではそのような学習スタイルでは通用しません。

高校では、なにより自主的な学習態度が求められます。自主的な学習とは、日々の継続的な学習を自らの意志によってすることで身につくものです。

学力をつけるために

学力とは何か。いろいろのとらえ方がありますが、ここでは物事を理解する力、問題を解決しようとする意欲ととらえてみましょう。どうしたら学力をつけられるでしょうか。

それには授業を大切にすることが一番です。高等学校で過ごす一日の大部分は、授業です。授業を活かすことが高校生活を充実させ、学力をつけることになるのです。従って、1時間1時間の授業を大切にすることが最も重要になってきます。

授業中心の学習とは

授業中心の勉強法とは、特に変わったことをすることではありません。平凡ですが、必ず予習をして学習内容をあらかじめ自分なりに消化をしてから授業に臨むことです。そして授業で学習したことはできるだけ早く復習することも大切です。予習→授業→復習を軸とした内容的にも時間的にも実のあるプランを立てて学習を進めてほしいところです。

授業では、教師の説明を一言漏らさず聞き、板書事項もただノートにまる写しにせず、授業を受けながら考え、分析し、まとめる活動が大切です。これが積極的な授業への参加ということです。このような学習を毎日毎日進めていくのは容易ではありません。意志を強く持って頑張してほしいものです。

自宅学習について

授業中心の学習を進めるためには、予習の時間を十分に確保することが大切になります。そうすると自ずと自宅での学習時間はどれくらい必要となってくるか割り出すことができます。もちろん予習には限りはありません。気になることをとことん調べようとすれば、時間がいくらあっても不足でしょうが、必ず、予習をして臨むようにしましょう。

学習計画の立て方

その日の気分によって、長時間勉強したり全く勉強しなかったりということはありませんか。また得意科目ばかり勉強したり、不得意科目には全く手を出さなかったりということも今までありませんでしたか。教科・科目は意外なところでつながっているものです。ある教科に偏った学習ばかりしていると知識が体系的に組み立てられないため、学習効果は著しく薄く、学習の積み重ねも行われないので成績の向上はおぼつかないことになります。教科全体の見通しを持って学習を進めるためには、自分なりの学習計画表が必要になっていきます。計画表ではいつまでに何をマスターしたらよいか、いつ何を復習したらよいかを記入し自己点検をしながら毎日の学習を進めてください。

自分に合った勉強方法を見つけよう

みなさんは、自分の体力、自分を取りまく学習環境、自分の性格等についてどの程度知っていますか。例えば一日のうち、どの時間帯に勉強すると集中できますか。そしてどのくらい学習を続けられますか。自分にあった勉強方法は自分の体験によってしかつかむことはできません。いろいろ試して一日も早く自分なりの学習方法を見つけ出してみましょう。

塾・予備校について

既に述べたように、高校での学習レベルは高く、しかも学年が進むにつれて難易度もどんどん上がっていくので、その予習・復習の時間を確保して自宅学習を充実させると、塾に行く時間を捻出するのは極めて困難になります。ですから、塾や予備校に行くことを最初から考える必要はありません。しかし、活用の仕方によっては塾・予備校も役立つことがあります。例えば、苦手科目の克服のために夏休みなどに短期集中講座を受けたり、模試を受けたりする場合があります。ただし、最初はあくまでも高校の授業にしっかりついていくことに重点をおいてください

最後に

私たちはなぜ日本語を操れるのでしょうか。これは幼児期にしっかりと母語を身につけたからです。このように為すべき時にきちんと為すべきことを行うことがとても重要です。どんなことにも段階があり、タイミングがあります。高校生活で基本的な学習習慣を身につけ、学力をつけることはこれからの人生を豊かに過ごすことの基礎となります。自分自身の知性を磨き、教養を高めるだけでなく、自ら、積極的に、思考し、判断し、表現することを心がけ、高校での学習を進めていきましょう。



教育課程表 (1, 2 学年)

各教科 ・科目	学 年 類 型	標準 単 位 数	1 学年			2 学年	
			必修	学校必修	自由選択	必修	学校必修
国 語	現代の国語	2	2(8)				
	言語文化	2	3(8)				
	論理国語	4					
	文国語	4					
	国語表現	4					
地理 歴史	古典探究	4				3(7)	
	地理総合	2			2(7)		
	地理探究	3					
	歴史総合	2	2(7)				
公 民	日本史探究	3				4(3)◆	
	世界史探究	3				4(2)◆	
	公共倫理	2			2(7)		
数 学	政治・経済	2					
	数学 I	3	3(8)				
	数学 II	4				3(11)	
	数学 III	3					
	数学 A	2		2(8)			
理 科	数学 B	2				2(7)	
	数学 C	2				1(7)	
	科学と人間生活	2					
	物理基礎	2			3(3)○		
	物理	4					
科	化学基礎	2	2(7)				
	化学	4				4(3)◆	
	生物基礎	2	2(7)				
	生物	4					
	地学基礎	2			3(5)○		
保 健 体 育	地学	4					
	体育	7~8	2(12)			2(12)	
芸 術	保健	2	1(7)			1(7)	
	音楽 I	2	2(4)◇				
	音楽 II	2					
	音楽 III	2					
	美術 I	2	2(4)◇				
	美術 II	2					
	美術 III	2					
	工芸 I	2					
	工芸 II	2					
	工芸 III	2					
外 国 語	書道 I	2	2(4)◇				
	書道 II	2					
	書道 III	2					
	英語コミュニケーション I	3	3(7)				
家 庭	英語コミュニケーション II	4				4(7)	
	英語コミュニケーション III	4					
	論理・表現 I	2		2(7) 1(14)			
情 報 理 数	論理・表現 II	2				1(7) 2(14)	
	論理・表現 III	2					
地 理 歴 史	家庭基礎	2	2(14)				
	家庭総合	4					
人 間 と 社 会	情報 I	2	2(7)				
	情報 II	2					
人 間 と 社 会	理数探究基礎	1					
	理数探究	2~5					
人 間 と 社 会	江戸から東京へ	1~2					
	人間と社会	1					

各教科 ・科目	学 年 類 型	標準 単 位 数	1 学年			2 学年	
			必修	学校必修	自由選択	必修	学校必修
国 語	現代文探究 I	2					2(7)
	現代文探究 II	2					
	古典探究・発展	4					
	現代文演習	2					
	古文演習	2					
	漢文演習	2					
	理系古典演習	2					
	英語発展演習	2					
	英語標準演習	2					
	ドイツ語	2			2(1)		
外 国 語	フランス語	2			2(1)		
	中国語	2			2(1)		
情 報	情報 I 演習	2					
	共通教科・科目単位数計		31~33			32	
専門教科・科目単位数計							
総合的な探究の時間			3~6			2	
ホームルーム活動			1			1	
習 熟 度 別 授 業	1. 1学年 現代の国語、言語文化、数学 I、数学 A について、補習生繰り出し授業を 1 クラス分を行う。 論理・表現 I の 1 単位数は、1 クラス 2 時間の習熟度別授業を行う。 体育は 2 クラス 3 時間の少人数授業を行う。2 クラス 3 時間が 4 グループとなる。 (水泳の授業時はチームティーチングを行う)。 家庭基礎は 1 クラス 2 時間の少人数授業を行う。						
	2. 2学年 数学 II において 2 クラス 3 時間の習熟度別授業を実施する。2 クラス 3 時間が 4 グループとなる。 体育は 2 クラス 3 時間の少人数授業を行う (水泳の授業時はチームティーチングを行う)。 2 クラス 3 時間が 4 グループとなる。 論理・表現 II の 2 単位数は 1 クラス 2 時間の少人数授業を行う。 家庭基礎は 1 クラス 2 時間の少人数授業を行う (水泳の授業時はチームティーチングを行う)。 2 単位数は 2 クラス 3 時間が 4 グループ、1 単位数は 2 クラス 4 時間が 4 グループとなる。						
備 考	3. 3学年 数学 III において 2 クラス 3 時間の習熟度別授業を実施する。2 クラス 3 時間が 4 グループとなる。 体育は 2 クラス 3 時間の少人数授業を行う (水泳の授業時はチームティーチングを行う)。 2 単位数は 2 クラス 3 時間が 4 グループ、1 単位数は 2 クラス 4 時間が 4 グループとなる。 論理・表現 III の 2 単位数は 1 クラス 2 時間の少人数授業を行う。 家庭基礎は 1 クラス 2 時間の少人数授業を行う (水泳の授業時はチームティーチングを行う)。 2 単位数は 2 クラス 3 時間が 4 グループとなる。						
	1. 学校設定科目として、1 学年にドイツ語・フランス語・中国語を設置する。3 学年に現代文探究 I・現代文探究 II・ 古典探究・発展・現代文演習・古文演習・漢文演習・理系古典演習・日本史探究 II・世界史探究 II・日本史演習・ 世界史演習・地理演習・地理基礎演習・政治・経済演習・数学標準演習 (文)・数学演習 (文)・数学演習 (理)・ 数学発展演習 (理)・数学発展演習 (文)・数学 I A 演習・数学 II B 演習・数学 III C 演習・ 化学探究・物理探究・生物探究・地学探究・生物演習・物理基礎演習・化学基礎演習・生物基礎演習・ 地学基礎演習・発展体育・ソフージュ演習・音楽総合・英語発展演習・英語標準演習を設置する。 2. 2 学年では、○、◆からそれぞれ 1 科目ずつ選択する。 3. 2 学年の数学 C (1 単位) は 1 学期までで単位認定を行い、数学 B (2 単位) を 2-3 学期に履修する。 4. 3 学年文系の生徒は古典探究・発展を選択し、かつは、★よりそれぞれ 1 科目を選択する。 ただし数学を選択する場合は、数学演習 (文) 5 単位を選択することとする。 3 学年理系の生徒は数学 III 5 単位 + 数学 II 2 単位、または数学演習 (理) 5 単位を選択する。 それに加えて▲、●よりそれぞれ 1 科目ずつを選択する。 5. 3 学年「物理」および「地学」は、2 学年においてそれぞれの基礎を付する科目を履修した者だけが選択できる。 6. 3 学年の自由選択科目は、2 単位以上履修させる。 7. 「人間と社会」は 1 学年「総合的な探究の時間」において代替する。 8. 3 学年では、◎のうち 1 科目を選択する。						

教育課程表（3学年）

各教科 ・科目	学 年 類 型	標準 単位 数	3 学年		
			必修	学校必修	自由選択
国 語	現代の国語	2			
	言語文化	2			
	論理国語	4			
	文学国語	4			
	国語表現	4			
地理 歴史	古典探究	4			
	地理総合	2			
	地理探究	3		5(1)☆	
	歴史総合	2			
	日本史探究	3			
公 民	世界史探究	3			
	公共	2			
	倫理	2		2(1)◎	
数 学	政治・経済	2		2(7)◎	
	数学Ⅰ	3			
	数学Ⅱ	4			
	数学Ⅲ	3		3(3)	
	数学A	2			
理 科	数学B	2			
	数学C	2		2(3)	
	科学と人間生活	2			
	物理基礎	2			
	物理	4		4(1)▲	4(1)
	化学基礎	2			
	化学	4			
	生物基礎	2			
保 健 体 育	生物	4		4(1)▲	4(1)
	地学基礎	2			
	地学	4		4(1)▲	4(1)
	体育	7~8	2(12)1(12)		
芸 術	音楽Ⅰ	2			
	音楽Ⅱ	2			
	音楽Ⅲ	2			
	美術Ⅰ	2			
	美術Ⅱ	2			
	美術Ⅲ	2			
	工芸Ⅰ	2			
	工芸Ⅱ	2			
外 国 語	工芸Ⅲ	2			
	書道Ⅰ	2			
	書道Ⅱ	2			
	書道Ⅲ	2			
	英語コミュニケーションⅠ	3			
英 語	英語コミュニケーションⅡ	4			
	英語コミュニケーションⅢ	4		4(7)	
	論理・表現Ⅰ	2			
	論理・表現Ⅱ	2			
家 庭 情 報 理 数	論理・表現Ⅲ	2		2(11)	
	家庭基礎	2			
	家庭総合	4			2(1)
情 報 理 数	情報Ⅰ	2			
	情報Ⅱ	2			2(1)
理 数	理数探究基礎	1			
	理数探究	2~5			
地理歴史	江戸から東京へ	1~2			
人間と社会	人間と社会	1			

各教科 ・科目	学 年 類 型	標準 単位 数	3 学年			
			必修	学校必修	自由選択	
国 語	現代文探究Ⅰ	2				
	現代文探究Ⅱ	2		2(7)		
	古典探究・発展	4		4(5)		
	現代文演習	2			2(2)	
	古文演習	2			2(2)	
	漢文演習	2			2(1)	
	理系古典演習	2			2(1)	
地 理 歴 史	日本史探究Ⅱ	5		5(2)☆		
	世界史探究Ⅱ	5		5(2)☆		
	日本史演習	2		2(2)★	2(1)	
	世界史演習	2		2(1)★	2(1)	
	地理演習	2		2(1)★		
公 民	地理基礎演習	2			2(2)	
	倫理演習	2			2(1)	
	政治・経済演習	2			2(1)	
数 学	数学標準演習(文)	2		2(1)★		
	数学演習(文)	5		5(1)☆		
	数学演習(理)	5		5(1)△		
	数学発展演習(理)	2		2(1)●	2(1)	
	数学発展演習(文)	2			2(1)	
	数学ⅠA演習	2			2(1)	
	数学ⅡBC演習	2			2(1)	
	数学ⅢC演習	2			2(1)	
	理 科	化学探究	4		4(2)▲	4(1)
		物理探究	2		2(1)●	2(1)
生物探究		2		2(1)●	2(1)	
地学探究		2		2(1)●		
物理演習		2			2(1)	
生物演習		2			2(1)	
物理基礎演習		1			1(1)	
化学基礎演習		1			1(1)	
生物基礎演習		1			1(1)	
地学基礎演習		1			1(1)	
保 健 体 育	発展体育	2			2(1)	
音 楽	ソルフェージュ演習	2			2(1)	
	音楽総合	2			2(1)	
	英語発展演習	2		2(1)★	2(1)	
外 国 語	英語標準演習	2			2(1)	
	ドイツ語	2				
	フランス語	2				
情 報	中国語	2				
	情報Ⅰ演習	2			2(1)	
共通教科・科目単位数計			26~32			
専門教科・科目単位数計						
総合的な探究の時間			3~6			
ホームルーム活動			1			

習熟度別 授業 少人数指導 授業	3 学年 体育は少人数授業を行う（水泳の授業時はチームティーチングを行う）。 2 単位分は 2 クラス 3 展開が 4 グループ、1 単位分は 2 クラス 4 展開が 4 グループとなる。 論理・表現Ⅱは 2 クラス 3 展開の少人数授業を行う。2 クラス 3 展開が 4 グループとなる。
備 考	1. 学校設定科目として、3 学年に現代文探究Ⅰ・現代文探究Ⅱ・ 古典探究・発展・現代文演習・古文演習・漢文演習・理系古典演習・日本史探究Ⅱ・世界史探究Ⅱ・日本史演習・ 世界史演習・地理演習・地理基礎演習・政治・経済演習・数学標準演習(文)・数学演習(文)・ 数学演習(理)・数学発展演習(理)・数学発展演習(文)・数学ⅠA演習・数学ⅡBC演習・数学ⅢC演習・ 化学探究・物理探究・生物探究・地学探究・生物演習・物理基礎演習・化学基礎演習・生物基礎演習・ 地学基礎演習・発展体育・ソルフェージュ演習・音楽総合・英語発展演習・英語標準演習を設置する。 2. 3 学年文系の生徒は古典探究・発展を選択し、かつ☆、★よりそれぞれ1科目を選択する。 ただし数学を選択する場合は、数学演習(文)5 単位を選択することとする。 3 学年理系の生徒は☆として数学ⅢC 単位・★2 単位、または数学演習(理)5 単位を選択する。 それに加え★、●よりそれぞれ1科目ずつを選択する。 3. 3 学年「物理」および「地学」は、2 学年においてそれぞれの基礎を付する科目を履修した者だけが選択できる。 4. 3 学年の自由選択科目は、2 単位以上履修させる。 5. 「人間と社会」は1 学年「総合的な探究の時間」において代替する。 6. 3 学年では、◎のうち1 科目を選択する。

3年間の教科学習の構成

【国語科】 3年間の教科学習の構成

分野	現代文	古文	漢文
3年	講座名：現代文探究Ⅱ（必修2） 講座名：現代文演習（自選2）	講座名：古典探究・発展（文必4） 講座名：古文演習（自選2） 講座名：理系古典演習（自選2）	講座名：古典探究・発展（文必4） 講座名：漢文演習（自選2） 講座名：理系古典演習（自選2）
	①文章の構造と段落相互の関係を理解し、文章全体を説明出来るレベルの読みをマスターする。 ②いかなる要求や条件にも適応した文章を書けるようにする。 ③教科書に出て来る重要語句を含め、重要語を使いこなせるようにする。 ④難関大学の過去問を解けるだけのスキルの熟達。	①古文の語彙を定着させる。300～500語。 ②古典文法事項（助動詞・助詞・敬語・副詞の呼応・和歌の修辞・語の識別）の完全な理解・活用。 ③古典社会の常識を自分で説明できるレベルでの理解。 ④難関大学の過去問を解けるだけのスキルの熟達。	①主要な句法と助字の完全理解。 ②白文をある程度訓読できるようにする。 ③中国文化を踏まえた漢文の読解・理解の完成。 ④難関大学の過去問を解けるだけのスキルの熟達。
2年	講座名：現代文探究Ⅰ（2）	講座名：古典探究（3）	講座名：古典探究（3）
	①段落相互の構造を理解した上で、全体を捉える読みが出来るようにする。 ②要求や条件に応じた文章を書けるようにする。 ③教科書に出て来る重要語句を中心に近代の文章を理解するための語彙を増やす。 ④常用漢字の正確な形・読み・意味をより完璧にマスターする。	①教科書で学習する範囲の単語は全て定着させる。古文単語集1冊分の単語理解を定着させる。 ②主要古典文法（助動詞・助詞・敬語）の習熟。 ③古典の舞台である社会や習俗への理解を深める。	①漢文読解の基本となる句法・助字の基本を定着させる。 ②漢文の構造を理解し、白文から意味がとれるようにする。 ③中国文化の特質を理解し、漢文作品の歴史的背景に習熟する。
1年	講座名：現代の国語(2)	講座名：言語文化（3）	講座名：言語文化（3）
	①段落構成を押さえ、全体を捉える読みが出来るようにする。 ②場合に応じた様々な文を書けるようにする。 ③教科書に出て来る重要語句を中心に語彙を増やす。 ④常用漢字の正確な形・読み・意味を身につける。	①教科書に出てきた主要単語を覚える。古文単語集の基本的な単語を覚える。 ②用言の活用を完璧にする。 ③主な助動詞を「意味・活用・接続」の3点でマスターする。 ④近現代の小説を読解する。	①漢文訓読の基本（返り点・書き下し文・再読文字等）を覚える。 ②漢文の構造を理解する。 ③漢詩の規則を理解する。 ④中国文化の特質を理解する。

【地理歴史科】 3年間の教科学習の構成

分野	歴史総合	世界史	地理	日本史
3年		講座名：世界史探究Ⅱ (必選5) 講座名：世界史演習 (必選2)		講座名：日本史探究Ⅱ (文必5) 講座名：日本史B演習 (文必2)
		①2年生で未履修の分野について、近現代史を中心に学習します。 ②大学入試問題の過去の問題を中心に、問題演習を実施します。		①2年生で未履修の分野について、近世史から近現代史までを学習します。 ②大学入試問題の過去の問題を中心に、問題演習を実施します。
2年		講座名：世界史探究(必選4)	講座名：地理総合(必修2)	講座名：日本史探究(必選4)
		①先史の時代・古代から中世まで世界の歴史を順に学んでいきます。 ②大学受験を意識した詳細な内容も扱います。	地理的な見方・考え方を活用して、以下のテーマについて課題を追求したり解決する活動を行い学習する。 ①地図や地理情報システムで捉える現代世界 ②国際理解と国際協力 ③持続可能な地域づくりと私たち	①古代から近世のはじめまでを学んでいきます。 ②定期考査の直前に大学入試問題を配布して、自学自習できるようにし、大学受験を意識した内容を学んでいきます。
1年	講座名：歴史総合(必修2)			
	テーマに沿って、世界史と日本史を関連付けて、史資料読み取りや協働学習を通じて学びます。 ①近代化と私たち ②国際秩序の変化や大衆化と私たち ③グローバル化と私たち			

【公民科】 3年間の教科学習の構成

分野	公共	倫理	政治・経済
	講座名：公共（必修2）	講座名：倫理（必修2）	講座名：政治・経済（必修2）
3年	<p>① 公共的な空間をつくる私たち ⇒現代社会と青年の生き方などについて哲学・宗教・科学・芸術など幅広い分野から考えていきます。</p> <p>② 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ⇒現代社会が抱える諸課題について、話し合いまた主張を文章にまとめたりするなど表現や発表の機会を設け考察を深めます。</p> <p>③ 公共的な空間における基本原理 ⇒法の支配と個人の尊重また日本国憲法の基本原理などについて、具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p> <p>④ 現代の民主政治と政治参加の意義 ⇒現代政治のしくみや特徴について具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p> <p>⑤ 現代の経済社会と経済活動のあり方 ⇒現代経済のしくみや特徴について具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p> <p>⑥ 国際社会の動向と日本の役割 ⇒国際政治および国際経済のしくみや特徴について具体例を考察しながら理解を深めていきます。</p>	<p>① 青年期の課題と自己形成 ⇒フロイトの深層心理学や様々な学派の心理学を参考に考えていきます。</p> <p>② 人間としての自覚 ⇒キリスト教や仏教などの源流思想を手掛かりに人間としてのあり方について考察を深めます。</p> <p>③ 日本人としての自覚 ⇒日本の伝統思想を手掛かりに日本人のあり方について理解を深めます。また幕末維新以後の西欧思想と日本人のかかわりについても考察します。</p> <p>④ 現代に生きる人間の倫理 ⇒現代の課題について主に西欧近現代の思想を手掛かりに考えていきます。</p> <p>⑤ 共通テスト倫理、倫政の試験に対応できる基礎力を養います。</p>	<p>① 現代の政治 ⇒民主政治の基本原理や日本国憲法の基本原理など理論的な理解に加え、戦後政治の道のりなど歴史的な歩みについても学習していきます。</p> <p>② 現代の経済 ⇒現代の経済社会を動かしている諸原則諸要因について理論的考察を深めていきます。また戦後日本の経済について歴史的にも理解を深めます。</p> <p>③ 国際政治 ⇒現代の国際政治について歴史的歩みを振り返りながら学習します。平和や人権についての国際社会の努力を学びます。</p> <p>④ 国際経済 ⇒世界経済のあり方について理解を深めるとともにその中における日本の役割についても学習します。</p> <p>⑤ 共通テスト政治・経済、倫政の試験に対応できる基礎力を養います。</p>

【数学科】 3年間の教科学習の構成（数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

分野	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ
3年	講座名： 数学標準演習（文）（文必2） 文系数学演習（ⅡBC）（文必5） 理系数学演習（ⅡBC）（理必5） 数学発展演習（文）（自選2） 数学ⅠA演習（自選2） 数学発展演習（理）（理必2、自選2）	講座名： 数学標準演習（文）（文必2） 文系数学演習（ⅡBC）（文必5） 理系数学演習（ⅡBC）（理必5） 数学発展演習（文）（自選2） 数学ⅡBC演習（自選2） 数学発展演習（理）（理必2、自選2）	講座名： 数学Ⅲ（理必3） 数学ⅢC演習（自選2） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題、章末問題を理解し、解ける。 ②問題演習を通じて公式・定理の深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ③試行錯誤により、問題文から適用できる公式・定理を導き出せるようにする。 ④数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ⑤志望校の過去問題を解けるまで熟達する。
	①問題演習が中心となる。その演習を通じて、公式・定理のさらに深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ②問題文から適用できる公式・定理を早く導き出せるようにする。 ③数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ④志望校の過去問題を解けるまで熟達する。	①問題演習が中心となる。その演習を通じて、公式・定理のさらに深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ②問題文から適用できる公式・定理を早く導き出せるようにする。 ③数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ④志望校の過去問題を解けるまで熟達する。	
2年		講座名：数学Ⅱ（必修3） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題、を理解し、解ける。 ②教科書の章末問題を解ける。 ③数学的思考法を身につける技（注）を積極的に取り組む。	
1年	講座名：数学Ⅰ（必修3） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題を理解し、解ける。 ②教科書の章末問題レベルに対応できる。 ③数学的思考法を身につける技（注）を受け入れる。		

（注）数学的思考法を身につける技は右表の通り。
 数学の問題を解いて困ったら、この順番で考える。

- | |
|--|
| ①条件を図にかいて考える。
②小さな具体例で実験して考える。
③問題文を読み直す。
④2乗する。
⑤必要条件で考える。
⑥逃げる。（解説を見る等） |
|--|

【数学科】 3年間の教科学習の構成（数学A・B・C）

分野	数学A	数学B	数学C
3年	講座名： 数学標準演習（文）（文必2） 文系数学演習（ⅡBC）（文必5） 理系数学演習（ⅡBC）（理必5） 数学発展演習（文）（自選2） 数学ⅠA演習（自選2） 数学発展演習（理）（理必2、自選2）	講座名： 数学標準演習（文）（文必2） 文系数学演習（ⅡBC）（文必5） 理系数学演習（ⅡBC）（理必5） 数学発展演習（文）（自選2） 数学ⅡBC演習（自選2） 数学発展演習（理）（理必2、自選2）	講座名： 数学C（理必2） 数学ⅢC演習（自選2） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題、章末問題を理解し、解ける。 ②問題演習を通じて公式・定理の深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ③試行錯誤により、問題文から適用できる公式・定理を導き出せるようにする。 ④数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ⑤志望校の過去問題を解けるまで熟達する。
	①問題演習が中心となる。その演習を通じて、公式・定理のさらに深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ②問題文から適用できる公式・定理を早く導き出せるようにする。 ③数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ④志望校の過去問題を解けるまで熟達する。	①問題演習が中心となる。その演習を通じて、公式・定理のさらに深いレベルの理解を繰り返し、大学入試問題の本質的な問いにスムーズに対応できるようにする。 ②問題文から適用できる公式・定理を早く導き出せるようにする。 ③数学的思考法を身につける技（注）を内面化する。 ④志望校の過去問題を解けるまで熟達する。	
2年		講座名：数学B（必修2） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題を理解し、解ける。 ②教科書の章末問題を解ける。 ③数学的思考法を身につける技（注）を積極的に取り組む。	講座名：数学C（必修1） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題を理解し、解ける。 ②教科書の章末問題を解ける。 ③数学的思考法を身につける技（注）を積極的に取り組む。
1年	講座名：数学A（必修2） ①定理、公式等の基礎知識を理解・習得し、教科書の例題、応用例題を理解し、解ける。 ②教科書の章末問題レベルに対応できる。 ③数学的思考法を身につける技（注）を受け入れる。		

（注）数学的思考法を身につける技は右表の通り。
 数学の問題を解いて困ったら、この順番で考える。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> ①条件を図にかいて考える。 ②小さな具体例で実験して考える。 ③問題文を読み直す。 ④2乗する。 ⑤必要条件で考える。 ⑥逃げる。（解説を見る等） |
|--|

【理科】 3年間の教科学習の構成（物理・化学）

分野	物理	化学
3年	講座名：物理（理必・自選 4） 講座名：物理探究（必選・自選 2）	講座名：化学基礎演習（自選 1） 講座名：化学探究（必選 4） 講座名：化学探究（自選 4）
	「物理基礎演習」 ・ 共通テスト物理基礎の模擬演習と解説を行う。 「物理」・「物理探究」・「物理演習」 ・ 慣性力、円運動、万有引力、単振動などの力学。電界と電位、コンデンサー、磁界、電磁誘導、交流などの電磁気学。及び熱力学、原子物理について、問題演習を常に取り入れ、授業中に問題に当たっていくことによって、物理学の法則現象を深く理解できるよう学習する。	「化学基礎演習」 ・ 演習では共通テストの模擬演習と解説を行う。 「化学探究」 ・ 反応速度、化学平衡の仕組みを理解し、速度定数や平衡定数を用いた量計算ができる。 ・ 高分子の構造、性質、製法を理解する。 ・ 無機物質の性質や代表的な製法・利用法を理解し、身近な物質を化学的な視野で捉えられる。 ・ 入試に向けた総合的な問題が解ける。
2年	講座名：物理基礎（必選 3）	講座名：化学（必選 4）
	・ 運動の3法則について観察や実験を通して理解する。 ・ 運動方程式の立て方について学習し、斜面上の運動、連結した物体の運動など、さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 ・ 力学的エネルギーの保存について理解する。 ・ 正弦波と波、振幅、波長、周期、振動数、媒質の振動など、波の要素について学習する。 ・ 重ねあわせの原理、波の独立性、定常波、波の反射、固定端反射、自由端反射について学習する。 ・ 摩擦電気を通して電気の原因となる電荷を学習し、静電気力、電流や電圧、オームの法則などについて理解する。	・ 物質の状態やボイルシャルルの法則、状態方程式、分圧を理解し、計算ができる。 ・ 溶液の性質について学び、溶解度、浸透圧、凝固点降下、沸点上昇などの計算ができる。 ・ 反応エンタルピーについて理解しエンタルピー変化について計算できる。 ・ 電池・電気分解の仕組みを理解し量計算ができる。 ・ 有機化合物の構造、性質を理解し、分子構造を決定できる。
1年		講座名：化学基礎（必修 2）
		・ 化学の基礎事項と、実験や観察を通じた探究する能力や態度を身につける。 ・ 原子、分子、イオンなどの基本粒子の構造と、化学結合の仕組みから、物質の性質や特徴を説明できるようになる。 ・ モル概念・濃度計算を身につけ、化学の反応量を計算できるようになる。 ・ 中和反応や酸化還元反応などを、反応に共通の原理から捉えられるようになる。

【理科】 3年間の教科学習の構成（生物・地学）

分野	生物	地学
3年	講座名：生物基礎演習（自選1） 講座名：生物（必選・自選4） 講座名：生物探究（必選2） 講座名：生物演習（自選2）	講座名：地学基礎演習（自選1） 講座名：地学（自選4）
	「生物基礎演習」 ・共通テスト対策を中心に問題演習を行う。 「生物」「生物探究」 ・生命現象と物質、遺伝子、生殖と発生、環境応答、生態系、進化系統の各分野について、生命現象の概念や原理、法則について理解する。 ・様々な実験データをもとに、学習した知識、概念を用いて生命現象について考察することができる。 ・入試に向けた総合的な問題が解ける。 「生物演習」 ・生物の分野について大学入試の過去問題を中心に問題演習を行う。	「地学基礎演習」 ・共通テストに向けて、過去問を中心に、問題演習と解説を行う。 「地学」 ・地学は、2年で学んだ地学基礎をベースに、地球物理学、地質学、気象学、天文学に関する概念や法則性について理解する。ただし、例年希望者が少なく開講できないことが多い。
2年		講座名：地学基礎（必選3）
		・地震・火山・地層・地球の歴史・大気と海洋・天文などの身近な自然現象について、その基本的な概念や原理・法則を理解する。
1年	講座名：生物基礎（必修2）	
	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解する。 ・細胞、代謝、遺伝子、恒常性、生態系など生物学を階層ごとに学び、生物の共通性と多様性について理解する。 ・実験や観察を通して生物学的に探究する能力や態度をもつ。集団の中で協力して課題を解決することができる。 ・光学顕微鏡、マイクロメーター、スケッチ等の生物実験における基本的な器具の使用法や実験技能を習得し、記録に残すことができる。	

【保健体育科】 3年間の教科学習の構成

分野	保健	体育
3年		講座名：体育（必修3）
		<ul style="list-style-type: none"> ① 各種目を通じて基礎的な体力を養う。 ② 各種目に応じた運動技能を養うとともにその種目の特性を理解し工夫して取り組める態度を養う。 ③ 安全に配慮しルールを理解して公平な態度で審判を行える力を養う。 ④ 生涯スポーツに繋がるよう自分たちで工夫し協力しながら企画・運営を出来る力を養う。
2年	講座名：保健（必修1）	講座名：体育（必修2）
	<ul style="list-style-type: none"> ① 生涯の各段階における健康課題を理解し、場面に応じた適切な意思決定と行動選択が出来る力を養う。 ② 社会生活における健康の保持増進のためには、環境・食品・労働にかかわる活動や対策が重要であることを理解し、問題意識をもって取り組める力を養う。 ③ 各単元とSDGsを関連付け学習を進め、環境問題等を深く学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 運動の効果的な学習の仕方について理解する。 ② 各種目を通じて基本的な体力を養う。 ③ 各種目に応じた運動技能を養うとともにその種目の特性を理解し工夫して取り組める態度を養う。 ④ ルールを理解し公平な態度で審判を行える力を養う。
1年	講座名：保健（必修1）	講座名：体育（必修2）
	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本の疾病構造について理解するとともにヘルスプロモーションの考え方を生かし自らの健康を適切に管理することの重要性について理解する。 ② 生活習慣病に関する知識を深め予防に向けた実践が大切であることを理解する。 ③ 精神と身体は密接な関連があることを理解し、自分なりのストレス対処法を身につけることが精神の健康のために重要であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 運動の効果的な学習の仕方について理解する。 ② 各種目を通じて基本的な体力を養う。 ③ 各種目に応じた運動技能を養うとともにその種目の特性を理解し工夫して取り組める態度を養う。 ④ ルールを理解し公平な態度で審判を行える力を養う。



【芸術科】 3年間の教科学習の構成

分野	音楽	美術	書道
3年	講座名：ソルフェージュ演習（自選2）		
	<p>①大学受験に必要なソルフェージュ（旋律・和声聴音や新曲視唱など）の課題に積極的に取り組む。必要に応じ、コールユーブンゲンやコンコーネなどを用い、視唱力向上のための階名唱や母音唱の活動も扱う。</p> <p>②大学受験に必要な音楽理論の学習にも積極的に取り組む。</p>		
1年	講座名：音楽Ⅰ（必選2）	講座名：美術Ⅰ（必選2）	講座名：書道Ⅰ（必選2）
	<p>①表現を工夫しながら、日本語や外国語（英語・イタリア語など）による様々な歌曲が歌えるようになる。また他声部との調和を感じ取りながら、混声四部の合唱曲が歌えるようになる。</p> <p>②箏の基本的な演奏法を身につけ、伝統文化を味わいながら、箏曲の演奏技能を習得する。</p> <p>③リズム読みやリズム打ちを通して、読譜力やリズム感覚を身につける。</p>	<p>①観察表現した手等のモチーフをテーマに画面に配置し、配色計画に基づいて平面構成を制作する。</p> <p>②時代・民族・風土による表現の相違や共通性と美術文化を考えながら、ポスターを制作する。</p> <p>③「身近な生活から」をテーマに、人物や風景をアイデアスケッチし、切り絵で表現する。</p>	<p>①古典の字形や線質の特性を理解し、その用筆・運筆の技法を表現できるようにする。</p> <p>②形式、用具・用材、構成などを工夫し、自分の感性を表現できるようにする。</p> <p>③文字及び書の伝統と文化について、幅広く理解する。</p>

【外国語科】 3年間の教科学習の構成 (CAN-DO リスト)

		MITA CAN-DO List (2025-2026)			
		【卒業時まで身に付ける力】 ・英語の知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力 ・英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度			
CEFR-J	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1~	
Global Scale	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単な日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。	学校や娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。	教科書で取り上げる話題について、関連情報や視覚資料などを十分に活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、目的に応じて概要や要点、詳細を捉えたりすることができる。	教科書で取り上げる話題について、関連情報や視覚資料などを十分に活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、目的に応じて概要や要点、詳細を捉えたりすることができる。	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
Grade	1	2	3	+ α	
Reception	Listening	教科書で取り上げる話題について、関連情報や視覚資料などを十分に活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、目的に応じて概要や要点を捉えたりすることができる。	教科書で取り上げる話題について、関連情報や視覚資料などをある程度活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、目的に応じて概要や要点、詳細を捉えたりすることができる。	教科書で取り上げる話題について、関連情報や視覚資料などをほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、目的に応じて概要や要点、詳細を捉えたりすることができる。	自然な速さの標準的な英語で話されていれば、テレビ番組や映画の母語話者同士の会話の要点を理解でき、話し手の心情や調子などが聞き取れる。 身近なトピックであればまたは話の方向性が明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。
	Reading	教科書で取り上げる話題について、関連情報や視覚資料などを十分に活用すれば、必要な情報を聞き取り、書き手の意図を把握したり、目的に応じて概要や要点を捉えたりすることができる。	教科書で取り上げる話題について、関連情報や視覚資料などをある程度活用すれば、必要な情報を聞き取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、目的に応じて概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。	教科書で取り上げる話題について、関連情報や視覚資料などをほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、目的に応じて概要や要点、詳細を捉えたりすることができる。	現代の問題など一般的な関心の高いトピックを扱った文章を、辞書を使わずに読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。 難しい部分を読み返したり、特定の用語について辞書で調べたりすれば、自分の専門分野の報告書・仕様書・操作マニュアルなどを、詳細に理解することができる。
Speaking	Interaction	教科書で取り上げる話題について、十分な準備時間をとり、多くの資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して伝えたり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。	教科書で取り上げる話題について、一定の準備時間をとり、資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して詳しく話して伝え合い、やり取りを続けたり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができる。	教科書で取り上げる話題について、聞いたことを読み取ったことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝え合い、やり取りを続けて会話を発展させることができる。	ある程度なじみのあるトピックならば、新聞・インターネットで読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる。 母語話者同士の議論に加われないこともあるが、自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論できる。
		教科書で取り上げる話題について、十分な準備時間をとり、多くの資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して話して伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、一定の準備時間をとり、資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、聞いたことを読み取ったことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。	ある視点に賛成または反対の理由や代替案などをあげて、事前に用意されたプレゼンテーションを聴衆の前で流暢に行うことができ、一連の質問にもある程度流暢に対応ができる。
	Presentation	教科書で取り上げる話題について、十分な準備時間をとり、多くの資料を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたことを読み取ったことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して話して伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、一定の準備時間をとり、資料を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたことを読み取ったことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、準備時間や資料を活用しなくても、聞いたことを読み取ったことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができる。	ディベートなどで、そのトピックが関心のある分野のものであれば、論拠を並べ自分の主張を明確に述べるができる。
Production	Presentation	教科書で取り上げる話題について、十分な準備時間をとり、多くの資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して文章を書いて伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、一定の準備時間をとり、資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、準備時間や資料を活用しなくても、聞いたことを読み取ったことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。	社会的な話題であっても、そのトピックについて知っていれば、多くの情報源から統合して情報や議論を整理しながら、それに対する自分の考えの根拠を示しつつ、ある程度の結束性のあるエッセイやレポートなどを、幅広い語彙や複雑な文構造をある程度使って、書くことができる。
		教科書で取り上げる話題について、十分な準備時間をとり、多くの資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、一定の準備時間をとり、資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、準備時間や資料を活用しなくても、聞いたことを読み取ったことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。	
Writing	教科書で取り上げる話題について、十分な準備時間をとり、多くの資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、一定の準備時間をとり、資料を活用すれば、聞いたことを読み取ったことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理的構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。	教科書で取り上げる話題について、準備時間や資料を活用しなくても、聞いたことを読み取ったことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。		

【家庭科】 教科学習の構成

分野	家庭基礎	
1年	講座名：家庭基礎（必修2） 高校家庭科で学ぶ全12領域の内容を8領域にまとめ、各領域で探究的な学習を用いながら展開していく。	
	【衣生活と健康】	衣生活に関する知識と技能を習得すると共に快適な衣生活を営める力を身につける。
	【住生活と住環境】	住生活に必要な知識を習得し適切な住居の計画・管理ができると共に防災や環境に配慮した住生活を工夫する。
	【高齢期の生活と福祉】 【共生社会と福祉】	高齢期の心身の変化を踏まえ、社会保障の成り立ちや現状の課題について理解すると共に高齢期の特徴と社会環境を踏まえ家族や地域社会の果たす重要性を理解する。
	【子供の生活と保育】	子供の心身の発達と特徴について理解を深める。 親になることの責任と重要性を理解するとともに、社会全体で子育てに関わる重要性について考察する。
	【食生活と健康】	食生活に関する知識と技能を習得すると共に健康な食生活を営める力を身につける。
	【青年期の自立と家族・家庭】 【生涯の生活設計】	時代による「家族」の変化を理解する。 多様な生き方を学び、主体的に生活を設計できる力を身につける。
	【生活における経済の計画】 【消費行動と意思決定】 【持続可能なライフスタイルと環境】	家計と社会経済の関連を理解し生涯を見通した管理の重要性を理解する。 消費者の権利と責任について理解を深め、生活情報を収集・管理する力を身につける。 持続可能な社会に向けて主体的に行動できる力を身につける。
	【ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動】	家庭生活を改善しようとする態度を身につけると共に探究的な学びを实践する。ホームプロジェクトおよび学校家庭クラブ活動の意義と実践方法について理解する。

【情報科】教科学習の構成

分野	理論	実習
1年	1年・・・講座名：情報Ⅰ（共通2）	1年・・・講座名：情報Ⅰ（共通2）
	① 情報とは何か、日常生活にどのような影響を与えるのか ② 情報社会がもたらした生活や社会の変化の個人の責任について ③ 被害者にならないために、情報社会の影の部分について ④ 個人情報について ⑤ コンピュータネットワークの仕組みについて ⑥ 情報セキュリティにおける個人や組織の安全対策 ⑦ 知的財産権の概要と産業財産権 ⑧ 著作権およびその利用 ⑨ デジタル情報の特徴 ⑩ アナログからデジタル化 ⑪ デジタル化の各種計算	① コミュニケーションには様々な手段があり、目的や場面に応じて使い分ける手法 ② 問題解決の各種手法 ③ 情報の整理と管理 ④ 分析のための工夫 ⑤ 分析の実際 ⑥ 問題解決の実践 ⑦ プログラミング実習（Python）

教科・科目の学習指導計画

国語科

国語科学習指導計画

教科の学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語を学ぶにあたって

○国語の力とは

国語の力は、全ての教科での「学力」の基礎である。国語ができるようになることとは、言葉によって世界の構造に理解を深め、言葉によって自分の心の世界を広く構築していくことである。教科書の様々な文章に触れ、世界を広げよう。

○授業の受け方

先生の説明を聞きながら、その場で理解して覚えることが、最も効率の良い時間の使い方と言える。必要なことはすべてノートに書こう。ただし必要なこととは、「先生が黒板に書いたこと」のみではない。授業を聴いていて自分なりに「大事だ」と思ったこともノートにとろう。授業を受け、自分なりに復習してすべてが理解できた時点で自然とノートが完成していることを目指そう。そのノートが最大の参考書となる。

○自宅学習

どの科目にも共通していえることは、予習・復習を必ずすることである。予習・復習は、自分で取り組むことが肝心である。重要と思われる箇所に線を引いたり、知らない語句の意味を辞典で調べて書いたりする積み重ねが大事である。

○読書のすすめ

本を読もう。一人の人間が体験できることには限りがある。他者の知識や経験を書籍から学ぶことは生きていく上で大切な知恵である。また、将来、どのような学問を専攻するにしても、文献や資料を精読することが基本となる。読書習慣のある人間はどんな分野でも能力を発揮することができる。何よりも読書は楽しい。自分の知識が増えるのも楽しい。まずは好きな本から初めて、色々なジャンルの本に挑戦してみよう。

○各科目の概要及び使用教科書等

科目	学年	履修	単位	使用教科書 (出版社)	主要補助教材 (出版社)
現代の国語	1	共通	2	現代の国語 (筑摩書房)	新国語総合ガイド六訂版 (啓隆社) 重要漢字コレクション 2800 改訂版 (啓隆社) 読解評論文キーワード改訂版 (筑摩書房) ちくま評論入門二訂版 (筑摩書房) 現代文長文記述問題集1 読解力習得編改訂版 (いっずな書店)
言語文化	1	共通	3	精選言語文化 (三省堂)	読解をたいせつにする体系古典文法九訂版 (数研出版) 読解をたいせつにする体系古典文法準拠ノート四訂版 (数研出版) Key&Point 古文単語 330 四訂版 (いっずな書店) 読んで見て覚える古文攻略マスタアイテム76 (桐原書店) 必携新明説漢文新装二版 (尚文出版) L T 古文1 (浜島書店) 文法メソッド1・2 (浜島書店) 新訂増補基本セミナー漢文入門 (浜島書店)
現代文探究 I	2	共通	2	論理国語・文学国語 (筑摩書房)	重要漢字コレクション 2800 改訂版 (啓隆社) 現代文長文記述問題集2 (いっずな書店) 新しい第3の現代文集中完答11 (尚文出版)
古典探究	2	共通	3	精選古典探究 古文編・漢文編 (三省堂)	読解をたいせつにする体系古典文法九訂版 (数研出版) Key&Point 古文単語 330 四訂版 (いっずな書店) 読んで見て覚える古文攻略マスタアイテム76 (桐原書店) L T 古文2 (浜島書店) 新版まぎらわしい語の識別マスターノート (数研出版) 五訂版漢文必携 (桐原書店) 改訂版漢文重要語マスターノート (数研出版) 改訂版漢文句法マスターノート (数研出版) ルート漢文2 (啓隆社)
現代文探究 II	3	共通	2	論理国語・文学国語 (数研出版)	国語頻出問題 1200 四訂版 (いっずな書店) 現代文長文記述問題集3 入試必修編三訂版 (いっずな書店) 現代文共通テスト+センター試験国語過去問題 (いっずな書店)
古典探究・発展	3	必選	4	精選古典探究 (三省堂)	完成古典 (古文・漢文) 大学入学共通テスト対策 改訂版 (尚文出版) 短期集中シリーズ和歌 国語頻出問題 1200 四訂版 (いっずな書店) 古典共通テスト+センター試験国語過去問題 (いっずな書店)
現代文演習	3	自選	2		論読 現代文3 (浜島書店)
古文演習	3	自選	2		改訂版プログレス古文総演習発展編 (いっずな書店)
漢文演習	3	自選	2		改訂版プログレス漢文総演習発展編 (いっずな書店)
理系古典演習	3	自選	2		(三訂版) 共通テスト対策 古典完答22 (尚文出版)

現代の国語

年間授業計画

科目	現代の国語	履修	必修	学年	1	単位	2 単位
講座名	現代の国語						
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 振返りシートを回収し、その記事内容に基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 提出物の内容を評価する。 				

現代の国語の学び方

		学習の単元	学習の内容
一学期	月	話す・聞く	○いろいろな出来事をひとつのことばで表現してみよう 「境目」(川上弘美) ○具体例や比喻から抽象的な考えを読み取ろう 「ことばとは何か」(内田樹) ○重要語などをおさえながら現代社会の特徴を読み取ろう 「デジタル社会」(黒崎政男) ○書く力を伸ばそう ・「贅沢の条件」(山田登世子) 〈二項対立〉 ・「瓦を解かないこと」(堀江敏幸) 〈ことばのもつイメージ〉
	4	読む	
	5		
	6		
時間	7		
24			
二学期	9	読む	○エピソードを効果的に使おう 「マルジャーナの知恵」(岩井克人) ○評論文の要約をしてみよう 「魔術化する科学技術」(若林幹夫) ○リスク社会について読解し、自分にできることを考えよう 「リスクと近代社会」(大澤真幸) ○話す・聞く力を伸ばそう ・「ポスト真実時代のジャーナリズム」(国谷裕子) 〈他の言葉を見つめる〉 ・「会話と対話」(長田弘) 〈異なる立場の人と話し合ってみよう〉 ・「記憶する体」(伊藤亜紗) 〈他者の言葉に耳を傾ける〉
	10	読む	
	11	読む	
	12	話す・聞く	
時間			
28			
三学期	1	読む	○ことばの意味を吟味しよう 「開かれた文化」(岡真理) ○抽象的な概念を理解しよう 「身体、この遠きもの」(鷺田清一) ○書く力を伸ばそう ・「来るべき民主主義」(國分功一郎) 〈他者の言葉を踏まえて論じる〉 ・「主体という物語」(小坂井敏晶) 〈自説を支える根拠を示す〉 【言語活動】上記の2つの文章の〈課題〉に基づき、詩歌を論じる
	2	読む	
		書く	
時間			
18			

現代の国語の目標は、日本語を読み、日本語を書き、日本語を聞き、日本語を話すことを通して、自分の視野を広げ、新しい認識を獲得することである。これらの諸活動は、まず、文章を読むことから始まる。常に問いを持ちながら本文と向き合い、筆者の伝えたいこと(問題意識)や、論の構造をつかむことをまず目指したい。

授業においては、ただ板書を写すだけといった受け身の姿勢は許容されない。新たな認識の獲得を目指して、常に自分の頭で考え続けようとする姿勢が求められる。必要なところはすべてノートに書き、ペアやグループにおける意見交換、クラス内での発表等の活動にも意欲的に取り組むべきである。

また、試験においては、出題者の意図を読み取ることが求められる。出題者が、何をどのように答えさせようとしているのかを見抜く力を身に付けたい。

最後に、学ぶ意義や目的を常に問い、試行錯誤のある学びをしてほしい。思想なき学びに意味はない。

言語文化

年間授業計画

科目	言語文化	履修	必修	学年	1	単位	3単位
講座名	言語文化						
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 振り返りシートを回収し、その記事内容に基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 提出物の内容を評価する。 				

言語文化の学び方

		学習の単元	学習の内容
一 学 期	月	古文入門〈古文〉	児のそら寝（宇治拾遺物語） 絵仏師良秀（宇治拾遺物語）
	4	漢文入門〈漢文〉	漢文の基本構造と訓読
	5	随筆〈古文〉	徒然草（ある人、弓射ることを習ふに・丹波に出雲といふ所あり）
	6	故事成語〈漢文〉	借虎威（戦国策） 推敲（唐詩紀事）
時間			
36	7	詩、短歌〈現代文〉	【言語活動】短歌を詠む
二 学 期	9	物語〈古文〉	芥川・東下り（伊勢物語）
	10	史話〈漢文〉	先従隗始 臥薪嘗胆
	11	小説『羅生門』	
	時間	12	日記〈古文〉
42	和歌〈古文〉 漢詩〈漢文〉	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 四季・望郷・友情 【言語活動】和歌の修辞や漢詩のきまりを調べて発表する	
三 学 期	1	軍記〈古文〉	木曾の最期（平家物語）
	時間	文章〈漢文〉	雑説
	2	思想〈漢文〉	学問・人間・政治（論語）
27	俳句〈現代文〉	【言語活動】俳句を詠む	

言語文化の目標は、言語活動を通して国語の的確な理解と表現ができるようにすることである。古典から現代まで幅広い知識や技能を身に付けることで論理的に考える力や想像力を養い、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を育むことを目指したい。

授業においては、ただ板書を写すだけといった受け身の姿勢は許容されない。新たな認識の獲得を目指して、常に自分の頭で考え続けようとする姿勢が求められる。必要なところはすべてノートに書き、ペアやグループにおける意見交換、クラス内での発表等の活動にも意欲的に取り組むべきである。

また、試験においては、出題者の意図を読み取ることが求められる。出題者が、何をどのように答えさせようとしているのかを見抜く力を身に付けたい。

最後に、学びの意義や目的を常に問い、試行錯誤のある学びをしてほしい。思想なき学びに意味はない。

現代文探究 I (2 学年)

年間授業計画

科目	現代文探究 I	履修	必修	学年	2	単位	2 単位
講座名	現代文探究 I						
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。また、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。これらの資質・能力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価規準	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 (2) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。また、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。これらの資質・能力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・ ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・ 振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・ 提出物の内容を評価する。 				

現代文探究の学び方

		学習の単元	学習の内容
一 学 期	月		
	4	【論理的文章】 架橋することば	○人と世界を結ぶことばの働きを理解する 「アイオワの玉葱」(長田弘)
	5	日常の中の論点	○身近な物事を分析し、その仕組みをとらえる 「ファッションの現象学」(河野哲也)
	6	【文学的文章】 物語との出会い	○小説から情景や心情を読み取る 「山月記」(中島敦) +「人虎伝」〈漢文〉
時間			
24	7		
二 学 期	9	【論理的文章】 「私」のいる場所	○偏見や先入観にとらわれない議論のあり方を考える 「デジタル化される世界」(オリヴィエ・レイ)
	10	変貌する時代、変貌する人間	○ことばと社会の関係を意識する 「人新世における人間」(吉川浩満)
	11	世界を視る位置	○多面的な視点から文章を捉える 「ファンタジー・ワールドの誕生」(今福龍太)
	12	【文学的文章】 自己と向き合う	○「自己」を追い求める近代の特色について考える 「こころ」(夏目漱石)
時間			
28			
三 学 期	1	【論理的文章】 〈伝統〉を見つめ直す	○伝統を扱った文章を読み、書く力を鍛える 「模倣」と「なぞり」(尼ヶ崎彬)
	2	現代という課題	○日常にひそむ問題を見つけ出す 「トリアージ社会」(舟木亨)
	3	〈私〉をひらくために	○視野を広げ、自身の考えを見直す 「『である』ことと『する』こと」(丸山真男)
	時間		
18	【文学的文章】 思考の道筋をたどる	○柔軟に思考するための新鮮な着眼点を探る 「文学の仕事」(加藤周一)	

1、様々な、時には思いがけない切り口でそれを示してくれる文章と格闘し、筋道立てて読み取る力、考える力、正しく明確な日本語で表現する力、それを支える語彙の力を身につけよう。そして既知だったはずのことが、実は未知であったことを知る喜びを、たくさん味わってほしい。授業で「教わる」だけでなく、指定の問題集等に主体的に取り組むことを含め、多くの文章を読むことが力になる。

2、高校の「国語」の授業で小説を学ぶのは、表現された虚構の構造や叙述から、人物、情景、心情などを的確に捉える技術を養い、描写の妙を味わう力を磨くことで、言語によって描き出された世界が示してくれる真実を受け取れるようにするためだ。優れた小説は、読むたびに新たな真実を提示してくれる。それは、時に小説家自身に明白には意識されないままに表現されたものである可能性もある。高校の「国語」の学習では、小説家の意図を探るのではなく、言語による表現からその作品を読み解くのである。

◎古典探究と同様、文章の世界観を想像し、味わうことが大切である。

古典探究（2 学年）

年間授業計画

科目	古典探究	履修	必修	学年	4	単位	2 単位
講座名	古典探究						
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・ ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・ 振り返りシートを回収し、その記事内容に基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・ 提出物の内容を評価する。 				

古典探究の学び方

		学習の単元		学習の内容	
	月	古文	漢文	古文	漢文
一 学 期	4	・説話	・故事成語	・古今著聞集「大江山」	・歴史名画記「画竜点睛」 ・淮南子「塞翁馬」
	5	・物語	・小説	・竹取物語「かぐや姫の昇天」 ・伊勢物語「初冠」	・搜神記「売鬼」
	6	・随筆		・枕草子「雪のいと高う降りたるを」 ・方丈記「ゆく河の流れ」	
時間					
36	7				
二 学 期	9	・日記	・史伝	・更級日記「あこがれ」 ・更級日記「源氏の五十余巻」	・史記「鴻門之会」
	10	・物語		・源氏物語「光源氏の誕生」 (桐壺)	・史記「四面楚歌」
	11			・源氏物語「北山の垣間見」 (若紫)	
	12		・漢詩		・漢詩(近体詩) 王維「鹿柴」 李白「送友人」 杜甫「登高」
時間					
42					
三 学 期	1	・物語	・思想	・大鏡「花山天皇の出家」	・道家、法家の思想 老子「大道廢、有仁義」 莊子「曳尾於塗中」 韓非子「聖人不期修古」
	2			・大鏡「弓争ひ」	
	時間				
27	3				

古文を学ぶ上で押さえるべきポイントは大きく3つある。

- 1、現代語と意味の異なる古文単語
- 2、助動詞・助詞・敬語などの古文文法
- 3、文章読解を通して培う古文常識

漢文を学ぶ上で押さえるべきポイントは大きく4つある。

- 1、漢文の文章構造
- 2、漢文の重要単語と重要助字
- 3、反語や使役といった重要句形
- 4、文章読解を通して培う漢文常識

◎現代文探究と同様、古典の世界観を想像し、味わうことが大切である。

現代文探究Ⅱ

年間授業計画

科目	現代文探究Ⅱ	履修	必修	学年	2	単位	2単位
講座名	現代文探究Ⅱ						
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p>	<p>論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。また、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。これらの資質・能力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p>	<p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
評価規準	<p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>(2) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。</p>	<p>論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。また、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。これらの資質・能力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p>	<p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・振り返りシートを回収し、その記事内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・提出物の内容を評価する。 				

現代文探究Ⅱ（3学年）

学習目標

近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書し表現することによって人生を豊かにする態度を養う。論理的な文章については、論理の展開や要旨を的確に捉える力を、文学的な文章については、人物像、心情の変化を的確に捉え、表現を味わう態度を養う。また、「話すこと・聞くこと」の総合的な力を養う。

3学年現代文探究Ⅱ年間授業計画

科目	現代文探究Ⅱ	履修	必修	学年	3	単位	2単位
講座名	現代文探究Ⅱ						
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明的な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に押さえ、書き手の意図を捉える力を向上させる。 ・ 文章を読んで、人間、社会、自然について考えを深めさせる。 ・ 文学的な文章において、人物、情景、心情の描写を的確に捉え、表現を味わう力を向上させる。 ・ 目的や課題に応じて、様々な情報を収集、分析し、自分の考えを効果的に表現する力を向上させる。 						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	4	(評論) 「いき」の美学 (尼崎彬) (小説) 舞姫 (森鷗外) + 須賀敦子『父の鷗外』	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「表」と「裏」の二重構造によって想像力で生み出される美の魅力、目の前に明らかには見えていない風景や人の心情を想像させる「いき」の美意識について考える。 ・ 近代文学の始まりに位置する作品を読むことを通して、近代社会に生きる人間が置かれた状況とその葛藤について理解し、人間・社会について考えを深める。 				
	5						
	6						
時間	7						
24							
二学期	9	(評論) メディアのテロル (評論) 意志と選択 (國分功一郎)	<ul style="list-style-type: none"> ・ メディアの隆盛によって、人が失ったものの根本的なところを「経験の崩壊」と言い当て、時間感覚や空間感覚の変容として説明づけている。メディアに触れないわけにはいかない現代、どのように活用していくべきか考える。 ・ 言葉の概念をきちんと言語化すると問題が浮き出てくることに気づく。その上で「意志」「選択」「責任」「意識」といった複雑に絡み合う言葉を整理し、考察を深める。 				
	10						
	11						
時間	12						
28	(入試問題演習) ・ 大学入試模擬問題・過去問題演習。主として「大学入学共通テスト」を意識して、模擬問題や対策として使える入試過去問題を、演習形式で解く。						
三学期	1	特別時間割	様々な入試問題を解くことで、問題に対する取り組み方を学ぶ。				
	2						
	3						
時間							
18							

現代文探究Ⅱ学習の留意点

○語彙力

現代文探究Ⅱの学習で、まず、必要なのは語彙力である。

評論などで使われる重要語については、必ず辞書や『読解評論文キーワード』等で確認し、意味・用法をしっかりとわかるようにしておこう。語彙力がつければ、今までわからなかった文章が理解できるようになり、自分の世界観がより広がることを自覚できることと思う。

また、漢字は依然として手で書けることが要求されている。問題集などで繰り返し練習しよう。

○読解力

評論においては、論理の展開をしっかりとつかみ、筆者の主張をしっかりと捉えることが必要になる。教科書や問題集の評論は完全に理解できるまで何回でも読み直そう。また日ごろから、テレビ・新聞・ネット等のニュースなどを通じて、評論が現代社会のどんな問題を反映しているのかを知っておこう。更に、そのような社会問題に対して自分なりに意見を持つことが、小論文を書く時に役立つ。

また、紙に書かれたたくさんの文字を読む機会が最近では少なくなっているため、読書や問題演習を通じて読解のトレーニングを積むことが望ましい。

小説においては、情景や会話から登場人物の心情を捉えることが重要である。読解のヒントは、必ずその小説の描写の中にある。一人よがりの解釈にならないように気をつけよう。

○表現力

小論文などを書くための基礎として、語彙力・読解力の養成は不可欠だが、それを踏まえた上で頭の中にある思考をアウト・プットして実際に書く練習を積み重ねることが必須である。また、書いたものは必ず読み返し、場合によっては先生に読んでもらい、完成度が高くなるまで何度も推敲を重ねることが肝要である。

* 「現代文探究Ⅱ」の学習では、入試のためにだけ、文章を読むのではない。自分の世界を広げ、深めるために、評論や小説を読んでいこう。

これから求められる国語の力

経済効率や生産性を重視する現在の社会状況の中で、それらに直接寄与しないと思われがちで「国語」や「文学」という学問は、不用なものと思われがちです。

けれども、人間が意思決定する時、その判断に大きく影響を与えるのは、実は「理性」ではなくて「感情」の方なのだということが最近の脳科学や進化心理学などによってわかってきました。

そして、人間は主として言語によるコミュニケーションによって他者との意思の疎通を図ります。従って、言葉の扱い方が時に人の意思決定を左右することも起こりうるということです。

相手との直接のコンタクトを持つことが少なくなっているネットの時代だからこそ、数値では測れない相手の感情を文章から正確に読み取り、こちらの気持ちを正確に文章で伝えることがより重要になってきていると言えます。

そしてそういった、社会で人間生活を送る上で必要不可欠な能力を磨く学問こそが、「国語」であり「文学」であるのです。

古典探究・発展

年間授業計画

科目	古典探究・発展	履修	必修選択	学年	4	単位	2単位
講座名	古典探究・発展						
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。				
評価方法	行動観察、小テスト、定期考査 ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、ノート、定期考査 ・学習への取組の様子や発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、振り返りシート、小テスト、提出物の取組 ・学習への取組の様子、発言の内容、ノートの記事内容などに基づいて評価する。 ・振り返りシートを回収し、その記事内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・提出物の内容を評価する。				

古典探究・発展（3学年）

学習目標

古典を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

3 学年古典年間授業計画

科目	古典探究・発展		履修	文系必修	学年	3	単位	4 単位
講座名	古典探究・発展							
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典を読む力を養うとともに、ものの見方、考え方、感じ方を豊かにする態度を育てる。 ・ 入試に対応できる実践的な力を身につける。 							
	学習の単元			学習の内容				
	月	古文	漢文	古文		漢文		
一 学 期	4	随筆	小話	・ 宮に初めて参りたるころ（枕草子）		・ 不顧後患（説苑）		
	5 6 7	日記	史伝	・ うつろひたる菊（蜻蛉日記）		・ 完璧帰趙（史記）		
		日記	漢詩	・ 夢よりもはかなき世の中 （和泉式部日記）		・ 桃夭（詩経） ・ 兵車行（杜甫） （・長恨歌）		
		日記	小説	・ 和泉式部と清少納言（紫式部日記） + 平安時代の文学—女性と仮名		・ 人面桃花（孟榮） ・ 酒虫（蒲松齡）		
時間	48	問題演習	問題演習	・ 問題演習		・ 問題演習		
二 学 期	9	物語	思想	・ 心づくしの秋風〔須磨〕（源氏物語）		・ 愚公移山（列子）		
	10	評論	文章	・ 深草の里（無名抄）		・ 捕蛇者説（柳宗元）		
		物語	文章	・ 道真と時平（大鏡） + 日本三大怨霊		・ 赤壁賦（蘇軾）		
	時間	56	入試問題演習	入試問題演習	・ 入試問題演習		・ 入試問題演習	
三 学 期	1	特別時間割	特別時間割	・ 大学入試問題の過去問題を使った演習		大学入試問題の過去問題を使った演習		
	2							
	時間	36						

古典探究・発展学習の留意点

○古文

最終的には、自力で、古文を読み通すことができる力を身につけてほしい。予習、復習は欠かせない。それには、まず、音読し、全体の内容をおおまかに把握することが大切である。そして、読み進めるにつれて、さらに正確な内容がつかめるようにしたい。

内容を読み取る時に、まちがった方向に読み進めることがないようにするには、次の四点が必要である。

① 文法

文法で押さえておきたいのは、用言の活用、助動詞の意味・活用・接続、敬語である。用言の活用をしっかりと覚えれば、助動詞の接続がわかるようになる。接続がわかるようになれば、助動詞の意味や識別ができるようになるので、これらは密接な関係にある。

また、敬語は、敬語の種類、敬意の方向、訳し方をしっかりと押さえよう。それによって、登場人物の人間関係、主語、働きかける対象がわかってくる。

② 語彙力

意味のわかる古語をふやすことによって、まちがった方向で解釈するリスクは減ってくる。語彙力を増やすには、日ごろから、わからない古語があったら、辞書を引くこと。その際には、例文を確認して、文脈に最もよく合う意味を見つけよう。入試で出てくる古語の意味は文脈の中で問われることが多い。教科書の教材の予習の時から、多くの意味の中でどれが最適か、いつも考えるようにしよう。

また、語源を押さえておくと、多くの意味の中で核となる意味を押さえることができる。

③ 登場人物の関係・主語・動作の対象の把握

古文では、主語や動作の対象が省略されている場合が多い。また、一文が、現代文よりも長く、途中で主語が変わることも多い。文脈をつかむには、その文の主語が何か、会話の話し手、聞き手が誰かに注意しながら読み進める。挿入句も多いので、主語に対しての述語が何か、きちんと押さえると間違えることが少なくなる。その際に、敬語を理解しておけば、主語や述語が押さえやすい。

④ 古文の世界の知識

その作品の書かれた時代についての知識、その作品の文学史上の位置がわかっていると、内容把握の手助けになる。

○漢文

漢文は、訓読できることがまず、大事である、白文でも、書き下し文にできるようになると良い。なぜなら、訓読は、句法、古文の文法、漢文の構成がきちんとわかっていないとできないからだ。そのためには、漢文も、日ごろから予習、復習が必要だ。書き下し文はもちろん、書いておくこと。更に、漢和辞典、参考書を活用しながら、自分で現代語訳を考えて書いてくること。

授業後は、その日に習った句法を問題集や暗唱プリントで復習し、同じ句法を使った問題を解いておくと定着する。

文章の内容については、筆者の主張を押さえること。また、史話の場合は、登場人物の関係を把握すること。また、寓話では、筆者はたとえによって、何を伝えたかったかをつかもう。

そして句法音読プリントを、できるだけ白文で、何度も音読し、かつ訳せるようにしておくことをお勧めする。

地理歴史科

地理歴史科学習指導計画

教科の学習目標

地歴科の学習目標は、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養うことにあります。グローバル化がますます進む社会ですが、そうした国際社会の中で日本は平和で民主的な国家として主体的に活動してきました。そのような日本国民として必要な自覚と資質を身につけること、それが地歴科の目標です。

日本国民として必要な自覚と資質とは何か。答えは簡単ではありません。しかし、この日本という国やグローバル化の進む世界がどのように形成されてきたかという歴史的過程や生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深めることは、この自覚と資質に深くかかわることになります。

そのために、本校では必修科目として「歴史総合」・「地理総合」、選択科目として「日本史探究／世界史探究／地理探究」を設置しています。

一年次の新課程「歴史総合」では、近現代史を中心として、日本と世界の歴史を関連付けて、さまざまな史資料を活用し、地理的条件なども踏まえて理解を深め、現代社会の抱える諸課題を歴史的観点から考察していきます。それによって、歴史的思考力が培われ、この科目においても、グローバル化の進む国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養っていきます。

二年次の「世界史探究」を選択する人は、「世界史探究」を通じて、世界の歴史の大きな枠組みと展開をさまざまな資料から学び、地理的条件や日本の歴史との関連も意識しながら、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察していきます。これによって、歴史的思考力はさらに洗練され、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質も充実したものになるのです。

二年次の「日本史探究」では、日本の歴史の展開をさまざまな資料に基づき、さらに地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することで、日本の伝統と文化の特色についての認識を深め、歴史的思考力を発展させていきます。それが、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質をますます実のあるものにしていきます。新課程の生徒は、二年次に「地理総合」を必修として、「日本史探究」と「世界史探究」の選択があります。

三年次では「世界史探究」「日本史探究」のいずれかを選択することで、二年生までに育んだ国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を主権者という意識とともに、社会に出る人間としての資質にまで高めていきます。いずれも学ぶことは容易ではありません。膨大な情報量につぶされそうに感じることもあるでしょう。しかし、それらの情報を教養として身につけない人間は社会に出て、尊敬される人間にはなり得ません。「必履修だから」という消極的な理由ではなく、社会人として必要な教養を身につけるという意欲を持って、深く学んでほしいと私たちは考えます。

科目	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
歴史総合	1	必修	2	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社）	
地理総合	2	必修	2	地理総合 世界に学び地域へつなぐ（二宮書店）	詳解現代地図 最新版（二宮書店） 新詳地理資料 COMPLETE2023（帝国書院）
世界史探究	2	文必	4	世界史探究（実教出版）	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）
日本史探究	2	文必	4	詳説日本史探究（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 新詳述日本史史料集（実教出版）
世界史探究Ⅱ	3	文必	5	世界史探究（実教出版）	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）
世界史演習	3	文必	2	世界史探究（実教出版）	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）
日本史探究Ⅱ	3	文必	5	詳説日本史探究（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 新詳述日本史史料集（実教出版）
日本史演習	3	文必	2	詳説日本史探究（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 新詳述日本史史料集（実教出版）

地歴を学ぶにあたって

○学習上の留意点

教科の学習目標にも書きましたが、地歴科の科目は国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を身につけることが目標です。入試に必要な不必要、また理系文系という狭い視野にとらわれず幅広い視野から学んでもらいたいと思います。

学び方については、歴史と地理で異なります。歴史はストーリーになっています。壮大なストーリーの流れとつながりを学び、最終的には記憶に残していく作業になります。暗記は苦手という人も多いですが、①インパクトをつけることと、②繰り返すことを念頭に努力を重ねてみてください。日に日に手ごたえを感じるはずですよ。

地理は歴史と学習方法が異なります。日々の授業で基本事項を確実に身につけることは歴史と変わりませんが、地図帳や『地理用語集』を手元に準備してこまめに見る習慣をつけることが大切です。地理には「自然地理」分野と「地誌」の分野がありますが、「自然地理」分野である世界の大地形や世界の気候、土壌、農業分野などを基礎とし、その上に鉱工業・資源エネルギー分野や「地誌」を学習していくような手順も大切です。

教科の学習目標にもあるように、歴史も地理も、社会人になったときに身につけていなければならない教養です。国際社会に主体的に生きる日本人となれるよう、受験にあるなしにかかわらず、しっかりと学習しましょう。

○授業の受け方

授業で学びながら身につけることが最も理想的な地歴の学習法です。そのためには、関心をもって主体的に学ぶ姿勢が大切です。学ぶことが楽しいと感じる一時であって欲しいと思いますし、私たち教員もみなさんが興味をもてる授業に努めます。

ただ、ノートをとるばかりでなく、学んだ内容について自分で考え、意見を持ち、時には積極的な発言や発表も求められます。みなさんの意欲的な参加を求めます。

○歴史的・地理的な思考力を養おう

授業だけでなく、歴史や地理は日常生活に深くかかわっています。日々のニュースで流れる世界各地で起こっている出来事について目にしたときに、その国はどこにあるのか、どのような気候なのか、どんな歴史を歩んできたのか、なぜその出来事が起きているのか、様々な疑問がわいてきます。旅行先でも、この寺院はどのような由来があるのかとか、あの木に実っているのは何の実なのだろうとか、さまざまな興味が生まれてきます。

何気ない日々の関心が、歴史や地理の学習につながります。日々、アンテナを張って過ごしてほしいと思います。

日々精進なり



歴史総合

歴史総合 年間授業計画

科目	歴史総合		履修	必修			学年	1	単位	2単位
講座名	歴史総合		担当							
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。		近現代史を中心とする世界と日本の歴史から課題を見出し、史資料を活用して多面的・多角的に考察する。			近現代史を中心とする世界と日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究する。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。 知識を適切に表現できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の歴史から課題を見出し、史資料を活用して多面的・多角的に考察している。 国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 			<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究している。 国際社会に主体的に生きる社会の一員としての責任を果たそうとしている。 				
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査			振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表				
月	学習の単元		学習の内容							
一 学 期	4	(1) 近代化と私たち	資料をもとに、近代化にともなう人々の生活や社会の変化について考え、疑問に思う点などをまとめて、問いを表現する。(例) 交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民 【関連する歴史的事象】 ①結びつく世界 ・オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国、明の朝貢体制、幕藩体制下の日本、琉球とアイヌ、主権国家体制の形成、宗教改革、ヨーロッパ人の海外進出など ②近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命、ナポレオン時代、ウィーン体制、自由主義、ナショナリズム、1848年革命、ドイツの統一、ロシアの近代化、アメリカ合衆国の拡大、帝国主義、インド・東南アジアの植民地化、アヘン戦争、ペリーの来航など ③明治維新と日本の立憲体制 ・新政府の発足、四民平等への諸改革、自由民権運動の展開、立憲体制成立など ④帝国主義の展開とアジア ・条約改正、日清戦争、日本の産業革命、帝国主義、アフリカの植民地化、列強の中国進出と変法運動、日露戦争、辛亥革命、インド東南アジアの民族運動など							
		①結びつく世界								
時間	5	②近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立								
		③明治維新と日本の立憲体制								
24	6	④帝国主義の展開とアジア								
		7								
二 学 期	9	(2) 国際秩序の変化や大衆化と私たち	資料をもとに、国際秩序の変化や大衆化にともなう人々の生活や社会の変化について考え、疑問に思う点などをまとめて、問いを表現する。(例) 国際関係の緊密化、米国とソ連の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化 【関連する歴史的事象】 ⑤第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦の開戦、総力戦、日本の参戦、戦時外交と米国の参戦、ロシア革命、日本のシベリア出兵、パリ講和会議と国際連盟の成立、ワシントン会議、東アジア・インド・東南アジア・アフリカの民族運動、大衆消費社会の到来、日本の大衆文化と消費文化、大正政変と普通選挙運動、普通選挙法と治安維持法など							
		⑤第一次世界大戦と大衆社会								
時間	10	⑥経済危機と第二次世界大戦								
		⑦戦後の国際秩序と日本の改革								
28	10									

	11		ど
	12		<p>⑥経済危機と第二次世界大戦 世界恐慌の発生、米国のニューディール、ソ連の社会主義、ファシズム体制の広がり、ドイツのナチズム、政党内閣と金融恐慌、満州事変、二・二六事件、二中戦争、第二次世界大戦の開戦、三国同盟、独ソ戦、日米交渉と太平洋戦争など</p> <p>⑦戦後の国際秩序と日本の改革 冷戦のはじまり、東南アジア・南アジアの独立、パレスチナ戦争、終戦処理と戦犯裁判、新憲法制定と民主化、占領政策の転換と朝鮮戦争、平和条約の締結、日米安保条約の締結など</p>
三 学 期	1	(3) グローバル化と私たち ⑧冷戦と世界経済	資料をもとに、グローバル化にともなう人々の生活や社会の変化について考え、疑問に思う点などをまとめて、問いを表現する。(例) 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存
	時間	2	⑨グローバル化する世界
		3	⑩現代の課題
18			<p>【関連する歴史的事象】</p> <p>⑧冷戦と世界経済 集団防衛体制の構築、核開発競争、雪どけ、ヨーロッパ統合、第三世界の連携、アフリカ諸国の独立、中東戦争、日本社会党の統一と保守合同、日本の国際社会復帰、沖縄返還、高度経済成長、消費の拡大と流通の変容、キューバ危機、核軍縮、中ソ対立と中国の混乱、ベトナム戦争、ドル＝ショック、石油危機、開発独裁とアジアの経済発展、プラザ合意、民営化と規制緩和など</p> <p>⑨グローバル化する世界 ソ連の行き詰まり、新思考外交、イラン＝イスラーム革命、湾岸戦争、ソ連崩壊、ユーゴスラヴィア紛争、経済のグローバル化、開発途上国の民主化と独裁政権の動揺、中国の民主化問題、中東の紛争、アフリカの紛争、55年体制の崩壊、バブル経済の崩壊、21世紀の日本政治など</p> <p>⑩現代の課題 グローバル化がもたらす問題、人権問題、自然環境問題、情報化社会、人口減少社会の到来、原子力発電と自然災害、現在の日本とこれからの日本など</p>
講習		特になし。	

歴史総合の学び方

○学習の留意点

歴史総合は、世界と日本の歴史の大きな枠組みと展開を、近現代史を中心に学ぶ科目です。現代の世界は、国々や諸地域が緊密に結び付き、相互の関係を深め、また激しく変化しています。そうした中で、現代世界の基本的な構造とその変動について、歴史的観点から把握しようとするねらいがあります。

地球的・人類的規模の課題の解決が要求されつつある現代世界において、学習内容が単なる文明や国家ごとの通史の羅列となることのないよう、歴史的事象の因果関係について動的・構造的に把握できるよう意識づけしていきます。

歴史総合は近現代史を重点的に学習する科目となっているため、一年生で履修する歴史総合では古代・中世については学習しません。近代から一年間しっかり学習することにより、多くの受験生が手薄になりがちな近現代史について高校三年間で余裕を持って取り組むことができます。

○授業の受け方について

歴史総合の授業は、近現代から授業がスタートするということと、中学校で十分な下地がないまま世界史についても習い始めるということで、まず馴染みの無いカタカナに困惑してしまうこともあるかもしれません。また、「社会は暗記科目だから歴史総合も丸暗記でなんとかなる！」と思っている人もいることでしょう。しかし、単に年号を覚え、人物や事件の名前を覚えるだけの作業に意味はありません。今を理解するためには、なぜ今の世界になったのか、歴史をさかのぼって知ることによって見えてくるものが多いです。歴史総合を学習することがすなわち、現代を見つめる視座を養うことになるでしょう。今を知るために過去に目を向け、過去を知ることによってこれからの世界や生き方について、考えを深めてもらえたら幸いです。

○家庭学習について

歴史総合は、テーマに基づいて自ら問いを設定し、個人及びグループでの調べ学習や協働学習、発表なども実施します。常に自宅学習課題がある、というわけではありませんが、必要時には発表に向けた準備も必要です。また、授業で学んだ知識の定着には、復習が何よりも大切です。中間考査や期末考査は、その成果を発揮する機会として、目標をもって臨みましょう。

○受験対応について

歴史総合は、国公立入試の一次試験にあたる「大学入学共通テスト」の科目の一つです。さらに文系選択者は、歴史総合での学びを土台として、2年次から「日本史探究」か「世界史探究」を選択します。

歴史総合の授業や毎回の定期考査をしっかりと学習して臨めば、それがすなわち三年生の受験勉強に直結します。また、近代を先取りすることによって二年生から学ぶ古代・中世史も、その先の近代史を意識しながら学ぶことができ、理解がしやすくなることでしょう。つまり、歴史総合をしっかりと学ぶことが受験勉強に直結することになるので、定期考査の形式も大学入試の内容を反映した形で作成し、受験特有の問題形式に早い段階から慣れてもらおうと考えています。

○探究的な活動

学期につき1単元程度、探究的な学習の機会を設けます。グループに分かれて単元に関連する異なるテーマについて分担して、資料を元に主体的・協働的に学習することで深く学ぶ姿勢を培いましょう。「歴史を暗記する」のではなく「歴史を探究する」楽しさを知って、二年生以降の日本史探究や世界史探究の学習に役立てて欲しいと考えています。

地理総合（2 学年）

年間授業計画

科目	地理総合		履修	必修	学年	2	単位	2 単位
講座名	地理総合		担当					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	世界や日本の地理的事象について、基本的な事項を互いに関連付けながら理解し、その知識を確実に身につける。		世界や日本の地理的事象について、その課題を想定し、地図や写真、統計資料を活用して多面的・多角的に考察する。、		世界や日本の地理的事象について、関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究する。			
評価規準	世界や日本の地理的事象について、基本的な事項を互いに関連付けながら理解し、その知識を確実に身につけている 身につけた知識を適切に表現できる		世界や日本の地理的事象について、課題を想定し、地図や写真、統計資料を活用して多面的・多角的に考察している。 ・国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。		・世界や日本の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究している。 ・国際社会に主体的に生きる社会の一員としての責任を果たそうとしている。			
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査			
月	学習の単元			学習の内容				
一 学 期 時間	4	1 地図とGISの活用	1 球面上の世界 世界からみた日本の位置と領域 国内や国家間の結びつき 暮らしの中の地図とGIS 2 地形と生活文化 気候と生活文化 産業と生活文化 宗教・言語と生活文化					
	5	2 地理的環境の特色						
	6							
	7							
二 学 期 時間	9	3 世界各地の生活文化	3 経済発展と生活文化の変化（東アジア） 宗教の多様性と生活文化（ASEAN諸国） 水の恵みと生活文化（南アジア） イスラーム社会の多様性と生活文化（イスラーム圏） 多様な気候と生活文化（アフリカ） 経済統合による生活文化の変化（EUと周辺諸国） 寒冷な気候と生活文化（ロシア） グローバル化による生活文化の変化（アメリカ・カナダ） 土地の開発による生活文化の形成（ラテンアメリカ） 植民と移民による生活文化の形成（オセアニア） 4 地球環境問題 資源・エネルギー問題					
	10	4 地球的課題						
	11							
	12							
三 学 期 時間	1	5 地球的課題	5 人口・食料問題 居住・都市問題 6 日本の自然環境と防災 生活圏の諸課題と地域調査					
	2	6 生活圏の諸課題						
	3							
講習								

地理総合の学び方

○地理を学ぶ意義

現代は、交通手段や通信事情が飛躍的に進歩しました。気軽に海外へ出かけたり、世界各地のニュースを瞬時に知ることができるようになりました。私たちの毎日の暮らしの中には、世界各地で生産されたものが溢れています。こうした経済活動や文化交流におけるグローバル化は、今後、ますます進んでいくことでしょう。

こうした社会に身をおいていると、世界はどこでも同じような生活が行われていると思いがちになります。しかし、世界には様々な環境や文化があり、その上に築かれている生活様式は、必ずしも一律ではありません。現代世界が直面している環境問題、人口問題、都市問題、領土・民族紛争、経済格差の拡大などは、こうした地域性の違いが要因になっていることは否定できません。地理は、こうした世界の多様性を理解することが大切な科目です。

もちろん、そのための手がかりとして、地理の基本的知識を頭に入れておかなければならないことが多いことも事実ですが、単に読図ができたり、産地を覚えたりすることが本質ではありません。国際社会は絶えず変化し、そのスピードはますます早まっています。地理では、その変化に対応できる柔軟な思考力を養い、未解決の世界的諸問題に挑戦する意欲を持って欲しいと思います。

○授業の受け方について

授業では、地図帳を大いに活用しましょう。地理では、さまざまな事象を必ず地図上に落として表現するくせを身につけることが大事です。現代は変化が激しいため、各種統計資料にも、こまめに目を通しましょう。また、ノートは必須です。板書項目以外でも、必要と思われることはメモを取りましょう。その時に気づいたことや感想・意見などを記載しておくのも有効ですし、興味ある出来事は、自分で調べてまとめておくのも理解を深めます。

○家庭学習について

大学受験を意識した授業展開となりますので、復習を中心にした家庭学習の習慣をつけましょう。特に、ノート整理に重点を置く学習が効果的です。重要語句は、自分のことばで表現し直してみることや、都市名などは地図に書き込んでみることをやってみましょう。理解を深めるために、教科書以外の教材を使用してみるのも一つの手です。復習事項をため込まず、少しずつでも地理に触れていれば、自ずと世界観や統計の感覚が身につくものです。

○受験対応について

年間の授業を通して、系統的な切り口からの領域については完了する予定です。大学入試問題の演習も行いますが、問題の傾向は各大学によって異なりますので、それぞれの特徴を理解しておきましょう。また、国公立大学の2次試験などの論述問題は、個別に指導する予定です。

世界史探究（2 学年）

年間授業計画

科目	世界史探究	履修	必修選択	学年	2	単位	4 単位
講座名	世界史探究	担当					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】		
目標	前近代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。		前近代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。		前近代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たす。		
評価規準	前近代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。また、それを適切に表現するスキルがある。		前近代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現することができる。		前近代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。		
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表		
月	学習の単元		学習の内容				
一 学 期	4	人類の出現	最新の研究成果で人類の起源を確認。				
	5	オリエント世界の形成	人類最古の世界帝国の出現と落日をまとめる。				
	6	南アジア、東南アジア世界の形成	インドと東南アジアに於ける古代文化の形成。				
	7	東アジア世界の曙	殷周～秦漢帝国を中心とする東アジアの黎明期。				
時間			48				
二 学 期	9	中央ユーラシア世界の形成と展開	スキタイに始まる遊牧帝国の形成。				
	10	東アジア世界の変動と再編	南北朝から隋唐帝国を経て南宋の世界まで。				
	11	地中海世界とヨーロッパの形成	地中海世界における文明の形成から、ローマ帝国まで。ゲルマン人の移動から中世ヨーロッパ世界の成立。				
	12	イスラーム世界の形成と拡大	イスラーム教の成立からアッバース朝を経てイスラーム圏の多極化まで。				
時間			56				
三 学 期	1	ヨーロッパ社会の変容	ラテン＝カトリック圏の拡大とその動揺と秩序の変容。				
	2	中央ユーラシアと諸地域の交流・再編	東アジアの変容とモンゴル世界帝国の出現。				
	3	ユーラシア・アフリカの海の世界	世界を繋ぐ海のネットワークの成立。				
時間			36				
講習	必要に応じて夏期・冬期に復習と問題演習を中心とした講習を数日間実施する。						

世界史探究の学び方

○世界史探究学習の留意点

世界史は、どのような専門分野に進んでもその基盤となる重要な教養です。授業では、哲学・法学・経済学・文学・自然科学・芸術…様々な学問の基礎について少しずつ学びながら、現代世界で何が問題となっているのかという大きなテーマについても考える機会となる、少し欲張りでお得な、大学や社会できつと役に立つ授業を行っていきます。

受験対策の面では、これまでの受験指導のノウハウを総動員して、質の高い授業を一生懸命展開していきますので、頑張ってください。2大柱であるヨーロッパ史と中国史を軸に勉強を進めつつ、その間をつなぐイスラーム史などの東西交流も扱っていきます。タテの流れ（2大柱を中心に国・王朝や制度の変遷）とヨコのつながり（同時代のつながり・東西交流）も意識して学んでいきましょう。

勉強の基本は学校の授業です。受験を意識して、塾や参考書を重視して学校の勉強をおろそかにするのは本末転倒です。授業をおろそかにして自力で一からやるのは至難の技で、効率的ではありません。「学問に王道なし」です。

そして「ローマは一日にして成らず」でもあります。世界史は確実に努力が実る科目です。日々、着実に知識を積み重ねていきましょう。

世界史は暗記科目ではありますが、現代世界の基本的な構造とその変動について、歴史的観点から把握するという壮大なねらいもあります。

地球的・人類的規模の課題の解決が要求されつつある現代世界において、学習内容が単なる文明や国家ごとの通史の羅列となることのないよう、歴史的事象の因果関係について動的・構造的に把握できるよう意識づけしていきたいとも考えています。

○授業の受け方について

授業で学びながら、同時に自身の身に着けることが最も理想的な地歴の学習法です。そのためには、関心をもって主体的に学ぶ姿勢が大切です。いやいやではなく、学ぶことが楽しいと感じる一時であってほしいと授業する側は思っています。

ノートをとるばかりでなく、学んだ内容について自分で考え、意見をもち、時には積極的な発言や発表も求められます。

みなさんの意欲的な参加を求めます。

○家庭学習について

世界史探究は基本的には予習不要です。家庭学習はしっかり国数英の予習と復習にあてましょう。定期考査前にしっかり復習するようにしましょう。

○受験対応について

学習の留意点で書いたように、世界史探究は選択科目ですので、受験を意識して選択した人が多いと考え、そのつもりで授業の準備を進めます。日々の授業が受験勉強の基礎ともなりますから、日々の学習にしっかりと向かいましょう。

日本史探究（2年生）

年間授業計画

科目	地理歴史科	履修	必修選択	学年	2	単位	4単位
講座名	日本史探究	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について、国際環境と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について、資料を活用して多面的、多角的に考察し、自らの言葉で表現する。	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究する。				
評価規準	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について、国際環境と関連づけて理解し、その知識を身に付け、自らの考えに活かすことができる。	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について、資料を活用して多面的、多角的に考察し、自らの言葉で表現することができる。	古代から近世までの日本の社会・文化の特色について関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究することができる。				
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査	振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期 時間	4	・ 日本文化のあけぼの 旧石器・縄文・弥生時代	・ これまでの考古学の研究成果などに基づいて、原始社会や文化の特色について、考察する。また、弥生時代の日本を記録した中国の文献史料を読み、歴史学的見地から弥生時代の様相を理解する。				
	5	・ 日本文化のあけぼの 古墳時代・ヤマト政権	・ 古墳時代前期・中期・後期の特徴とその背景となる社会構造の変化を理解する。				
	6	・ 律令国家の形成 律令国家の道・平城京の時代	・ ヤマト政権から朝廷への変化とその内実に関する理解を、東アジア情勢と関連づけて深める。				
	7	・ 律令国家の形成 平安王朝の形成	・ 奈良時代の政争についての基礎知識を習得し、貴族政治成立期の様相を学ぶ。 ・ 平安遷都の背景や平安初期の政治改革について、その社会的背景に対する理解を深める。				
二学期 時間	9	・ 貴族政治と国風文化 摂関政治・国風文化	・ 摂関政治の特質と10世紀における東アジア情勢の変化と国内への影響を理解する。				
	10	・ 中世社会の成立 鎌倉幕府の成立 蒙古襲来と幕府の衰退	・ 荘園公領制の構造と荘園公領制が新たな社会構造を生み出したことを学ぶ。 ・ 保元・平治の乱とその背景を学習し、中世前期の社会状況に関する理解を深める。				
	11	・ 武家社会の成長 室町幕府の成立	・ 治承・寿永の乱の展開と鎌倉幕府の成立を、関連させて理解する。 ・ 宋・元などとの関係や仏教の動向に着目して、鎌倉後期の展開について考察する。				
	12	・ 武家社会の成長 幕府の衰退と庶民の台頭 ・ 武家社会の成長 戦国大名の登場	・ 室町幕府の成立や守護大名の成長を、中世社会の変質から考察する。 ・ 日明貿易など東アジア世界との関係に注目して、中世後期の社会について学ぶ。 ・ 惣村の成立や産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上などについて学習しながら、武家文化や庶民文化の形成を考察する。 ・ 近世社会形成の前提となる戦国時代の政治・経済・社会・文化について考察する。				
三学期 時間	1	・ 近世の幕開け 織豊政権	・ 織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解する。				
	2	・ 幕藩体制の成立 幕藩体制と社会構造	・ 法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。				
	3						
講習	必要に応じて夏期・冬期に復習と問題演習を中心とした講習を数日間実施する。						

日本史探究の学び方

1. 日本史を学ぶ意義

日本史の学習というと、日本の歴史だけを学ぶものというイメージを抱いている諸君も少なくないでしょう。しかし、少なくとも近隣である中国大陸や朝鮮半島の歴史・伝統・文化を無視して日本史を考察することはできません。日本の伝統や文化は結局のところ、近隣諸国からの影響抜きで成立したわけではないからです。

以上の事柄を知らないと、得てして偏狭な考え方に陥ってしまいます。ですから、日本史は、「学習目標」に記した通り、「世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。以上のことによって幅広い歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きるための自覚を促し、国際社会で活躍できる資質を養う」ために、必要不可欠な科目なのです。

2. 古代史～近世史を学ぶ意義

新撰組や坂本竜馬らが活躍する江戸時代末期から明治維新の歴史的展開は、歴史ファンならずとも多くの人々を魅了しています。この過程で、政権が天皇に移る「王政復古」が実現します。「復古」、つまり「いにしえに復す」のです。よって、明治維新を真に理解しようとするならば、実は古代史の理解が必要となります。

また、中世史というと、政治史的には武士勢力の伸張と、武家政権の支配がよく言われている特色ですが、一方で、実は朝廷や有力な寺社勢力、宗教者、農民や町民などの庶民も力を持っていた時代で、公権力の力が弱かったことは意外と知られていない事実です。公権力の救済が不十分だからこそ、権利を侵害された個人や集団が自己の実力によって権利を回復する「自力救済」の時代でもあったのです。さらには、今日に伝わる日本の古典文化がほぼ出そろうのは、この中世という時代です。現在の日本文化を理解するためには、中世文化の考察が不可欠となります。

このように近代や現代の日本を考察し、日本の多様性を理解するためには、古代史・中世史の学習が欠かせないこととなります。そこに、古代史や中世史を学ぶ意義のひとつがあります。古代史や中世史は中学時代の既習事項もありますが、中学生の時の歴史学習より深く、より論理的に学び直し、歴史的な考え方を育成することを重視しましょう。特に政治や経済、社会の発展と日本文化の形成・発展がどのように関わってくるのかということを考えられるとよいでしょう。

3. 授業の受け方

日本史の授業では何よりも集中して話を「集中して聴くこと」が重要です。授業中に配布されるプリント教材に記入をしながら、自分が重要だと感じた事柄や難しくて後になってから思い出づらい知識や考え方をしっかりメモすることが重要です（そうして出来上がった教材プリントは結果的に、将来の受験勉強の強力な材料となります）。

次に、授業中の話を聴きながら、時折皆さんに問いかける質問の答えを「考える（考察する）こと」も重要です。日本史は確かにペーパーテストだけを考えれば、単なる暗記科目に成り下がってしまいますが、様々な条件を総合的に考察すると、物事の本質を捉えられるようになる優れた科目です。

「集中して聴くこと」、「考える（考察する）こと」の他に意識し、もうひとつ実践して欲しいことがあります。それは、自分の頭の中に歴史像を「構築すること」です。このことこそが、将来、自分たちが進むべき道を明確にするヒントとなります。幅広い知識とそれに基づいて構築された思考力、そしてその上に構築された価値観は、将来迷いが生じたときに自分の生きるべき道を発見していくことにもつながります。これを信じて授業を受けてください。教員の話すことを聞くことだけでは理解が進んだとは言えません。得た知識を活用し自ら考えることで、総合的な理解が進み、新たな疑問も生まれると思います。そうして得たものが学びだと思えます。ともに歴史から学びましょう。

なお、自宅学習はプリント教材の基礎事項を見直すなどの復習を中心に行ってください。その日に学んだ知識や話の流れを思い起こすだけでも充分、学習効果が上がります。一步一步着実に進めていきましょう。

世界史探究Ⅱ（3学年）

3学年世界史探究Ⅱ年間授業計画

科目	世界史探究Ⅱ	履修	必修選択	学年	3	単位	5単位
講座名	世界史探究Ⅱ	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	近世以降の西洋を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。	近世以降の西洋を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近世以降の西洋を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たす。				
評価規準	近世以降の西洋を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。また、それを適切に表現するスキルがある。	近世以降の西洋を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、追究し考察した過程や結果を適切に表現することができる。	近世以降の西洋を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。				
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査	振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	4	・近世ヨーロッパの形成と展開 ・産業革命と大西洋革命	・ヨーロッパの海外進出から始まる覇権競争や、ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立などの近世ヨーロッパ各国の政治的展開について学習する。 ・イギリスから始まる産業革命やアメリカ独立革命、フランス革命など18世紀後半から19世紀前半にかけて発生した諸革命を個別のものとしてせず、「大西洋革命」として学習する。 ・19世紀のヨーロッパにおいて発生したナショナリズムやそれに伴う国民国家建設の展開について学習する。 ・19世紀後半における欧米列強の帝国主義政策によるアジア・アフリカの植民地化と、その抵抗運動について学習する。				
	5						
時間	6	・近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家 ・地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	・第一次世界大戦の展開と、その後のヨーロッパにおいて作り上げられたヴェルサイユ体制の意義と課題について学習する。 ・アメリカで起こった株価の暴落が世界へと広がりを見せた背景や展開、そしてドイツやイタリアで成立したファシズム政権の特徴について学習する。 ・第二次世界大戦の展開や意義、そして戦後の冷戦体制の成立について、それぞれを関連させながら学習する。 ・第二次大戦後の世界について、各地域の歴史を取り上げながら冷戦の展開とその終結について学習する。				
	60						
二学期	9	・第一次世界大戦とヴェルサイユ体制 ・世界恐慌とファシズム					
	10						
時間	11	・第二次世界大戦と冷戦のはじまり ・冷戦下の安全保障体制 ・冷戦の終結と現代世界					
	70						
三学期	12	・特別時間割					
	1						
時間	2						
	3						
45							
講習	必要に応じて夏期・冬期に復習と問題演習を中心とした講習を数日間実施する。						

世界史探究Ⅱの学び方

○世界史探究Ⅱ学習の留意点

世界史は、どのような専門分野に進んでもその基盤となる重要な教養です。授業では、哲学・法学・経済学・文学・自然科学・芸術…様々な学問の基礎について少しずつ学びながら、現代世界で何が問題となっているのかという大きなテーマについても考える機会となる、少し欲張りでお得な、大学や社会できつと役に立つ授業を行っていきます。

受験対策の面では、これまでの受験指導のノウハウを総動員して、質の高い授業を一生懸命展開していきますので、頑張ってください。2大柱であるヨーロッパ史と中国史を軸に勉強を進めつつ、その間をつなぐイスラーム史などの東西交流も扱っていきます。タテの流れ（2大柱を中心に国・王朝や制度の変遷）とヨコのつながり（同時代のつながり・東西交流）も意識して学んでいきましょう。

勉強の基本は学校の授業です。受験を意識して、塾や参考書を重視して学校の勉強をおろそかにするのは本末転倒です。授業をおろそかにして自力で一からやるのは至難の技で、効率的ではありません。「学問に王道なし」です。

そして「ローマは一日にして成らず」でもあります。世界史は確実に努力が実る科目です。日々、着実に知識を積み重ねていきましょう。

世界史は暗記科目ではありますが、現代世界の基本的な構造とその変動について、歴史的観点から把握するという壮大なねらいもあります。

地球的・人類的規模の課題の解決が要求されつつある現代世界において、学習内容が単なる文明や国家ごとの通史の羅列となることのないよう、歴史的事象の因果関係について動的・構造的に把握できるよう意識づけしていきたいとも考えています。

○授業の受け方について

授業で学びながら、同時に自身の身に着けることが最も理想的な地歴の学習法です。そのためには、関心をもって主体的に学ぶ姿勢が大切です。3年生で受験があるから仕方なくではなく、学ぶことが楽しいと感じる一時であってほしいと授業する側は思っています。

ノートをとるばかりでなく、学んだ内容について自分で考え、意見をもち、時には積極的な発言や発表も求められます。

みなさんの意欲的な参加を求めます。

○家庭学習について

世界史は基本的には予習不要です。しかし、3年生では受験を意識して復習には力を入れてほしいと思います。模擬試験や定期考査も、もちろん結果も大切ですが、自分が理解できていない点を明確にする機会ととらえて積極的に復習してほしいと思います。

○受験対応について

3年で選択した以上、受験を考えて選択したものと理解して授業を進めていきます。時には入試問題を取り上げることもあると思いますが、自分で選択したという自覚をもって、積極的に授業に臨んでください。

世界史演習（3 学年）

3 学年世界史探究Ⅱ 年間授業計画

科目	世界史演習		履修	必修選択		学年	3	単位	2 単位	
講座名	世界史演習		担当							
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	近世以降の東洋を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、問題演習を通してその知識を身に付ける。		近世以降の東洋を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断・追究し、考察した過程や結果に史資料の読み取りや論述問題の形で適切に表現する。			近世以降の東洋を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たす。				
評価規準	近世以降の東洋を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。また、それを適切に表現するスキルがある。		近世以降の東洋を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断・追究し、考察した過程や結果を適切に表現することができる。			近世以降の東洋を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。				
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査			振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表				
月	学習の単元		学習の内容							
一 学 期	4	・中央アジアと西アジアの帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・ティムール朝やサファヴィー朝、オスマン帝国の拡大や統治方法について学習するとともに、イスラーム史の問題演習を行う。 ・前近代のインドや中国史の問題演習を行いながら、ムガル帝国、明清といった中国王朝の特徴について実施した税制に焦点を当てながら学習する。 ・欧米の影響が高まっていく西アジア世界における改革運動について学習する。 ・東南アジア前近代史の復習を行いながら、南アジア・東南アジア世界の植民地化の展開について学習する。 ・清朝後半期の東アジア世界について、台頭する日本と日清両国の影響を受ける朝鮮半島について焦点を当てながら学習する。 ・第一次世界大戦による国際秩序の変化を踏まえながら、戦間期におけるナショナリズムの高まりについて学習する。 ・近代以降の日本の東アジア政策に焦点を当て、第二次世界大戦と関連させながら満洲事変やその後の日中戦争について学習する。 ・第二次世界大戦後における植民地からの脱却について、植民地化の流れを振り返りながら学習する。 ・第三世界と呼ばれる国々の戦後史について地域ごとに学習する。 ・前時代、全地域における入試問題演習。 							
	5	・南アジアと東アジアの帝国								
時 間	6	・西アジアの改革運動								
	24	・インドと東南アジアの植民地化と民族運動								
	7	・東アジアの国際関係の再編								
二 学 期	9	・アジアのナショナリズムの台頭								
	10	・満洲事変と日中戦争								
時 間	11	・脱植民地化と非同盟								
	28	・第三世界の経済								
三 学 期	12	・問題演習								
	1	・特別時間割								
時 間	2									
	3									
18										
講習	必要に応じて夏期・冬期に復習と問題演習を中心とした講習を数日間実施する。									

世界史演習の学び方

○世界史演習 学習の留意点

世界史は、どのような専門分野に進んでもその基盤となる重要な教養です。授業では、哲学・法学・経済学・文学・自然科学・芸術…様々な学問の基礎について少しずつ学びながら、現代世界で何が問題となっているのかという大きなテーマについても考える機会となる、少し欲張りでお得な、大学や社会できつと役に立つ授業を行っていきます。

受験対策の面では、これまでの受験指導のノウハウを総動員して、質の高い授業を一生懸命展開していきますので、頑張ってください。2大柱であるヨーロッパ史と中国史を軸に勉強を進めつつ、その間をつなぐイスラーム史などの東西交流も扱っていきます。タテの流れ（2大柱を中心に国・王朝や制度の変遷）とヨコのつながり（同時代のつながり・東西交流）も意識して学んでいきましょう。

勉強の基本は学校の授業です。受験を意識して、塾や参考書を重視して学校の勉強をおろそかにするのは本末転倒です。授業をおろそかにして自力で一からやるのは至難の技で、効率的ではありません。「学問に王道なし」です。

そして「ローマは一日にして成らず」でもあります。世界史は確実に努力が実る科目です。日々、着実に知識を積み重ねていきましょう。

世界史は暗記科目ではありますが、現代世界の基本的な構造とその変動について、歴史的観点から把握するという壮大なねらいもあります。

地球的・人類的規模の課題の解決が要求されつつある現代世界において、学習内容が単なる文明や国家ごとの通史の羅列となることのないよう、歴史的事象の因果関係について動的・構造的に把握できるよう意識づけしていきたいとも考えています。

○授業の受け方について

授業で学びながら、同時に自身の身に着けることが最も理想的な地歴の学習法です。そのためには、関心をもって主体的に学ぶ姿勢が大切です。3年生で受験があるから仕方なくではなく、学ぶことが楽しいと感じる一時であってほしいと授業する側は思っています。

ノートをとるばかりでなく、学んだ内容について自分で考え、意見をもち、時には積極的な発言や発表も求められます。

みなさんの意欲的な参加を求めます。

○家庭学習について

世界史は基本的には予習不要です。しかし、3年生では受験を意識して復習には力を入れてほしいと思います。模擬試験や定期考査も、もちろん結果も大切ですが、自分が理解できていない点を明確にする機会ととらえて積極的に復習してほしいと思います。

○受験対応について

3年で選択した以上、受験を考えて選択したものと理解して授業を進めていきます。時には入試問題を取り上げることもあると思いますが、自分で選択したという自覚をもって、積極的に授業に臨んでください。

日本史探究Ⅱ（3学年）

学習目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。以上のことによって歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きるための自覚を促し、国際社会で活躍できる資質を、主権者という意識とともに養う。

3学年日本史探究Ⅱ年間授業計画

科目	地理歴史科		履修	必修選択		学年	2	単位	5単位	
講座名	日本史探究Ⅱ		担当							
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】					
目標	近世から現代までの日本の社会・文化の特色について、国際環境と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。		近世から現代までの日本の社会・文化の特色について、資料を活用して多面的、多角的に考察し、自らの言葉で表現する。		近世から現代までの日本の社会・文化の特色について関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究する。					
評価標準	近世から現代までの日本の社会・文化の特色について、国際環境と関連づけて理解し、その知識を身に付け、自らの考えに活かすことができる。		近世から現代までの日本の社会・文化の特色について、資料を活用して多面的、多角的に考察し、自らの言葉で表現することができる。		近世から現代までの日本の社会・文化の特色について関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究することができる。					
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表					
月	学習の単元		学習の内容							
一 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の成立 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程・外交関係を中心に江戸時代前期について理解を深める。 幕藩体制の安定や藩政の刷新を中心に江戸時代中期について理解を深める。 幕藩体制の動揺と諸改革を中心に江戸時代後期について理解を深める。 ペリー来航以後の日本社会の変化を国際社会の動向と関連づけて考察する。 明治初期の政治状況、大日本帝国憲法を中心に理解を深める。 日清戦争・日露戦争について日本の国際的立場を他国の動向と関連づけて考察し、その後の日本の動向を考察する。 							
	5									
	6									
時間	6	<ul style="list-style-type: none"> 開国と幕末の動乱 明治維新と立憲国家の成立 日清戦争と日露戦争 								
48	7									
二 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> 大正政変 第一次世界大戦とワシントン体制 近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦 占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本 	<ul style="list-style-type: none"> 政党政治が確立していく流れを理解し、大正時代の政治について理解する。 第一次世界大戦における日本の動向を当時の国際環境と関連づけて学び、その後の日本の立場について考察する。 明治から大正までの近代産業の成立過程を中心に近代産業について理解を深める 第一次世界大戦後の恐慌と軍部の台頭からアジア・太平洋戦争へと続く過程を中心に大正から昭和についての理解を深める。 占領から始まった諸改革を中心に戦後直後の日本について理解を深める。 55年体制の成立・高度経済成長による経済成長を中心に日本の経済大国への道の理解を深める。 冷戦の終結など様々な国内外の政治的・社会的な情勢を中心に現代のわれわれに通じる問題について理解を深める。 							
	時間									10
	56									11
										12
三 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> 特別時間割 								
	時間									2
	34									3
講習	夏期休業中に授業で取り扱わない範囲の講習や冬期休業中に問題演習の講習を実施する。									

日本史探究Ⅱの評価基準

主体的に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、有用な資料を活用し、歴史的事象について意欲的に追究している。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、有用な資料の活用や地理的・世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、適切に表現している。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を地理的・世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身につけている。また、資料を活用する技能を身に付け、歴史を公正に判断することができる

1. 日本史を学ぶ意義

日本史の学習というと、日本の歴史だけを学ぶものというイメージを抱いている諸君も少なくないでしょう。しかし、少なくとも近隣である中国大陸や朝鮮半島の歴史・伝統・文化を無視して日本史を考察することはできません。日本の伝統や文化は結局のところ、近隣諸国からの影響抜きで成立したわけではないからです。

以上の事柄を知らないと、得てして偏狭な考え方に陥ってしまいます。ですから、日本史は、「学習目標」に記した通り、「世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。以上のことによって幅広い歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きるための自覚を促し、国際社会で活躍できる資質を養う」ために、必要不可欠な科目なのです。

2. 近代史を学ぶ意義

皆さんは次の質問に対して明確に答えられるでしょうか...

「なぜ大日本帝国はアジア・太平洋戦争（大東亜戦争）を起こしたのか？」

20世紀は二つの世界大戦とその後も冷戦構造の中で、多大な犠牲者を出した時代でした。二年次の日本史が古代史からのスタートではなく、近代史から学ぶ理由は、三田高生全員に平和の対極にある戦争がどのような経緯で起こってしまったのかを学び取ってもらい、あらためて平和維持の重要性を認識してもらいたいとの願いからです。

近代日本は外圧の中、明治政府によって大日本帝国としての形が作られ、大正期の第一次世界大戦後には国際連盟の常任理事国となり、世界の大国の一員に名を連ねます。大日本帝国は戦争と共に成長し、最終的にはアジア・太平洋戦争によって多くの犠牲者を出して崩壊しました。戦後、日本国として新たなスタートを切り、今を生きる私たちへとつながっています。大日本帝国が戦争へと進んでいった理由は「なぜ」なのでしょうか。「なぜアメリカと戦う事になったのか?」「国民は戦争をどう思っていたのか?」様々な「なぜ」や疑問が浮かんでくるでしょう。これらはあくまで一例ですが、歴史を学ぶ中で我々の考えと先人たちのギャップや共通点を感じ取り、日本史の授業を通じて「なぜ」を問う事で、国内外からの様々な視点で近代日本の姿を学び、歴史認識を深めてほしいと思います。

上記のことを前提に、21世紀の日本の国際社会への貢献の在り方を考察することこそが、近代史を先に学んでもらう最大の目的です。加えて、大学受験をあまり意識しないで済む二年次だからこそ、文系・理系を問わず平和の大切さをじっくり学べるという点も重要であると考えています。

3. 授業の受け方

日本史の授業では何よりも集中して話を「集中して聴くこと」が重要です。授業中に配布されるプリント教材に記入をしながら、自分が重要だと感じた事柄や難しくなって後になってから思い出しづらい知識や考え方をしっかりメモすることが重要です（そうして出来上がった教材プリントは結果的に、将来の受験勉強の強力な材料となります）。

次に、授業中の話を聴きながら、時折皆さんに問いかける質問の答えを「考える（考察する）こと」も重要です。日本史は確かにペーパーテストだけを考えれば、単なる暗記科目に成り下がってしまいますが、様々な条件を総合的に考察すると、物事の本質を捉えられるようになる優れた科目です。

「集中して聴くこと」、「考える（考察する）こと」の他に意識し、もうひとつ実践して欲しいことがあります。それは、自分の頭の中に歴史像を「構築すること」です。このことこそが、将来、自分たちが進むべき道を明確にするヒントとなります。幅広い知識とそれに基づいて構築された思考力、そしてその上に構築された価値観は、将来迷いが生じたときに自分の生きるべき道を発見していくことにもつながります。これを信じて授業を受けてください。

なお、自宅学習はプリント教材の基礎事項を見直すなどの復習を中心に行ってください。その日に学んだ知識や話の流れを思い起こすだけでも充分、学習効果が上がります。

日本史演習（3 学年）

学習目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づいて地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。以上のことによって歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きるための自覚を促し、国際社会で活躍できる資質を、主権者という意識とともに養う。

3 学年日本史演習 年間授業計画

科目	地理歴史科		履修	必修選択		学年	2	単位	2単位
講座名	日本史演習		担当						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	古代から現代までの日本の社会・文化の特色について、国際環境と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。		古代から現代までの日本の社会・文化の特色について、資料を活用して多面的、多角的に考察し、自らの言葉で表現する。		古代から現代までの日本の社会・文化の特色について関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究する。				
評価標準	古代から現代までの日本の社会・文化の特色について、国際環境と関連づけて理解し、その知識を身に付け、自らの考えに活かすことができる。		古代から現代までの日本の社会・文化の特色について、資料を活用して多面的、多角的に考察し、自らの言葉で表現することができる。		古代から現代までの日本の社会・文化の特色について関心と課題意識を高め、有用な情報を選択して活用することなどを通して、意欲的に追究することができる。				
評価方法	行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		行動観察、小テスト、レポート、プレゼン発表、及び定期考査		振り返りシート、レポート、及びプレゼン発表				
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期 時間	4	古代史 ・ 縄文～奈良 ・ 奈良～平安	文化の始まり、農耕社会の成立、古墳文化の展開、飛鳥の朝廷、律令国家への道平城京の時代、律令国家の文化、律令国家の変容、摂関政治、国風文化 地方政治と武士、院政の始まり、院政と平氏政権、鎌倉幕府の成立、武士の社会 モンゴル襲来と幕府の衰退、鎌倉文化、室町幕府の成立、幕府の衰退と庶民の台頭、室町文化、戦国大名の登場 織豊政権、桃山文化、幕藩体制の成立、幕藩社会の構造、幕政の安定、経済の発展、元禄文化 幕政の改革、宝暦・天明期の文化、幕府の衰退と近代への道、化政文化、開国と幕末の動乱、幕府の滅亡と新政府の発足 明治維新と富国強兵、立憲国家の成立、日清・日露戦争と国際関係、第一次世界大戦と日本、ワシントン体制、近代産業の発展 近代文化の発達、市民生活の変容と大衆文化、恐慌の時代、軍部の台頭、第二次世界大戦 占領と改革、冷戦の開始と講和、55年体制、経済復興から高度経済成長へ 経済大国への道、冷戦の終結と日本社会の変容						
	5	中世史 ・ 平安末期～鎌倉 ・ 鎌倉～戦国							
	6	近世史 ・ 織豊政権～江戸時代前期							
48	7	近世史 ・ 織豊政権～江戸時代前期							
二 学 期 時間	9	江戸時代中期～幕末							
	10	近代史 ・ 明治～大正 ・ 大正～アジア太平洋戦争							
	11	戦後史 ・ 占領～高度経済成長 ・ 現代の日本							
56	12	戦後史 ・ 占領～高度経済成長 ・ 現代の日本							
三 学 期 時間	1	・ 特別時間割							
	2								
	34	3							
講習	夏期休業中・冬期休業中に問題演習の講習を実施する。								

日本史演習の評価基準

主体的に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、有用な資史料を活用し、歴史的事象について意欲的に追究している。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、有用な資料の活用や地理的・世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、適切に表現している。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を地理的・世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身につけている。また、資史料を活用する技能を身に付け、歴史を公正に判断することができる

1. 日本史を学ぶ意義

日本史の学習というと、日本の歴史だけを学ぶものというイメージを抱いている諸君も少なくないでしょう。しかし、少なくとも近隣である中国大陆や朝鮮半島の歴史・伝統・文化を無視して日本史を考察することはできません。日本の伝統や文化は結局のところ、近隣諸国からの影響抜きで成立したわけではないからです。

以上の事柄を知らないと、得てして偏狭な考え方に陥ってしまいます。ですから、日本史は、「学習目標」に記した通り、「世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。以上のことによって幅広い歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きるための自覚を促し、国際社会で活躍できる資質を養う」ために、必要不可欠な科目なのです。

2. 授業の受け方

授業では主に問題演習を中心として知識の確認や史料の活用能力の向上を図ります。大学入試においても史料読解は基本となりますので早いうちから史料活用の力を養いましょう。史料を読んだときに自分の知識と関連付けて「どのようなことが言えるのか」「何がわかるのか」を考えながら読む癖を机でいきましょう。問題演習を実施するのに前提となる知識がないのでは意味がありませんので最低限の予習をしてから問題演習に臨んでください。また、問題演習後は確認・復習のパートがありますので復習も大切になってきます。3年生ですので通常授業に加え、問題演習の予習→問題演習→復習のサイクルを作り、本番までに受験突破に必要な力を養っていきましょう！！

公民科

公民科学習指導計画

教科の学習目標

公民科の学習目標は民主社会を形成する人間を育てることにあります。そのために必要な資質とは何でしょうか。それは必ずしも知識の多さではありません。さまざまな意見に公平に耳を傾けられるオープンな姿勢、自己の意見や立場に固執することなく自分を客観視できるゆとりも大事です。

公共は第2学年必修科目であり、私的な存在であるとともに公的な存在でもある私たちが、現代社会に主体的にかかわっていくための基礎的な知識を習得しつつ、現代の諸課題について主体的に自ら考えることで学習を深めていく科目です。

倫理は日本や海外の思想（哲学や宗教、心理学や社会学）に学びながら、自分の視野を広げていく科目です。有名な思想に関する専門用語を知る事が問題になるのではなく、その用語をきっかけにして多様なものの見方考え方に触れることが目的です。

政治・経済は社会のあり方を学ぶ科目というより、現代の社会をどう見るかその見方を学ぶ科目と理解することが大事です。授業は第2学年での公共の学習の上に国際政治・国際経済について学ぶことから始め、さらに政治・経済の分野での学習を深めていく予定です。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
公共	2	必修	2	新版公共（数研出版）	最新公共資料集 2024（第一学習社） 教科書準拠版 新版 公共 整理ノート PUBLIC（数研出版）
倫理	3	必選	2	倫理（東京書籍）	アプローチ倫理資料PLUS（とうほう）
政治・経済	3	必選	2	詳述政治・経済（実教出版）	最新公共資料集 2023（第一学習社）※継続
政治・経済演習	3	自選	2	同上	新版最新政治・経済資料集2024（第一学習社） 実戦攻略公共、政治・経済大学入学共通テスト問題集（実教出版）
倫理演習	3	自選	2	（今年度は開講せず）	

公民を学ぶにあたって

○学習上の留意点

公民科目は本校のカリキュラムでは2年生からの履修科目ですが、入試に必要不必要、また理系文系という狭い視野にとらわれず幅広い視野から学んでいてもらいたいと思います。

大学入試共通テストの科目としては、公民科は「公共、倫理」または「公共、政治・経済」のどちらかを選ぶことができます。（「公共、歴史総合、地理総合」という組み合わせもありますが、選ぶ人は少ないでしょう。）どちらを選択するにしても、3年生の履修科目であるということはクラスでの授業が2学期期末直前（11月下旬）までしかないことを意味します（2学期末考査終了後は特別時間割や家庭学習になります）。もちろん試験後の特別授業や夏季冬季の講習もありますが、正規の授業ではないのでしばしば他科目（社会科1科目目の日本史や世界史）の授業とぶつかり実質受講できない場合もあります。

安易な気持ちで科目選択をすると後悔することになります。自分自身で継続的な学習ができないと範囲を終えることさえできない場合がありますので注意してください。

○授業の受け方

新カリキュラム必修の2年公共および3年倫理、政治・経済は受験に特化せず、全員に必要な科目として教材を精選しています。大学に入るためというより大学に入ってから必要な内容です。内職や居眠りをするような場面（ゆとり？）はないはず。積極的な学習や探究が求められます。

倫理演習や政治・経済演習など選択科目については少人数でかつ共通テスト対策も視野に入れた授業ですので、授業進度はかなりのものです。休むことなく学習内容に持続な関心を持ち続けることが必要になります。

そのためには1年生の頃から自分の教養を高めておく必要があります。

○1年生の頃には・・・

上に述べたように履修自体は2・3年生からですが、1年生の頃から下地を養う必要があります。そのために必要なことは、

- ① 日々のニュースを欠かさず見て時事問題に強くなる…継続してニュースを見るとその背景がわかる
- ② 日々学習する他の教科を疎かにしない…「家庭基礎」「保健」「理科」「国語」etc.
(1年生で学んだ「歴史総合」の知識が国際政治・国際経済・倫理分野学習の土台となります)

読書のすすめ

言うまでもないことですが読書は自分の世界を広げてくれます。それによって世界の見方が変わるだけでなく自分のあり方まで変わります。読書の好きな人は自分が変わることに楽しさを感じることができます。変わることは楽しいことなのです。

勉強とは変わらない自分にただ受験のノウハウやテクニックをつけさせることではありません。豊かな読書経験を持つ人はそのことを体験的に知っています。1年生の頃から読書習慣を身に着け、柔軟な学習姿勢を養っておいてください。

公共

年間授業計画

科目	公共	履修	必修	学年	2	単位	2 単位
講座名	公共	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。				
評価規準	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。				
評価方法	定期考査及び提出物等により評価	定期考査及び提出物等により評価	提出物及び授業中の取り組み姿勢を観察等により評価				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第3章 公共的な空間における基本原理		青年期と自己形成・人間としての自覚・日本人としての自覚 西洋近現代の思想・現代の諸課題と倫理 民主社会の基本原理・日本社会の基本原理				
時間	23						
二学期	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第6章 国際社会の動向と日本の役割		日本の政治機構・政治参加と民主政治の課題 経済のしくみと市場機構・財政と金融・日本経済の発展と変化・豊かな生活と福祉の実現 国際政治の動向				
時間	30						
三学期	持続可能な社会づくりの主体となる私たち		国際政治の課題と日本の役割・国際経済の動向と国際協力 課題探究の観点・課題探究の手引き				
時間	17						
講習							

公共の学び方

○公共学習の留意点

公民科の学習目標は民主社会を形成する人間を育てることにあります。そのために必要な資質とは何でしょうか。それは知識の多さだけではありません。さまざまな意見に公平に耳を傾けられるオープンな姿勢、自己の意見や立場に固執することなく自分を客観視できるゆとりも大切です。

公共は第2学年必修科目であり、受験のための知識中心の学習はしません。皆さん自身が現代の諸課題について主体的に学習していく機会を多く取り入れる予定です。また、共通テストの出題傾向として、単なる知識だけでなく思考力判断力が試されるような出題が目立つようになっています。そのことも見据えバランスの取れた学力を身に付けるように指導を行っていきます。皆さんもそのことを念頭に置いて学習を進めていただきたいと思います。

○受験対応について

新指導要領に基づく大学入試共通テストの公民科目出題形式は、公共と倫理及び公共と政治・経済(地歴との関連では公共と歴史総合と地理総合)となる予定です。本校では公共を2年生の必修科目とし、さらに3年生全員が公民科目(倫理、政治・経済のうちどちらか)を必修選択とすることで、すべての生徒が公民科目で受験をすることが可能なカリキュラムとなっています。

しかしながら、2年生の初めから受験を意識しすぎるのは好ましいことではありません。多くの学校行事に積極的に参加して、総合的な人間力を高めることがとても大事だと考えます。公共の学習も自らの人間力を高める教養として学んでほしいところです。公共で学んだ内容は、他の教科の学習に必ず生きてきます(もちろん他の教科の学習も公共の学習に生きてきます)。その学びの延長線上に入試の科目として公民科科目を考えられるようになるとういことです。また先述の通り、3年生では倫理と政治・経済のどちらかを学ぶこととなりますので、どちらが自分に向いているかを公共の学習を通じて吟味することも大切です。

倫理

年間授業計画

科目	倫理	履修	必修選択	学年	3	単位	2 単位
講座名	倫理	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。				
評価基準	○現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 ○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	○他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めている。 ○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。 ○理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。	○人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。 ○現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け、他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。また、そのような取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。				
評価方法	小テスト、定期考査、準拠演習ノートなど	定期考査、レポート、ノート、準拠演習ノートなど	活動の様子の観察、レポート、口頭発表、ふりかえりシートなど				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 第1章 人間の心のあり方 1節 人間とは何か 2節 人間の心の働き		○「公共」の学習内容や、自己と他の青年がおかれた現在の状況をふまえ、人生における青年期の位置づけや特徴、現代社会におけるその特質について考察する。 ○知覚、学習、記憶、推論、問題解決という、人間の知的な活動の特徴について理解することを通じて、他者と共によりよく生きる意思決定のあり方について考察し、豊かな自己形成に努める意欲を高める。 ○感情の生起や動機づけに関する心理学の考え方を理解し、人間の個性について類型論と特性論を中心に理解することを通じて、他者と共によりよく生きることができるよう、自己や他者の個性について考察し、豊かな自己形成に努める意欲を高める ○青年期までの発達と青年期以降の発達について、心理学の考え方を理解し、人間の心の発達がどのようにして他者との相互作用の中で育っていくのかについて考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高める。				
時間	24		○さまざまな人生観・倫理観・世界観の学習に先立って、「哲学」の意味や、「哲学すること」の意義について理解し、自己の在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方の考察に関連付けて思索する。 ○ギリシャにおける哲学の誕生について、その歴史的背景をふまえて考察します。 ○真理や存在などに着目して、自然哲学の思想にみられる自然と人間との関わり				

	2節 ギリシャの思想	<p>や、世界を捉える知の在り方について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○徳、真理、正義、義務、幸福などに着目して、ギリシャ思想について多面的・多角的に考察することを通じて、自己の在り方生き方について思索する。</p> <p>○幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、人生における宗教の意義や、宗教が人間や社会に与えた影響について、先哲の考え方や歴史的な事実を手がかりにして多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○幸福、正義、義務、真理、存在などに着目して、キリスト教の成立に影響を与えた古代ユダヤ教の特徴や『旧約聖書』に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○幸福、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、『クルアーン』に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○幸福、愛、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、ブッダの説いた苦の認識や縁起の法、慈悲の実践について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索します。</p> <p>○諸子百家の代表的な思想について、歴史的背景をふまえて考察します。</p> <p>○幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理などに着目して、古代中国の思想に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索します。</p> <p>○幸福、愛、徳、真理、存在などに着目して、美を求める心や、それが人生を豊かにするものであること、芸術とは何か、芸術作品と鑑賞者の関係について、芸術家の考え方や生き方、作品を手がかりにして多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p>
	3節 宗教と社会	
	4節 キリスト教	
	5節 イスラーム	
	6節 仏教	
	7節 中国の思想	
	8節 芸術	
	第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ	
	1節 近代と人間尊重の精神	○西洋における近代化の特徴について、現代に通じる人間尊重の精神という観点から、歴史的背景をふまえて考察する。
		○幸福、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えた西洋近代の思想について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。
		○第2章や第3章の学習にもとづいて、「世界の始まり」や「真理」について多面的・多角的に考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高める。
二 学 期 時 間 28	2節 近代思想の展開	○幸福、真理、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えたベーコンとデカルトの思想について、両者の共通点と相違点に留意しつつ多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。
	3節 人格の尊厳と人倫の思想	○幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、カントの批判哲学、認識論、道徳思想、人格の尊厳の思想、理想的な社会の構想について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。
	4節 社会変革の思想	○幸福、善、自由、正義、義務などに着目して、アダム・スミス、ベンサム、J. S. ミルの倫理思想や社会主義思想について、現代の社会生活と関連付けながら多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。
	5節 理性への疑念	○幸福、愛、自由、義務、真理、存在などに着目して、キルケゴール、ニーチェ、フロイトの思想を手がかりに、近代の人間観や世界観がどのように変容したかについて多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。
	6節 人間観・言語観の問いなおし	○幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、ハイデッガー、ヤスパース、サルトルの思想や、現象学、実存主義の考え方を手がかりに、従来の人間観や世界観の問いなおしについて多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。
	7節 他者・自然とのかかわり	○幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、他者とのかかわりや言語活動について、レヴィナス、ベンヤミン、アーレント、フランクフルト学派、ウィトゲンシュタインの考え方を手がかりに多面的・多角的に考察する。

	<p>第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>1節 日本人の精神風土</p> <p>2節 仏教と日本人の思想形成</p> <p>3節 儒教と日本人の思想形成</p> <p>4節 国学の思想</p> <p>5節 庶民の思想</p> <p>6節 西洋思想と日本人の近代化</p> <p>7節 国際社会に生きる日本人の自覚</p> <p>第2編 現代の諸課題と倫理</p>	<p>ことを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○日本人の伝統的な自然観の特質について、「おのずから」の働きや、『古事記』・和辻哲郎の著作などの記述に着目しながら、自己との関わりにおいて多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方について思索する。</p> <p>○日本の古代史に関する基本的な理解にもとづき、日本人は外来思想である仏教をどのように理解し変容させたのか、また、仏教思想は日本人の思想形成にどのような影響を与えたのか、仏教の伝来と奈良仏教、平安仏教の展開、神仏習合の考え方を手がかりとして、古来の自然や神に対する信仰との共存・重層という観点から多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○日本の近世史に関する基本的な理解にもとづき、日本で独自に展開した儒教思想の特徴や、日本人の思想形成に儒教が与えた影響について、現実秩序の倫理や礼秩序の思想を手がかりとして、中国の儒教や日本の仏教の思想傾向と比較しながら自己との関わりにおいて多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○日本の近世史に関する基本的な理解にもとづき、国学が見出した人間像や、国学の思想がその後の日本に及ぼした影響について、代表的な国学者の思想を手がかりとして、儒教や仏教の思想傾向と比較しながら、自己との関わりにおいて多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○日本の近世史に関する基本的な理解にもとづき、町人や農民などの庶民が考えた諸思想について、代表的な思想家の考え方を手がかりとして、現代の国際社会に生きる自己との関わりにおいて多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○日本の近代史に関する基本的な理解にもとづき、日本人の近代における思想形成に影響を与えた啓蒙思想や自由民権思想に着目して、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○第二次世界大戦後の日本の社会状況に関する基本的な理解にもとづき、第4章で学んだ伝統的な日本人の心情や考え方をふり返ったり、日本の戦後思想の動向を手がかりにしたりしながら、現代において自覚的に受けつぐべきものや、今後問いなおすべき課題について、多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。</p> <p>○第1編で学習した事項を基盤に、「生命」「自然」「科学技術」「福祉」「文化と宗教」「戦争と平和」などに関する現代の諸課題と倫理との関連について思索できるようにする。</p>
三学期	総合的に学習する	
時間		
18		
講習		

倫理の学び方

○倫理学習の留意点

高校の地歴・公民科の科目で唯一、諸君が中学校では学んでいない科目です。哲学・宗教、心理学・社会学などについて、古今東西幅広く学びます。教科書は薄いですが柔軟な思考が求められます。

共通テスト対策として専門用語をただ覚えるというだけの姿勢では学習は続きません。いつもの自分とは全く違う頭の働かせ方、違う感性への共感理解も必要です。しかし内容が分かればこんなに面白い科目はありません。開かれた心が何よりも大切です。

どんな思想家にも学ぶべきところ、今日の諸課題に役立つところがあります。専門用語はいかめしくまた晦渋な響きですが、表面に惑わされずその奥に込められた思想家の思いを理解しましょう。

○受験対応について

もし公民科が倫理だけで受験できる場合は、倫理が得意な生徒にとって有利な選択になります。しかし第2志望、第3志望以下の受験大学までその1科目で対応できるか、慎重に調べなければなりません。共通テスト入試を行っている私大の場合、地歴・公民で倫理を選択できるかどうか調べる必要があります。国立の個別試験や私大の独自試験で倫理を受験科目としている大学としては、国立は筑波大学の一部、私立では中央大学の文学部などがありますが、かなり限られています。実際には国公立大学文系受験の共通テスト地歴・公民2科目めとして選択する人がほとんどです。旧帝大などのレベルの大学では、地歴公民2科目での受験を求めている大学も多いので注意が必要です。

また第1希望には必要ないが第2希望で必要になるという場合もあるかもしれません。その場合はやはり倫理という科目、哲学や思想を学ぶのが好きということが基本にないと勉強に身が入らないこととなります。

フランスの哲学教育

フランスの高等学校（リセ）でも高校3年生は文系理系に分かれますが、文系の場合は週8時間、理系でも週3時間哲学の授業があるそうです。そんなに沢山の時間何を勉強するのかと疑問になりますが、講義の他、週何時間も作文に時間をあてるのです。ただ文を読んで理解するだけではだめで自分の文章で表現できて初めて理解したことになると考えられているのです。

大学入試も哲学の問題は1-2行程度の短い文章（一定の主張）であり、それについて半日も時間をかけて自分の主張を述べるのがすべての学部の入試にあるのだそうです。

いったい誰が採点するのかということも気になりますが、なんと普段生徒の作文指導をしている高校の先生が、大学入試の採点をするのだそうです（もちろん誰の答案かは分からないようになっている）。所変われば品変わるとは言いますが、同じ大学入試でも国によってずいぶん違うものですね。

科目名 政治・経済
年間授業計画

科目	政治・経済	履修	必修選択	学年	3	単位	2単位
講座名	政治・経済	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。				
評価規準	○現実社会の諸課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 ○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 ・人間の特質や青年期の課題、認知、感情と個性、発達という人間の心の働きについて理解し、他者と共によりよく生きる人間のあり方について、適切な知識を習得している。	○国家及び社会の形成者として広く課題を発見し、現実社会に見られる複雑な課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めている。 ○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。 ○理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする実践的意欲を持っている。 ○現実社会の諸課題についての探究的な態度を身に付け、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成により積極的な役割を果たす在り方を主体的に探究しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。また、そのような取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。				
評価方法	小テスト、定期考査、準拠演習ノートなど	定期考査、レポート、ノート、準拠演習ノートなど	活動の様子を観察、レポート、口頭発表、ふりかえりシートなど				

月	学習の単元	学習の内容	
一 学 期	4 第1章 現代の国際政治 1. 国際政治の特質と国際法 2. 国際連合と国際協力 3. 現代国際政治の動向	○国際政治や国際法とはどのようなものか。 ○国家間の紛争を解決する枠組みは、どのようなものだろうか。 ○国際連合は、どのような取り組みをおこなってきたか。 ○国際連合は、現在どのような課題を抱えているだろうか。 ○冷戦がもたらしたものは何か。 ○現在の国際社会は、どのような問題に直面しているだろうか。	
	5 4. 核兵器と軍縮 5. 国際紛争と難民 6. 国際政治と日本	○第二次世界大戦後、なぜ軍備拡大が進められたのだろうか。 ○核兵器に対して、国際社会はどのような取り組みをしてきたのだろうか。 ○民族をめぐる対立は、なぜ生じるのだろうか。 ○民族紛争を解決するために必要なものは何だろうか。 ○戦後の日本とアジア諸国との外交は、どのように展開したのだろうか。 ○国際社会のなかで、日本には何が求められているだろうか。	
	第2章 現代の国際経済 1. 商品・資本の流れと国際収支	○貿易はなぜ行われているのか ○国際間の取引はどのようにおこなわれているのだろうか。 ○為替相場はどのように決まってくるのだろうか。	
	6 2. 国際経済体制の変化 3. グローバル化と金融危機 4. 地域経済統合と新興国の台頭	○自由貿易が促進されたことで、どのような問題が生じたのだろうか。 ○グローバル化が生み出した経済格差には、どのような対策が求められているのだろうか。 ○経済のグローバル化によって社会はどのように変容したか。 ○世界経済を安定させるために、国際金融にはどのような対策が求められているのだろうか。 ○地域経済統合は、どのような課題を抱えているか。 ○新興国の経済成長は、世界経済にどのような影響をもたらしているか。 ○国際経済の新たな対立にはどのようなものがあるか。	
	時間	5. 地球環境とエネルギー	○低炭素社会や脱炭素社会をめざすために、エネルギー政策はどうあるべきか。 ○経済成長と環境保護を両立するにはどうすればよいのだろうか
	24	7 6. 経済協力と人間開発の課題	○世界の貧困問題の解決に向けて、どのような取り組みが行われてきたのだろうか。 ○今後、貧困の克服のためにはどのような取り組みが必要になるのだろうか。
	二 学 期	8 第1章 民主政治の基本原則 9 1. 政治と法 2. 民主政治と人権保障の発展 3. 国民主権と民主主義の発展 4. 世界の政治制度	○政治が行われる場である国家とは、どのような制度だろうか。 ○法にはどのような意義と役割があるのだろうか。 ○民主政治はどのように誕生したのだろうか。 ○基本的人権は、歴史的にどのように発展してきたのだろうか。 ○民主政治の意義と課題は何だろうか。 ○民主政治において、どのような配慮が必要になるだろうか。 ○民主政治の諸原理は、各国の政治制度にどのように反映されているのだろうか。
第2章 日本国憲法の基本的性格 1. 日本国憲法の成立 2. 平和主義 3. 基本的人権の保障 4. 人権の広がり		○大日本帝国憲法と日本国憲法にはどのような違いがあるだろうか。 ○憲法改正手続に国民投票が定められているのはなぜか。 ○日本の安全保障体制はどのように展開してきたのだろうか。 ○私たちの平和と安全を守るためには、どのようなことが必要だろうか。 ○日本国憲法の人権保障はどのような内容になっているだろうか。 ○私たちの生活のなかで、どのような人権に関する問題が起こっているだろうか。 ○現在、憲法に規定すべき人権保障として、どのようなものが求められているだろうか。	
10 第3章 日本の政治機構 1. 立法 2. 行政 3. 司法 4. 地方自治		人権と人権が衝突した場合、どのように調整すべきなのだろうか。 ○国会はどのように構成されているのか。 ○国会の運営にはどのような課題があるのだろうか。 ○議院内閣制の下で、内閣はどのような権限をもつのか。 ○官主導社会とはどのような社会だろうか。 ○司法はどのような役割をもっているのだろうか。 ○「司法権の独立」を確保しつつ、裁判所を国民に開かれたものとするために、どのような制度が作られてきたのだろうか。 ○「地方自治の本旨」とはどのようなものだろうか	

	<p>第4章 現代日本の政治</p> <p>1. 戦後政治の歩み</p> <p>2. 選挙制度</p> <p>3. 政治参加と世論</p> <p>1.1 第1章 経済社会の変容</p> <p>1. 経済活動の意義</p> <p>2. 経済社会の形成と変容</p> <p>第2章 現代経済のしくみ</p> <p>1. 市場機構</p> <p>2. 現代の企業</p> <p>3. 国民所得と経済成長</p> <p>4. 金融のしくみ</p> <p>5. 財政のしくみ</p> <p>第3章 現代経済と福祉の向上</p> <p>1. 経済の停滞と再生</p> <p>1.2 2. 日本の中小企業と農業</p> <p>3. 国民の暮らし</p> <p>4. 環境保全と公害防止</p> <p>5. 労使関係と労働条件の改善</p> <p>6. 社会保障の役割</p>	<p>○地方自治はどのような課題を抱えているのだろうか。</p> <p>○日本の政党政治はどのように推移してきたのだろうか。</p> <p>○日本の政党政治の課題は何だろうか。</p> <p>○日本の選挙制度にはどのような種類があるのだろうか。</p> <p>○日本の選挙制度の課題は何だろうか。</p> <p>○マス・メディアやSNSは政治にどのような影響を与えているのだろうか。</p> <p>○市民が政治に対して主体的にかかわるためには、どのような課題があるのだろうか。</p> <p>○経済活動とは、どのようなものを指すのか。</p> <p>○私たちはどのように経済的な選択と判断をおこなっているのだろうか。</p> <p>○資本主義経済はどのような特徴を持ち、それを支える経済的思想はどのようなものだったのだろうか。</p> <p>○現代資本主義経済はどのような課題に直面しているのだろうか。</p> <p>○市場では価格をシグナルとして、どのように需要量と供給量が調整され、効率的に資源配分されるのだろうか。</p> <p>○市場が機能をはたせなくなるのはどのような場合だろうか。</p> <p>○企業にはどのような形態のものがあるのだろうか。</p> <p>○現代の企業は利潤追求以外に何が求められているのだろうか。</p> <p>○国家の経済活動の規模を表す指標にはどのようなものがあるか。</p> <p>○金融機関は経済主体間の資金の融通をどのようにおこなっているのだろうか。</p> <p>○金融制度はどのように変化してきたのだろうか。</p> <p>○金融技術はどのように進展しているのか。</p> <p>○政府の経済活動である財政にはどのような役割があるのだろうか。</p> <p>○日本の財政システムにはどのような特徴があり、どのような課題があるのだろうか。</p> <p>○日本経済はどのような変化をとげてきたのだろうか。</p> <p>○国際経済の関係変化は日本の経済政策にどのような変化をもたらしたのだろうか。</p> <p>○中小企業とは何か。大企業とはどのような点で違いがあるのだろうか。</p> <p>○これからの中小企業や農業には、どのようなことが求められているのだろうか。</p> <p>○消費者問題にはどのようなものがあるだろうか。</p> <p>○消費者が安心して生活を送ることのできる社会を作るためには、どのようなことが必要だろうか。</p> <p>○公害が発生する基本的な原因はどこにあるのか。</p> <p>○地球環境を維持するためには、どのような対策をとればよいのだろうか。</p> <p>○職場環境や労働者の諸権利に関して、どのような課題があるだろうか。</p> <p>○労働者が安心して働けるための条件とは何か。</p> <p>○日本の社会保障制度のしくみは、どのようにになっているだろうか。</p> <p>○今後の社会保障制度はどうあるべきだろうか。</p>
時間		
28		
三学期	総合的に学習する	
時間		
18		
講習		

政治・経済の学び方

○政治・経済学習の留意点

- ① 授業時数に限りがあるので、2年生まででは学んでいない国際政治・国際経済分野からの学習となります。政治・経済分野については、2学期になってから公共で学んだ内容を発展的に学習し直す予定です。公民全般の説明のところでも述べましたが、必修の授業なので受験に特化した内容ではありません。公共、政治・経済の組合せで共通テスト受験を考えている人は、夏期講習などで補うようにしますが自分でも学習してもらうことになります。私大の受験科目として考えている人は、受験する大学に応じてさらに自学自習が必要だと考えてください。分からないところは質問を受け付けるなど、随時サポートはしていきます。
- ② 参考書・問題集は自由選択の政治・経済演習で使用するものを参考にしてください。また参考書・問題集は必ず最新のものを購入してください。古いものは時事問題に対応できないので注意してください。
- ③ 他の分野を学習してはじめて理解できることが多くあるので、現代文の論説文や歴史の近現代史、地理なども並行して学んで下さい。
- ④ 日々のニュースや新聞に対して関心をもって下さい。

○受験対応について

留意点と重複しますが、授業中に受験対策の演習などをする時間は十分とは言えません。自分自身で計画的・継続的に学習する必要があります。共通テスト対策という点では、まず基本は教科書の通読です。教科書に出ていないことが出題されることはあまりありませんが、逆に言えば教科書に書いてあれば年表や図表など、どんな細かいことでも出題されるということになります（これは倫理にも言えることです）。問題演習をする場合は、単に解答するだけでなく、問題文・各選択肢・解説を細かく読み込んでください。「問題を使って学習する」感覚です。なお共通テスト(センター試験)の過去問・対策問題は私大対策としても有効です。私大の問題は大学によって難易度がかなり違うので一概には言えませんが、資料集を細かく読み込むレベルまで学習する必要があります。

政治・経済演習

年間授業計画

科目	政治・経済演習	履修	自由選択	学年	3	単位	2単位
講座名	政治・経済演習	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。				
評価規準	○現実社会の諸課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 ○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	○国家及び社会の形成者として広く課題を発見し、現実社会に見られる複雑な課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めている。 ○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。 ○理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする実践的意欲を持っている。 ○現実社会の諸課題についての探究的な態度を身に付け、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成により積極的な役割を果たす在り方を主体的に探究しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。また、そのような取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。				
評価方法	小テスト、定期考査、準拠演習ノートなど	定期考査、レポート、ノート、準拠演習ノートなど	活動の様子の観察、レポート、口頭発表、ふりかえりシートなど				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	民主政治の基本原理	政治と法について学ぶ。社会契約説を概観し、さまざまな権利の発達を理解する。人権宣言や憲法を手掛かりとして、近代民主主義の原理や課題を学ぶ。憲法成立の過程を概観し、明治憲法と日本国憲法の比較などを通して、現行憲法の基本原理を理解する。 国会・内閣・裁判所などの統治機構を理解し、身近な政治としての地方自治について理解を深める。 選挙制度のや政治参加について自分自身のこととして学ぶ。 経済社会の変容及び現代経済のしくみは夏期講習で行う予定					
時間	日本国憲法の基本的性格						
24	日本の政治機構						
二学期	現代経済と福祉の向上	日本経済の歩みや、環境・公害、労働問題、社会保障について理解する。 主権国家を基本単位とする国際社会がどのような政治を生み出したかを学ぶ。人類が共存できる国際社会をつくるために何が必要なのかを考える。 国際経済体制や地域経済統合など、グローバル化とそれに逆行する動向を合わせて学び、これからの経済のあり方について考える。					
時間	現代の国際政治						
28	世界経済と日本						
三学期	総合的に学習する予定						
時間							
18							
講習							

政治・経済演習の学び方

政治・経済受験者を対象とした問題演習中心の授業なので、自発的に学ぶ態度が何より必要です。必修選択政治・経済の学習を基礎に、大学入学共通テストを中心的な目標とし、私立大学・国公立大学で出題される内容も視野に入れながら、発展的内容についても資料集から主体的に学んでいってください。

数学科

数学科学習指導計画

教科の学習目標

第1学年の数学Ⅰでは、中学数学を土台として具体的な事象の考察を重視し、数と式・2次関数・図形と計量・データの分析を学ぶ。基本知識の習得・整理を行い、数学を学び活用する基礎力・態度を育成する。数学Aでは、場合の数と確率、図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

第2学年の数学Ⅱでは、数学Ⅰを土台として具体的な事象の考察を重視し、式と証明・複素数と方程式・図形と方程式・三角関数・指数関数と対数関数・微分法と積分法を学ぶ。基本知識の涵養・整理をし、数学を学び活用する基盤・態度を育成する。数学Bでは、数列と統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。数学Cでは、ベクトルについて数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。

第3学年では、文系・理系に分かれ、理系では『数学ⅢC』（理工医系）、または『数学ⅠAⅡBC』（農薬看護系）を学習し、文系では、国公立大学を受験する生徒や数学が受験科目にある大学等を受験する生徒のために選択科目として数学の講座が開講される。開講される講座の具体的な内容については、今後の状況に応じて決定される。数学Ⅲでは、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。数学Cでは、ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
数学Ⅰ	1	必修	3	高等学校数学Ⅰ（数研出版）	4プロセス数学Ⅰ+A（数研出版） チャート式基礎からの数学Ⅰ+A（数研出版）
数学A	1	必修	2	高等学校数学A（数研出版）	4プロセス数学Ⅰ+A（数研出版） チャート式基礎からの数学Ⅰ+A（数研出版）
数学Ⅱ	2	必修	3	高等学校数学Ⅱ（数研出版）	4プロセス数学Ⅱ+B（数研出版） チャート式基礎からの数学Ⅱ+B（数研出版）
数学B	2	必修	2	高等学校数学B（数研出版）	4プロセス数学Ⅱ+B（数研出版） チャート式基礎からの数学Ⅱ+B（数研出版）
数学C	2	必修	1	高等学校数学C（数研出版）	4プロセス数学C（数研出版）
	3	理必選	2		チャート式基礎からの数学C（数研出版）
数学Ⅲ	3	理必選	3	高等学校数学Ⅲ（数研出版）	4プロセス数学Ⅲ（数研出版） チャート式基礎からの数学Ⅲ（数研出版）
数学演習 （理）	3	理必選	5	高等学校数学Ⅰ（数研出版） 高等学校数学A（数研出版） 高等学校数学Ⅱ（数研出版） 高等学校数学B（数研出版） 高等学校数学C（数研出版）	キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C受験編（数研出版）
数学演習 （文）	3	文必選	5	高等学校数学Ⅰ（数研出版） 高等学校数学A（数研出版） 高等学校数学Ⅱ（数研出版） 高等学校数学B（数研出版） 高等学校数学C（数研出版）	メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C受験編（数研出版）
数学標準演習	3	文必選	2	高等学校数学Ⅰ（数研出版）	ニュースタンダードⅠ・A+Ⅱ・B・C受験

(文)				高等学校数学A (数研出版) 高等学校数学II (数研出版) 高等学校数学B (数研出版) 高等学校数学C (数研出版)	編 (数研出版)
数学発展演習 (理)	3	理必選 理自選	2	高等学校数学I (数研出版) 高等学校数学A (数研出版) 高等学校数学II (数研出版) 高等学校数学B (数研出版) 高等学校数学C (数研出版)	メジアン数学演習I・II・A・B・C受験編 (数研出版)

数学を学ぶにあたって

○数学の授業を通じて身につけて欲しい力とは？

時代が変わり、社会が変化するにつれて、社会が必要とする学力観というものも少しずつ変化するのである。今は知識をすべて頭に入れてなくともスマートフォン等で検索することによって簡単に必要な情報を得られる時代になり、AIの発達で機械的な作業では人間の出番は少なくなっている。そのような社会で生き抜くためには受け身ではなく主体的に学び、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力などの育成が必要である。数学はあらゆる科学を記述する言語であり、思考モデルである。数学で使う論理は世界共通のものであり、学問の中でも最も古く先人の残した豊富な財産である。数学を学ぶことで科学的な考え方の精神を身につけ、他の応用的な学問への基礎力も身につけてほしい。

また、大学入試においても進路を実現するためには、数学を選択できると進路の幅がずっと広がる。大学入学共通テストでは、より未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力が必要な問題が出題されている。また、国公立の2次試験や私立大学の試験でも数学は記述問題が多い。そのためには「公式を覚えてただ計算するだけで求められる問題」だけが解けることが目標ではいけないということである。どのような答案が書けることが目標か・・・それは大学側の入試問題を採点するにあたってのコメントから察することができる。

(採点するにあたってのコメント)

- ・ 中途半端な公式やパターンの暗記は害である。無理に当てはめようとして不自然な思考に陥る。
- ・ 明らかな内容でも何故そうしたかを一言でも説明すべきである。
- ・ 採点官は、書いてあるか否かで判断する。内容から推察するようなことはしない。
- ・ 受験生には「論理性」と「計算力」を求める。
- ・ 途中の推論が正しければ最終的な答えに至らなくても部分点を与える。
- ・ 論理的記述力を見る問題では、答えのみ羅列しても得点は低い。
- ・ 易しい問題ほど論理の不備や説明不足は厳しく採点している。

○数学の授業を受ける上での注意点

上記のような共通テストや記述テストに対応できる力をつけるには普段の授業をどのように取り組んだら良いのだろうか？公式を覚え、それを使いこなすことは重要であり、最初に身につけることである。しかし形だけを暗記するとすぐに忘れてしまう。それはその公式が誕生するストーリーを追っていないからである。その公式の証明を再現できずとも、こういう知識を使ってできたぐらいのイメージがあればだいぶ違うはずだ。また、自分自身の「なぜ？」を大切にすることだ。すぐに解決しなくても取っておいて、機会があればいつか解決すればよい。「なぜ？」を解決した経験の多さが力になるはずである。

さらに、数学的な事実を確認するために具体的な数字や図形で実験してみよう。試しにやってみたり、実験して検証したりする習慣がついていない人が多い。数学の実験は紙と鉛筆だけで出来るのだ。また、出来なかった問題は繰り返し解いてみることも大切である。人間は反復しないと新しい技術は身につかないものだ。是非粘り強く解き直ししてほしい。

記述の答案の書き方は無駄な部分はなるべく書かず必要な論理はしっかり書くことである。最終的な答えだけが解答ではなく「研究レポート」を短くまとめたものだと思えばよい。文化としての数学、受験科目としての数学、ともに授業を通してしっかり身に付けてくれることを期待している。

数学 I

科目	数学 I	履修	必修	学年	1	単位	3 単位
講座名	数学 I	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や文字式の計算の方法と関連付けて、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 命題の条件や結論に着目し、数や文字式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） 学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） 学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシート、小テスト 振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 				

月	学習の単元		学習の内容
学期	4	数と式	<p>数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。 ※集合については数学Aで扱う。</p> <p>2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>
	5	命題と証明	
時間	6	2次関数	
36	7		
二学期	9	図形と計量	<p>三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。</p> <p>整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。</p>
	10		
時間	11	データの分析	
42	12		
三学期	1	数学Iからの発展学習	<p>方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p> <p>座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>
	2		
時間	3		
27			
講習	長期休業中に行う予定		

数学 I の学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。(教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。)

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
- ② 講義をノートにまとめる。
- ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)
→数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。

- ① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。
- ② 「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。
→問題演習を通して、解答を作る記述力(表現力)を身につける。

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになったりすることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。(問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的)

理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。

→見方・考え方を深め、資質・能力を育成、応用力を磨いていきます。

問題の解き直しについて

① 問題を解く方針が立たなかったとき

問題集を解いていて分からない問題にぶつかったとき、どうしたらいいだろう。じっくり考えることも大切だが、5分考えても見通しがつかなかった場合、まず解答をよく読み、しっかり理解して、頭の中で再現しながら一行一行きちんと記述してみよう。思い出せない時や、自信がない時はもう一度解答を見てもよい。(頭を使わず左から右へ写すような行為はやめよう。)そして、数日後に解き直しをする。

よく解答をきれいに写して理解したつもりになっている人がいるが、その問題がテストにそのまま出題されたときに本当に解けるだろうか。理解するだけでは、数学はできるようにならない。インプット(理解)とアウトプット(計算や記述)が両方できてやっと点数に結びつく。

② 途中まではできたが、「ケアレスミス」で間違えたとき

「ケアレスミス」は、実力不足・練習不足である。「ケアレス」だったのだから大丈夫、と思っていると、また何度も同じミスを繰り返し、いつまでも同様のミスを繰り返すことになる。ケアレスミスを本気で無くしたいなら、必ず間違えた理由を言語化し、間違えのパターンを記憶に残すようにしよう。

数学Ⅱ

科目	数学Ⅱ	履修	必修	学年	2	単位	3単位
講座名	数学Ⅱ	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	図形と方程式，三角関数，指数関数・対数関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形と方程式，三角関数，指数関数・対数関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 ・ 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 ・ 関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を身に付けている。 ・ 関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 				
評価方法	<p>行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 	<p>行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ ノートやワークシート，レポート等を回収し，その内容に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 	<p>振返りシート，小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振返りシートを回収し，その記述内容に基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 				

月	学習の単元		学習の内容
一 学 期	4	図形と方程式 ・点と直線(7) ・円(7)	図形と方程式, 三角関数, 及び指数関数と対数関数について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○図形と方程式 ・直線の方程式・点と直線の距離・円の方程式・円と直線・2つの円 ・軌跡と方程式・不等式の表す領域 ○三角関数 ・角の拡張・三角関数・三角関数のグラフ・三角関数の性質・三角関数の応用 ・加法定理・加法定理の応用
	5	・軌跡と領域(6) 三角関数	
	時間 6	・三角関数(9) ・加法定理(7)	
	36 7		
二 学 期	9	指数関数と対数関数 ・指数関数(5)	指数関数と対数関数, 微分法と積分法について理解し, それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○指数関数と対数関数 ・指数の拡張・指数関数・対数とその性質・対数関数・常用対数 ○微分法と積分法 ・微分係数・導関数とその計算・接線の方程式・関数の増減と極大・極小 ・関数の増減・グラフの応用・不定積分・定積分・定積分と面積 問題集・プリント等で演習をしながら受験に向けて実力を固める。
	10	・対数関数(7) 微分法と積分法	
	11	・微分係数と導関数(7) ・関数の値の変化(8)	
	時間 12	・積分法(10)	
42	数ⅠAⅡBの総復習・発展的内容の学習	問題集・プリント等で演習をしながら受験に向けて実力を固める。	
三 学 期	1	数ⅠAⅡBの総復習・発展的内容の学習	問題集・プリント等で演習をしながら受験に向けて実力を固める。
	2		
	時間 3		
27			
講習	長期休業中に行う予定		

数学Ⅱの学び方

○予習 教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点、疑問点を把握してから授業に臨む。教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
- ② 講義をノートにまとめる。
- ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負!)
→数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日] 復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。

- ① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。
- ② 「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。
→問題演習を通して、解答を作る記述力(表現力)を身につける。

[週末] 授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになったりすることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。(問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的)理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。→見方・考え方を深め、資質・能力を育成。応用力を磨いていく。

数学Ⅲ

科目	数学Ⅲ	履修	必選	学年	3	単位	3単位
講座名	数学Ⅲ	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。	極限、微分法及び積分法について理解させ、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにする。	極限、微分法及び積分法について理解させ、それらを活用する態度を育てる。				
評価規準	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価方法	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	振り返りシート、小テスト ・振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	4	微分法の応用 積分法とその応用	導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかく。また、それらを事象の考察に活用する。 ・接線の方程式　・平均値の定理　・関数の値の変化　・関数のグラフ ・方程式、不等式への応用　・速度と加速度　・近似値 積分法について理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。 ・不定積分・定積分とその基本性質　・置換積分法と部分積分法 ・いろいろな関数の不定積分　・定積分のいろいろな問題				
	5						
	6						
時間	36	7					
二学期	9	積分法とその応用 入試問題演習	定積分のいろいろな問題 ・面積　・体積　・曲線の長さ　・微分方程式 数学Ⅲ入試問題演習①（プリント、問題集使用） ・単元別　・入試頻出事項				
	10						
	11						
時間	42	12					
三学期	1	特別時間割	数学Ⅲ入試問題演習② ・大学別　・直前チェック確認事項				
	2						
	3						
時間	27						
講習	長期休業中に実施予定。						

数学Ⅲの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、おおまかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
- ② 講義をノートにまとめる。
- ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)

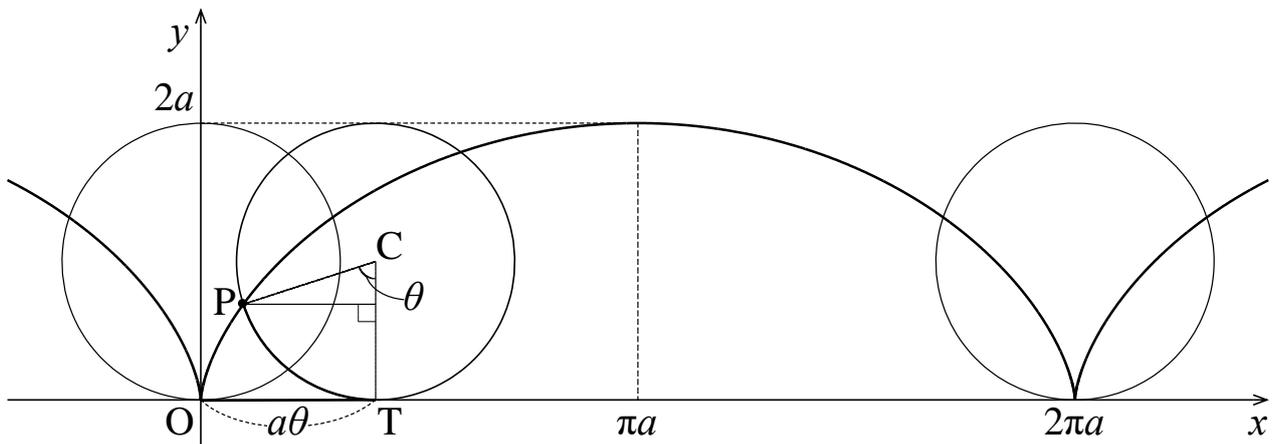
○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習はためずに必ずその日のうちに理解する。授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。「4プロセス」「チャート」等を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。(数学Ⅲは特に内容が高度で、進むスピードが速いので注意！)

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じることがある。週末を利用してじっくり復習し・定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。「4プロセス」「チャート」等を利用して、理解を深める。



数学A

科目	数学A	履修	必修	学年	1	単位	2単位
講座名	数学A	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<p>場合の数と確率、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>	<p>図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p>	<p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・場合の数と確率、図形の性質及び数学と人間の活動の関係についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素の関係などに着目し、新たな図形の性質を見だし論理的に考察したり説明したりできるとともに、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察できる力を身に付けている。 ・事象の構造、確率の性質や法則に着目し、場合の数や確率を求める方法を多面的に考察したり、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりできる力を身に付けている。 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させて考察したり、身近な遊びなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察したりできる力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 				
評価方法	<p>行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<p>行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<p>振返りシート、小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 				

月	学習の単元		学習の内容
一 学 期	4	場合の数と確率 ・ 場合の数 ・ 確率	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○場合の数 ・ 集合の要素の個数 ・ 場合の数 ・ 順列 ・ 組み合わせ ○確率 ・ 事象と確率 ・ 確率の基本性質 ・ 独立な試行と確率 ・ 条件付き確率
	5		
	6		
	7		
時間	24		
二 学 期	9	図形の性質 ・ 平面図形 ・ 空間図形	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○平面図形 ・ 三角形の辺の比 ・ 三角形の外心・内心・重心 ・ チェバの定理・メネラウスの定理 ・ 円に内接する四角形 ・ 円と直線 ・ 2つの円 ・ 作図 ○空間図形 ・ 直線と平面 ・ 空間図形と多面体
	10		
	11		
	12		
時間	28		
三 学 期	1	数学と人間の活動 ・ 約数と倍数 ・ ユークリッドの互除法 ・ 整数の性質の活用	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。 ○約数と倍数 ・ 約数と倍数 ・ 最大公約数と最小公倍数 ・ 整数の割り算における商・余り ○ユークリッドの互除法 ・ ユークリッドの互除法 ・ 1次不定方程式 ○整数の性質の活用 ・ n進法
	2		
	3		
時間	18		
講習	長期休業中に行う予定		

数学Aの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
 - ② 講義をノートにまとめる。
 - ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)
- 数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。

- ① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。
 - ② 「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。
- 問題演習を通して、解答を作る記述力(表現力)を身につける。

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。(問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的)

理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。

→見方・考え方を深め、資質・能力を育成。応用力を磨いていきます。

数学B

科目	数学B	履修	必修	学年	2	単位	2単位	
講座名	数学B	担当						
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】					
目標	<p>数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>	<p>離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p>	<p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>					
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力を身に付けている。 ・ 確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。 ・ 日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 					
評価方法	<p>行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 	<p>行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ ノートやワークシート，レポート等を回収し，その内容に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 	<p>振返りシート，小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振返りシートを回収し，その記述内容に基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 					
月	学習の単元	学習の内容						
二 学 期 時間 42	9 10	数列 ・ 数列とその和	<p>簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>○数列とその和 ・ 等差数列と等比数列 ・ いろいろな数列</p> <p>○漸化式と数学的帰納法 ・ 漸化式と数列 ・ 数学的帰納法</p>					
	11 12	・ 漸化式と数学的帰納法						
	1 2	統計的な推測 ・ 確率分布						
三 学 期 時間 27	1 2 3	統計的な推測 ・ 確率分布 ・ 統計的な推測	<p>確率分布や統計的な推測についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>○確率分布 ・ 確率変数と確率分布 ・ 確率変数の期待値と分散 ・ 確率変数の和と積 ・ 二項分布 ・ 正規分布</p> <p>○統計的な推測 ・ 母集団と標本 ・ 標本平均と分布 ・ 推定 ・ 仮説検定</p>					
講習	長期休業中に行う予定							

数学Bの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
- ② 講義をノートにまとめる。
- ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)
→数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。

- ① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。
- ② 「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。
→問題演習を通して、解答を作る記述力(表現力)を身につける。

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。(問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的)

理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。
→見方・考え方を深め、資質・能力を育成。応用力を磨いていきます。

数学 C

科目	数学 C	履修	必修	学年	2	単位	1 単位
講座名	数学 C	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きを持った量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、数学的な表現の工夫について認識を深め、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価規準	・ベクトル、平面上の曲線についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	・大きさと向きを持った量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価方法	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	振返りシート、小テスト ・振返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間	4	ベクトル ・ベクトルとその演算 ・ベクトルと平面図形 ・空間のベクトル	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○平面上のベクトル ・ベクトルとその演算 ・ベクトルの内積 ○空間座標とベクトル				
	5						
6							
7							
36							
講習	長期休業中に行う予定						

数学Cの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
- ② 講義をノートにまとめる。
- ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)
→数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。

- ① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。
- ② 「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。
→問題演習を通して、解答を作る記述力(表現力)を身につける。

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。(問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的)

理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。
→見方・考え方を深め、資質・能力を育成。応用力を磨いていきます。

数学 C

科目	数学 C	履修	必選	学年	3	単位	2 単位
講座名	数学 C	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価規準	・ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	・大きさや向きを持った量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価方法	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ノートやワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	振り返りシート、小テスト ・振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間 24	4	ベクトル総復習	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できる。 放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできる。また、離心率を用いて2次曲線を統一的に捉える。				
	5	複素数平面					
二学期 時間 28	6	式と曲線					
	9	数 I A II B III C の総復習・発展的内容の学習	問題集・プリント等で演習をしながら受験に向けて実力を固める。				
	10						
11							
三学期 時間 18	12						
	1	数 I A II B III C の総復習・発展的内容の学習	問題集・プリント等で演習をしながら受験に向けて実力を固める。				
	2						
3							
講習	長期休業中に行う予定						

数学Cの学び方

○予習

教科書の説明や例題を読む。次の授業ではどのようなことを学ぶのか、大まかな流れや不明点・疑問点を把握してから授業に臨む。教科書は置いておくものではない。何度もしっかり読むこと。

○授業

- ① 説明を聞きながら、予習での疑問点を確認する。
- ② 講義をノートにまとめる。
- ③ 授業中に必ず理解するようにする。(授業で勝負！)
→数学的な見方・考え方を身につけ、問題解決のための知識・技能を理解する。

○復習とその他の家庭学習

[授業があった日]

復習は溜めずに、その日のうちに理解する。数学は内容が積み重なっていくため、疑問点を解決してから次の授業に臨む。

- ① 必ずその日のうちに、授業でやった例題・問題を、解答を見ないでもう一度自力で解ききる。
- ② 「4プロセス完成ノート」を利用して、授業でやった内容に関連する問題を解く。
→問題演習を通して、解答を作る記述力(表現力)を身につける。

[週末]

授業の直後に理解できていたことでも、時間が経つと疑問が生じたり、記憶があやふやになることがある。週末を利用してじっくり復習し、定着させる。その週に学んだ範囲の問題を、もう一度まとめて解くことで理解を深める。(問題集「4プロセス」を用いて、レポート用紙で2周目にチャレンジすると効果的)

理解が十分にできた人は、「チャート」のやや難しい問題にチャレンジしよう。
→見方・考え方を深め、資質・能力を育成。応用力を磨いていきます。

数学演習（文）

科目	数学演習（文）	履修	必選	学年	3	単位	5単位
講座名	数学演習（文）	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	数学ⅡBC（ベクトル）について基本から応用を理解し、体系的に記述できる力を養う。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、正しい答案が作れるようになる。	数学ⅡBC（ベクトル）において、問題について深く思考し問題解決する力、解決過程や結果を批判的に考察する力を養う。以下は具体例 数と式：多面的に観察し、必要に応じて適切に変形する力 図形：性質や計量について論理的に考察し表現する力（ベクトルを含む） 関数：事象を的確に表現し、その特徴を表や式およびグラフを相互に関連付けて考察する力	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 数学ⅡBC（ベクトル）についての基本から応用まで理解し、記述力を身に付けている。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学ⅡBC（ベクトル）全般において、筋道をたてて考える力・資料やグラフを読み取り情報を活用する力・自分の言葉でわかりやすく表現する力が身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 				
評価方法	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストや課題を実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	振り返りシート、小テスト ・振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストや課題を実施し、その結果に基づいて評価する。				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	全ての基本事項の確認 数学Ⅱ 数学B 数学C（ベクトル） 全範囲		数学ⅡB全範囲と数学C（ベクトル）に関する基本事項の確認 式と証明／図形と方程式／三角関数／指数関数と対数関数／微分法・積分法 数列／統計的な推測 ベクトル				
時間	60						
二学期	発展的融合問題演習 上記の数学ⅡBC全範囲		上記の数学ⅡBC全範囲に渡る発展的融合問題の演習				
時間	70						
三学期	特別時間割						
時間	45						
講習	冬季休業中に行う予定						

数学演習（文）の学び方

○選択の心構え

この講座は私立一般受験や国公立2次試験で数学ⅡBC（ベクトル）を受験科目とする生徒を対象としている。したがって1・2年次に学習した内容について、ある程度は身につけていることを前提としている。多単元の融合問題を扱うので、しっかり取り組む姿勢が求められる。

また、演習授業全般について言えることであるが、授業における解説を聞いただけでは当然のことながら実際の問題に対応する力はない。自宅学習等においては授業時間数の2～3倍の自習時間が必要と考え、定着のために反復学習することが不可欠である。それだけの時間を、選択した他の数学演習講座の自習時間に加えて学習することになるので、他の講座よりもさらに強い覚悟が必要である。それなしに選択をすれば、全部の授業について消化不良をおこし、選択した意味がないという事態になりかねないので、よく考えて受講することが必要である。

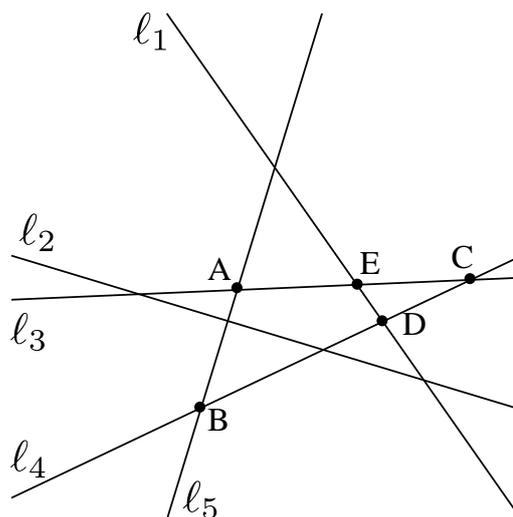
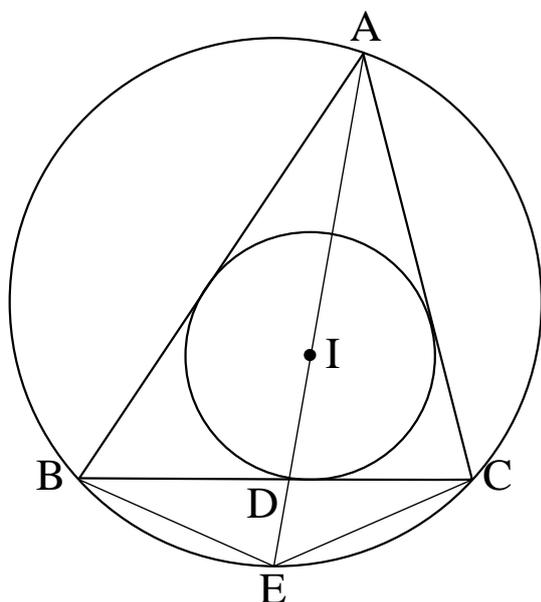
○選択の準備

文系難関大学の記述式試験に対応する力を身につけるためには基礎事項を授業時間内で復習することはできない。また授業と平行して基礎事項を思い出しながら問題演習を進めていけば、複数分野に横断的な内容があたりまえのように出題される記述式出題に対応できるようになるのは厳しいと言わざるを得ない。この講座の受講に当たっては、数学ⅡBC（ベクトル）全範囲の公式や基礎事項が既に頭の中の「引き出し」に入っている状態であるのはもちろんのこと、複数の「引き出し」からすぐに必要な知識をスムーズに取り出して、それらの組み合わせ方をイメージすることがある程度できる準備が必要となる。2年生の3学期（3年0学期）が終わるまでの間にどれだけ内容のある総復習を終えるかで、この授業の成果が左右されると言っても過言ではないのである。初回の授業までにしっかりと準備を整えておいてほしい。

○学習の進め方

1学期は全範囲に渡って項目別に応用問題までを扱う。2学期はやや発展的な融合問題を多く扱い、分野横断的な内容に対する対応力を身につける。

日々の学習に関しては、上記の通り授業時間の2～3倍の自習時間（予復習を含む）をかけて、十分に反復学習を行い、学習した解法をスムーズに再現できるようにするまでがこの講座の学習である。「わかる」ということは確かに大切なことだが、受験勉強において何より大切なのは「できる」ようになることだからである。



数学演習（理）

科目	数学演習（理）	履修	必選	学年	3	単位	5単位
講座名	数学演習（理）	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	1, 2年の学習内容のうち基本的な項目を網羅したGETREADY/Trainingの問題を主に演習する	項目や生徒の状況に応じて少し発展的なChallenge問題も演習して思考力や表現力の育成に努める。	課題としてPLUSONEの問題を提示し主体的に学習する態度を身に着ける				
評価規準	基本的な知識や計算力が定着しているかで評価する。 定期テストの基本事項の項目で判定する	発展的な問題に取り組むことで解いた経験のない問題にも対応できるようになっているかを評価の規準とする。	課題の提出や考査での同項目の問題で評価する。				
評価方法	定期考査の同項目の問題で評価する。また、授業中の学習姿勢や小テストの結果も評価に加える。	定期テストの同項目の問題で評価する。学習への姿勢や小テスト等の結果も加味する。	ワークシート等の提出で自主的な内容が有れば評価に加える。				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	基本事項の確認 数学 I 数学A 数学 II 数学B 数学C（ベクトル）	数学 I：数と式、2次関数、図形と計量、データの分析 数学A：場合の数と確率、図形の性質 数学 II：式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分法・積分法 数学B：数列、統計的な推測 数学C：ベクトル					
時間							
60							
二学期	発展的な問題演習・大学入試問題演習	少し難しい問題を演習し、大学入試問題も適宜導入する。					
時間							
70							
三学期	特別時間割	特になし。					
時間							
45							
講習	長期休業中に実施予定。						

数学演習（理）の学び方

○選択の心構え

本講座は理系大学を志望する生徒のうち数学Ⅲを受験で使用しない生徒を対象としている。大学入学共通テストや私立大学、国立大学の2次試験等で数学ⅠA、ⅡBC（ベクトル）の範囲の入試に対応できる力を養成することを目的としている。1・2年次に学習した内容についてはその基礎的な知識が身につけていることを前提とした授業なので、2年終了時にはⅠA、ⅡBC（ベクトル）全範囲の総復習をしておくことが必要とされる。また、授業内の解説だけでは実際の入試には対応できないので授業前の予習や、復習が求められる。

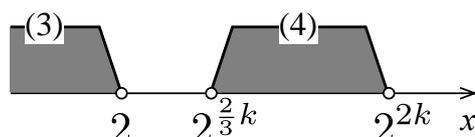
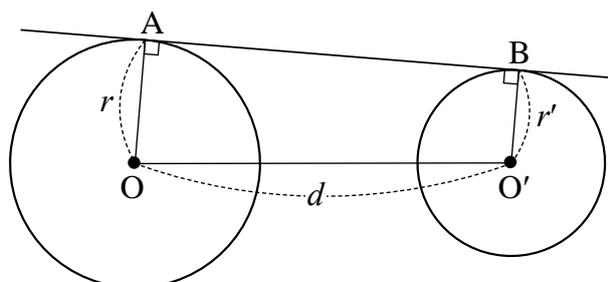
○選択の準備

心構えで記載したように、入試問題に対応できる学力を身に着けるには基礎事項の確認だけでは十分ではない。したがって、基本的な事柄はしっかりと定着させてからこの講座を受講すること。

○授業の形態

1学期は主に、基本的な問題を多めに演習を行う。夏休み前には基本事項を終了させる予定。

2学期は標準からやや発展的な問題に取り組み、状況に応じていろいろな大学の入試問題演習を実施する予定。受講する生徒の受験する予定大学の過去問もなるべく実施したい。



数学標準演習（文）

科目	数学標準演習（文）	履修	必選	学年	3	単位	2単位
講座名	数学標準演習（文）	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	数学ⅠAⅡBC（ベクトル）について基本から応用を理解し、体系的に記述できる力を養う。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、正しい答案が作れるようになる。	数学ⅠAⅡBC（ベクトル）において、問題について深く思考し問題解決する力、解決過程や結果を批判的に考察する力を養う。以下は具体例 数と式：多面的に観察し、必要に応じて適切に変形する力 図形：性質や計量について論理的に考察し表現する力（ベクトルを含む） 関数：事象を的確に表現し、その特徴を表や式およびグラフを相互に関連付けて考察する力	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
評価規準	・数学ⅠAⅡBC（ベクトル）についての基本から応用まで理解し、記述力を身に付けている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・数学ⅠAⅡBC（ベクトル）全般において、筋道をたてて考える力・資料やグラフを読み取り情報を活用する力・自分の言葉でわかりやすく表現する力が身につけている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。				
評価方法	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストや課題を実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取り組みの様子、発言やつぶやきなどの内容、ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ワークシート、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。	振り返りシート、小テスト ・振り返りシートを回収し、その記述内容に基づいて評価する。 ・小テストや課題を実施し、その結果に基づいて評価する。				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	全ての基本事項の確認 数学Ⅰ 数学A 数学Ⅱ 数学B 数学C（ベクトル）		数学ⅠAⅡB全範囲と数学C（ベクトル）に関する基本事項の確認 数と式/2次関数/図形と計量/データの分析 場合の数と確率/図形の性質/ 式と証明/図形と方程式/三角関数/指数関数と対数関数/微分法・積分法 数列/統計的な推測 ベクトル				
時間	24						
二学期	発展的融合問題演習 上記の数学ⅠAⅡBC全範囲		上記の数学ⅠAⅡBC全範囲に渡る発展的融合問題の演習				
時間	28						
三学期	特別時間割						
時間	18						
講習	冬季休業中に行う予定						

学習の進め方

○選択の心構え

この講座は大学入試共通テストにおいて数学ⅠAⅡB C（ベクトル）を受験する、または一部の難関大学を除いた記述式試験を課される文系大学を志望する生徒を対象としている。1・2年次に学習した内容について、ある程度は身につけていることを前提として授業は進められるので、2学年3学期終了までに数学ⅠAⅡB全範囲C（ベクトル）の総復習を終えていることが求められる。週1回2時間の授業の中で全単元の問題演習を反復して行うので、しっかり準備して臨む姿勢が求められる。

また、演習授業全般について言えることであるが、授業における解説を聞いただけでは当然のことながら実際の問題に対応する力はない。自宅学習等においては授業時間数の2～3倍の自習時間が必要と考え、定着のために反復学習することが不可欠である。消化不良をおこさないためにそれだけの時間を毎週かけて学習する覚悟が必要である。

○選択の準備

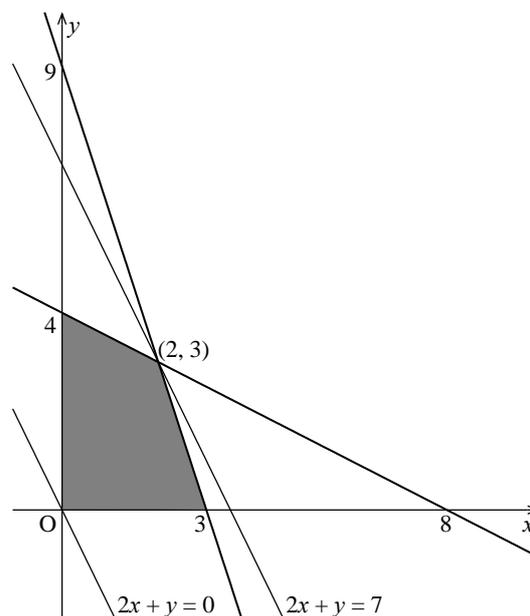
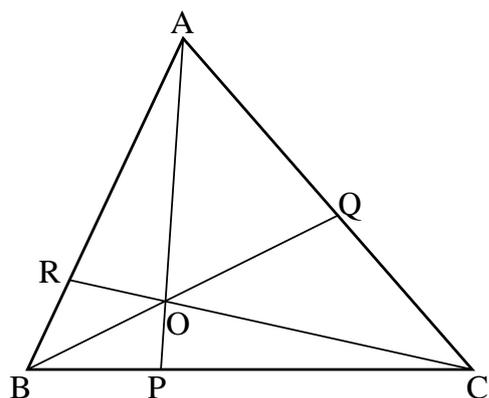
大学入学共通テストや標準的な文系大学の記述式試験に対応する力を、4月から12月までの週2時間の授業で身につけるためには、基礎事項を授業時間内で毎回復習することはできない。くどいようだが2年3学期の終わりまでに数学ⅠAⅡB全範囲C（ベクトル）の総復習を終えていることが、この講座の受講に当たっては前提となる。3年0学期が終わるまでに総復習を終えるかどうかで、この授業の成果が左右されると言っても過言ではない。初回の授業までにしっかりと準備を整えておいてほしい。

○基本事項の徹底

1学期中は、基本事項の確認・理解に力を入れる。基本的な問題を解きながら、重要既習事項について、再点検とその整理を行う。毎時間扱う問題の予習と完璧に解答を再現できるレベルまで復習することが求められる。

○弱点の補強と応用力の養成

2学期は、完成を目指して弱点分野の補強と、実践力の養成を平行して進める。大学入学共通テスト対策問題や実際の記述式入試問題に則した形式で演習を行う。限られた時間内に、正確な答案作成ができる力を身につけることを目標に問題を解き、解説を聞き、反復練習することを繰り返し行う。



数学発展演習（理）

科目	数学発展演習（理）	履修	必選・自選	学年	3	単位	2単位
講座名	数学発展演習（理）	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<p>数学ⅠAⅡBC（ベクトル）について基本から応用，さらには記述力を体系的に理解・活用するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付け，正しい答案が作れるようになる。</p>	<p>数学ⅠAⅡBC（ベクトル）全般において，問題について深く思考し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，ベクトルを含む図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力について，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を養う。</p>	<p>数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学ⅠAⅡBC（ベクトル）についての基本から応用まで理解し，記述力を身に付けている。 ・ 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学ⅠAⅡBC（ベクトル）全般において，筋道をたてて考える力・資料やグラフを読み取り情報を活用する力・自分の言葉でわかりやすく表現する力が身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 				
評価方法	<p>行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 	<p>行動観察，小テスト，及び定期考査（単元テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習への取り組みの様子，発言やつぶやきなどの内容，ノートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ ワークシート，レポート等を回収し，その内容に基づいて評価する。 ・ 定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 	<p>振返りシート，小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振返りシートを回収し，その記述内容に基づいて評価する。 ・ 小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 				

月	学習の単元	学習の内容
一学期 時間 24	4 基礎事項の確認 5 数学Ⅰ 6 数学Ⅱ 7 数学Ⅲ 数学Ⅳ 数学Ⅴ	数と式/関数と方程式・不等式/ データの分析 場合の数、確率/図形の性質/整数の性質 式と証明/三角比・三角関数/指数関数・対数関数/微分法/積分法 統計/数列 ベクトル
二学期 時間 28	9 応用力の養成と弱点の克服 10 数学ⅠⅡⅢⅣ 11 12	定着が不十分な単元についての補習 入試に即した形式での演習
三学期 時間 18	1 特別時間割 2 3	
講習	長期休業中に行う予定	

数学発展演習（理）の学び方

○選択の心構え

この講座は理系大学を志望する生徒のうち数学ⅢCを受験する生徒を対象としている。数学ⅢCの授業内では扱うことのできない数学ⅠⅡⅢⅣ（ベクトル）に対応する力・記述力を養成することを目指す。1・2年次に学習した内容について、身につけていることを前提として授業は進められるので、2学年3学期終了までに数学ⅠⅡⅢⅣ（ベクトル）全範囲の総復習を終えていることが求められる。週2時間という少ない授業の中でⅠⅡⅢⅣ（ベクトル）の全単元の問題演習を反復して行うので、2学年までにしっかり準備して授業に臨む姿勢が求められる。また、演習授業全般について言えることであるが、授業における解説を聞いただけでは当然のことながら実際の問題に対応する力はつかない。自宅学習等においては授業時間数の2～3倍の自習時間が必要と考え、定着のために反復学習することが不可欠である。消化不良をおこさないためにそれだけの時間を毎週かけて学習する覚悟が必要である。

○選択の準備

数学ⅠⅡⅢⅣ（ベクトル）すべてに対応する力を、4月から12月までの週2時間の授業で身につけるためには、上記の通り2年3学期の終わりまでに数学ⅠⅡⅢⅣ（ベクトル）全範囲の総復習を終えていることが、この講座の受講に当たっては前提となる。3年0学期が終わるまでに総復習を終えるかどうかで、この授業の成果が左右されると言っても過言ではない。初回の授業までにしっかりと準備を整えておいてほしい。さらに、受験では最終的にチャートでのパターンは網羅してほしい。総復習とともにチャートでの学習を自主的に進め、3年の夏休み中にはしっかりと1周目が終わり、2周目、3周目に取り組んでほしい。

○基礎事項の徹底

1学期の間は、1・2年次に学んだ基本事項の確認を行う。発展的な問題に対応するためには、基礎基本の徹底が求められるからである。

○応用力の養成

2学期からは問題のレベルを上げながら、応用力の養成を図る。また定着が不十分な単元についての補習も行う。後半からは入試に即した形式での演習を取り入れ、実力アップを図る。

理科

理科学習指導計画

教科の学習目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
化学基礎	1	共通	2	i 版 化学基礎（啓林館）	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) セミナー化学基礎（第一学習社）
生物基礎	1	共通	2	生物基礎（実教出版）	リードα生物基礎（数研出版） スクエア最新図説生物（第一学習社）
物理基礎	2	必選	3	物理基礎（数研出版）	セミナー物理基礎・物理（第一学習社）
地学基礎	2	必選	3	地学基礎 改訂版（啓林館）	センサー地学基礎 改訂版（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店）
化学	2	必選	4	化学 academia（実教出版）	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) セミナー化学（第一学習社）
物理・物理探究	3	必選	6	物理（数研出版）	セミナー物理基礎・物理（第一学習社） 物理重要問題集(数研出版)
化学探究	3	必選 自選	4	化学 academia（実教出版）	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学（東京書籍） チェック&演習 化学（数研出版） 化学重要問題集（数研出版）
生物・生物探究	3	必選 自選	6	生物（数研出版）	スクエア最新図説生物(第一学習社) リードα生物（数研出版） WINSTEP 生物（ラーンズ）
生物演習	3	自選	2	生物（数研出版）	WINSTEP 生物基礎・生物（ラーンズ）
化学基礎演習	3	自選	1	i 版 化学基礎（啓林館）	ニューグローバル化学基礎（東京書籍） ビーライン 化学基礎（第一学習社）
生物基礎演習	3	自選	1	生物基礎（数研出版）	チェック&演習 生物基礎（数研出版）
地学基礎演習	3	自選	1	地学基礎 改訂版（啓林館）	チェック&演習 地学基礎（数研出版）



理科を学ぶにあたって

○本校の理科の開講講座について

本校では中学校理科の学習の成果を踏まえて、自然科学の複数の領域を学び、基礎的な科学的素養を幅広く養い、科学に対する関心を持ち続ける態度を育てることを目的にしている。したがって、まず生徒一人一人の能力・適正、興味・関心に応じて、まず基本的な概念や探究方法を学習する科目として、「基礎科目」を設定している。次に将来の進路選択に応じて、自然を探究する能力や態度を一層高めることができるように、より高度な概念や探究方法を学習する専門科目として、「物理」・「化学」・「生物」・「地学」を選択することができるようになっている。さらに三年次では、大学入試に対応できるように、「演習」も選択することができる。

第一学年	第二学年	第三学年	
化学基礎 (週 2 時間) 必修修 生物基礎 (週 2 時間) 必修修	物理基礎・地学基礎 (週 3 時間) 上記のうち1科目を必修選択 化学・日本史探究・世界史探究 (週 4 時間) 上記のうち1科目を必修選択	理系 物理・化学探究・生物・地学 (週 4 時間) 必修選択・自由選択 物理探究・生物探究 (週 2 時間) 必修選択 物理演習・生物演習 (週 2 時間) 自由選択	文系 物理基礎演習・化学基礎演習 生物基礎演習・地学基礎演習 (週 1 時間× 2 講座) 自由選択

○「文武両道」とは、勉強もクラブ（スポーツ）も両方やる人のこと？

「文武両道」とは本来「『文』を極めるには『武』によって培われた健全な心と体が必要であり、『武』を極めるには『文』によって培われた論理的思考が欠かせない」という意味である。実際には勉強とスポーツの両方に秀でている人など非常に少ないのだから、「文武両道」は実践するというよりも、目指すものであると言える。ところで高校二年生位になると進路を考える際に、「将来文系の大学に進むので、理系の科目は必要ない」と言っている生徒を見かけるが、それは違う。例えば、文系に分類される経済学部では数学の知識が必須だし、理系の学部でも研究成果を表すのに国語や英語の能力は欠かせない。つまり学問は一見全く異なる分野に見えても深い関連性がある。これを「文武両道」になぞらえて、「文理両道」と呼んでもよいのではないだろうか。この世の中で学ぶに当たって無駄なもの・必要のないものなど何一つない。目先のことに囚われず広い視野で物事を考え、そして頭が柔軟な若いうちから色々な知識を蓄えることが、豊かな人生を送るためには不可欠である。

科学の語源と近代科学の発展

科学 (science) の語源は、ラテン語の "scientia" (知る) です。つまり科学とは、人間だけが根源的に持っている知的活動のことです。この理科の基礎ともなる科学的な考え方が誕生したのは、15 世紀頃のヨーロッパにおいて「ルネサンス」という文化活動が広まったからだと言われています。人々は、それまで神を中心として正しいとされてきたことに対して、科学的な視点から客観的に何が正しくて何が正しくないのかを考えるようになったのです。

ところで有名な「知は力なり」(※ラテン語では "scientia potentia est"、英語では "knowledge is power") は、16 世紀イギリスの哲学者フランシス・ベーコンの言葉です。「自然法則を知り、経験を積んで、それを使って自然と調和すれば、人間の世界は豊かになる」という考えです。この多くの観察事実や実験から自然法則を見出すベーコンの「帰納法」と、前提となる仮説を立てて検証していくデカルトの「演繹法」の両方を組み合わせた形で、近代科学は発展していったのです。

物理基礎

学習目標

身のまわりの自然の中に潜む普遍的な法則や原理を探求し、また、さまざまな科学技術の基礎を担っている物理学の基礎的な概念、現象、法則を学ぶ。一部、専門「物理」の範囲を含む。

2 学年物理基礎年間授業計画

科目	物理基礎	履修	必選	学年	2	単位	3 単位
講座名	物理基礎	担当					
学習の目標	・力と運動（直線上）、力学的エネルギー、熱、波の性質、音と振動、電気、エネルギーとその利用、等に関して、物理学の基礎的な事実、概念、法則を学ぶ。						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間 36	4 5 6	I 力と運動 力のつりあい	<ul style="list-style-type: none"> ・物とその重さ ・力、力のつりあい、作用反作用、力の合成・分解 ・重力、弾性力、浮力、摩擦力 				
	7	物体の運動	<ul style="list-style-type: none"> ・速さと速度、加速度、$v-t$ グラフ ・重力加速度、落下運動、放物運動 ・ニュートンの運動の法則 				
	7	運動の法則					
二学期 時間 42	9 10	II エネルギー 仕事と力学的エネルギー 熱とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事、仕事の原理 ・力学的エネルギー保存則 ・比熱、熱容量 ・熱力学第一法則 				
	11	III 波動 波の性質 音波	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦波、横波と縦波、ホイヘンスの原理、 ・波の重ね合わせ、反射屈折回折、 ・弦の振動、共振、気柱の振動、共鳴 				
	12						
三学期 時間 27	1 2 3	洗 IV 電気 静電気 電流回路	<ul style="list-style-type: none"> ・光の反射・屈折 ・凹凸レンズ・凹凸鏡 ・静電気のいろいろ ・回路、電流、電位、抵抗 ・オームの法則 				
	3						
評価の方法	<p>関心・意欲・態度：日常生活や社会との関連づけながら物理に関心をもっているか、見通しをもって観察、実験を行っているかなどを、授業、実験への取り組みを通じて総合的に評価する。</p> <p>知識・理解：運動、熱、波動、電気に関する念や法則を理解しているかを、小テスト・定期考査で評価する。</p> <p>観察・実験の技能：運動、熱、波動、電気に関する観察、実験などを行い、実験への取り組みで評価する。</p> <p>思考・判断・表現：実験のレポート、授業の提出物の記述内容を総合的に評価する。</p>						
講習	必要に応じて講習を行う。成績不良者には課題を提出させることもある。						

物理・物理探究

学習目標

身のまわりの自然の中に潜む普遍的な法則や原理を探究し、また、さまざまな科学技術の基礎を担っている物理学の基礎的な事実、概念、法則を学ぶ。

3 学年物理年間授業計画

科目	物理	履修	理必	学年	3	単位	6 単位
講座名	物理・物理探究	担当	未定				
学習の目標	・力と運動（平面上）、運動量、円運動と単振動、万有引力、気体分子の運動、波の伝わり方、音波の干渉回折、ドップラー効果、光波の干渉、電場と磁場、電磁気、原子物理、等に関して、物理学の基礎的な概念、現象、法則を学ぶ。						
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	4	運動量 円運動 慣性系と非慣性系 単振動 万有引力 熱、気体 波動 電場と電位 電流 電流と磁場	<ul style="list-style-type: none"> ・力のモーメント ・運動量と力積、運動量保存の法則 ・等速円運動 ・慣性力 ・単振動 ・万有引力 ・状態変化と分子運動、分子運動と圧力、状態方程式 ・熱力学第一法則、熱機関 ・光波の干渉 ・電場と電位、コンデンサー ・直流回路 ・電流による磁場 				
	5						
6							
時間	7						
48	9						
56	12						
二学期	9	電流が磁場から受ける力 電磁誘導と交流 粒子性・波動性 原子・原子核 補足演習	<ul style="list-style-type: none"> ・電流が磁場から受ける力、ローレンツ力 ・電磁誘導、交流 ・光電効果、コンプトン効果、X線 ・電子波 ・ボーアの水素原子模型 ・原子核の崩壊 ・原子核反応 				
	10						
	11						
時間	12						
56							
三学期	1	(特別授業)					
	2						
	3						
時間							
評価の方法	<p>関心・意欲・態度：日常生活や社会との関連づけながら物理に関心をもっているか、見通しをもって観察、実験を行っているか等を、授業、実験への取り組みを通じて総合的に評価する。</p> <p>知識・理解：運動、熱、波動、電気に関する法則を理解しているかを、小テスト・定期考査で評価する。</p> <p>観察・実験の技能：運動、熱、波動、電気に関する観察、実験等を行い、実験への取り組みで評価する。</p> <p>思考・判断・表現：実験のレポート、授業の提出物の記述内容を総合的に評価する。</p>						
講習	必要に応じて講習を行う。成績不良者には課題を提出させることもある。						

物理基礎・物理の学び方

○物理とは

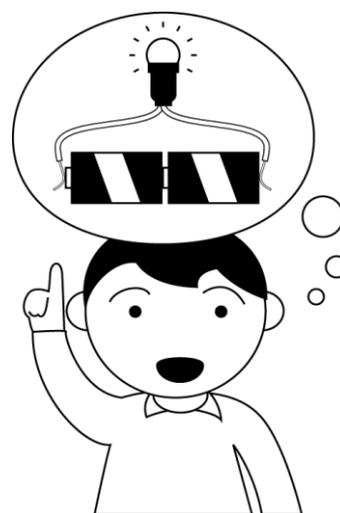
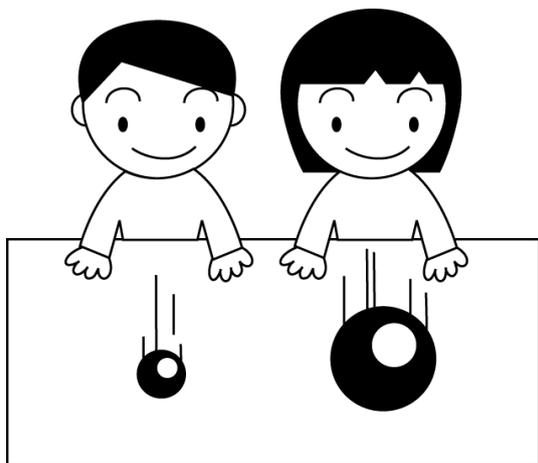
身のまわりの自然の中に潜む普遍的な法則や原理を探求するのが物理学です。また、物理学はさまざまな科学技術の基礎を担っています。高等学校の物理基礎や物理ではそうした物理学の基礎的な事実、概念、法則を学びます。

○学習する上で留意すること

物理基礎・物理では、どのような現象を扱っているのか、どのような法則が成立しているのかを把握することが暗記や数学的処理の前に大切です。そのうえで、必要な暗記をし、数学的表現や処理を学ぶことになります。数学は高校範囲のうち必要なものは物理基礎・物理の授業でもどんどん用いますので、高校1年生のうちからよく学習しておいて下さい。

物理基礎・物理を学習する上で注意することは、具体的には

- ① まず自分の頭を使うこと。人にたよらない。
- ② の結果間違えることがあってもよい。間違いなしに発展はない。
- ③ 他の人の意見もよく聞く。そして再び考える。
- ④ 自然の根本原理をさぐる楽しさを知ろうとすること。
- ⑤ 授業のあったその日のうちに復習すること。
- ⑥ 問題演習を宿題のあるなしに関わらず、持続的に行うこと。
- ⑦ 教員や友人等にまめに質問をすること。

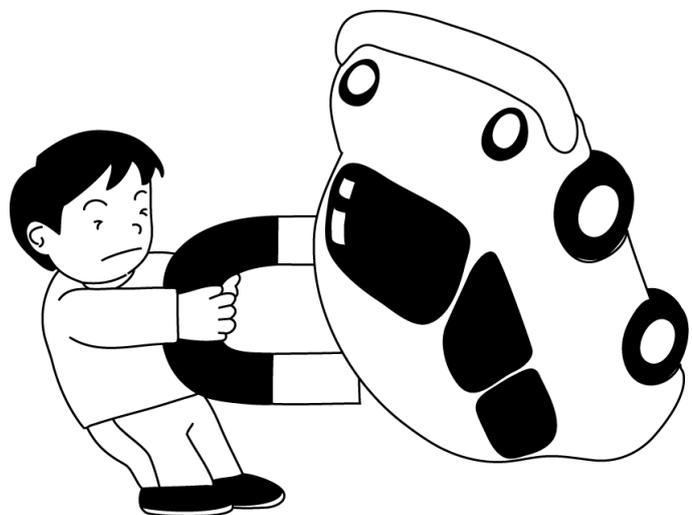
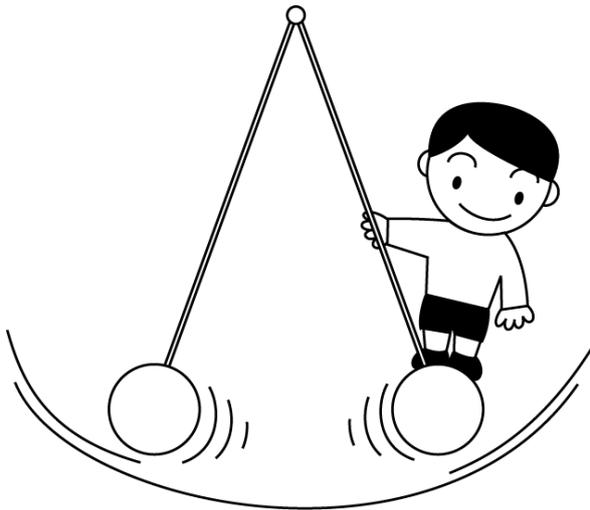


○参考図書

- ・板倉聖宣『ぼくらはガリレオ』岩波現代文庫
- ・朝永振一郎『物理学とは何だろうか』（上・下）岩波新書

学習参考書・問題集

- ・物理のエッセンス（力学・波動）、（熱・電磁気・原子）河合出版
- ・橋元流解法の大原則（力学・波動）、（電磁気・熱・原子）Gakken
- ・新・物理入門 駿台文庫
- ・物理「力学・波動」44の盲点チェックで合格を決める 文英堂
- ・物理「電気・熱・原子」48の盲点チェックで合格を決める 文英堂
- ・わかっていそうでわかっていない物理の質問 91（物理基礎・物理） 旺文社
- ・らくらくマスター物理基礎・物理 河合出版
- ・物理重要問題集 数研出版
- ・良問の森 1, 2 河合出版



化学基礎

学習目標

実験、観察を通じて化学的な知識、理論を学び、探求する態度と能力を養う。
 自然や日常生活の様々な事象・現象を化学的な視野で捕らえることができる。
 物質の化学式、化学反応式を書きかた、モル計算などの化学の基本を習得する。

1 学年化学基礎年間授業計画

科目	化学基礎		履修	必修		学年	1	単位	2 単位
講座名	化学基礎		担当						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 元素記号, 化学式, 物質名を覚え, 正確に記す。 化学の原理や法則を理解する。 化学実験において, 安全に, 他者と協力して取り組む。 化学実験で, 実験器具を適切に選択し, 正しく操作する。 		<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について, 共通点や相違点を見つけ, 原理や法則について考える。 原子・分子の視点で, 結合や化学反応を説明する。 化学反応の量的な関係を物質量を用いて計算する。 		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連づけながら化学に関心をもっている。 見通しをもって観察, 実験を行おうとしている。 学習内容について自ら化学的に思考したり, 考察する。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 元素記号, 化学式, 物質名を正しく書ける。 学習内容の原理や法則を正しく理解している。 安全に留意し, 正しい操作で実験を行うことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 化学的な事象から共通点や相違点を見つけ, 原理や法則を説明できる。 結合や化学反応を原子・分子の視点で説明できる。 物質量を用いて, 化学反応を考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることできる。 実験を見通しをもって取り組んでいる。 				
評価方法	小テスト, 定期考査, 行動観察, ・小テストを実施し, その結果に基づいて評価する。		実験レポート, 定期考査 ・実験レポートの記述内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し, その結果に基づいて評価する。		行動観察, 実験レポート ・実験中の操作, 結果, 他者との協力を行動観察し, 評価する。 ・講義, 実験の内容を思考, 考察しているかを, 実験レポートの記述内容を基に評価する。				
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	4	1 章 物質の探求	<ul style="list-style-type: none"> 物質の分離と精製 物質の成分 原子の構造 電子配置と周期表 イオンとイオン結合 金属と金属結合 分子と共有結合 						
	5	物質の構成粒子							
	6	物質と化学結合							
時間	24	7							
二 学 期	9	物質量と化学変化	<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量と物質量 モル濃度 化学変化の量的関係 酸と塩基 水素イオン濃度と pH 中和反応と塩の生成 中和反応の量的関係と中和滴定 						
	10								
	11	酸と塩基							
時間	28	12							
三 学 期	1	酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元 酸化剤還元剤 イオン化傾向 酸化還元反応の利用 						
	2								
	3								
時間	18								
講習	成績不良者については指名して講習を受講させることもある。								

化学基礎の学び方

○化学とは

化学は、洗剤やプラスチック、化粧品、薬、衣類、電池など様々な物質や装置を生み出した。理数系の中でも暮らしに一番縁の深い科目である。

そもそも物質とは何か。似ている物質があるのはなぜか。逆に性質が異なるのはなぜか。そこにはどのような理屈があるのだろうか。

化学では物質の性質を「原子や分子などのミクロの粒子の振る舞い」として考える。単純にも感じられる原子の構造から、物質の様々な性質を説明できることに驚くだろう。

まずは実験を楽しみ、物質の性質に興味を持って欲しい。そしてこれらの反応や性質が「粒子の振る舞い」の理論と合致する面白さを感じて欲しい。

○化学基礎の留意点

「化学基礎」では化学の中でも、今後の化学を学ぶために必要な基礎を学習する。では基礎とは何か。よく「読み書き、そろばん」というけれど、化学の基礎もまずは「読み書き、そろばん」なのだ。

1) 予習より復習

理科は考える教科だから、暗記はしないで良いと誤解する人がいる。もちろん考えることは大切だが、思ったより覚えることが多いのだ。習った日のすぐの復習が効果的。というより必要である。

化学は英語や数学のように積み重ねが大切だ。

2) 記号や化学式の「読み書き」は大切

特に元素記号、化学式、周期表、反応式は習ったすぐに必ず覚える。書けるようにする。

英語では、アルファベットが書けないと、単語が表せない。単語が書けなければ文章は書けない。

同様に化学でも、元素記号が書けないと、分子を表せない。分子が書けなければ反応式が書けない。

さらに反応式が書けないと量計算ができない…雪だるま式に分からなくなる。

3) モル計算は 「習うより慣れろ」

化学にはモル計算という化学特有の計算の仕方がある。

反応量を計算するのに大変便利なのだが、慣れるまでは練習が必要。

特にモル計算は習ったその日にすぐ練習しよう。問題集は必ず解き、小テストは完璧にして受けよう。

4) しっかり聞こう。よく見よう。よく考えよう。

説明は集中して聞こう。実験など危険を伴うこともある。説明は考えながら聞こう。時間内に覚えてしまう意気込みで聞こう。観察では様々な変化をメモするようにしよう。変化の理由をよく考えよう。

5) 教科書・資料集を活用しよう。

図表や写真は印象に残りやすい。授業の内容に合わせて、聞きながら読むことを心がけよう。

資料集の引きついでに他の項目を見たりすると、さらに知識や興味が広がるだろう。

「誰でも忘れる」 …その日のうちの復習を…

右の表を見てください。学習したことは、ふつう1日も放置するとほぼ忘れてしまいます。忘れてからの復習では、また何倍もの努力が必要になりますね。

ですから、できるだけ早いうちに「思い出す」こと。

せめて当日中に「確認だけはする」こと。

これだけで定着率はずっとよくなります。忘れる前に復習しておく…ずいぶん楽になるはずです。

エビングハウス氏の実験

による、忘却する割合

20分後	42%
1時間後	56%
9時間後	64%
1日後	74%
1週間後(7日間後)	77%
1ヶ月後(30日間後)	79%

化学（2学年）

学習目標

化学基礎を土台とし、実験、観察を通じて化学的な知識、理論を学び、探求する態度と能力を発展させる。
 自然や日常生活の様々な事物・現象に対する化学的な視野を発展させる。
 化学反応の計算をさらに習熟する。

2学年化学年間授業計画

科目	化学		履修	必修		学年	2	単位	4単位
講座名	化学		担当						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 物質の化学式や構造式，化学反応式を正確に記す。 化学の原理や法則を理解する。 化学実験において，安全に，他者と協力して取り組む。 化学実験で，実験器具を適切に選択し，正しく操作する。 		<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について，共通点や相違点を見つけ，原理や法則について考える。 結合や化学反応について論理的に説明できる。 化学反応の量的な関係について正確に計算できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連づけながら化学に関心をもっている。 見通しをもって観察，実験を行おうとしている。 学習内容について自ら化学的に思考したり，考察する。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 物質の化学式や構造式，化学反応式を正しく書ける。 学習内容の原理や法則を正しく理解している。 安全に留意し，正しい操作で実験を行うことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 化学的な事象から共通点や相違点を見つけ，原理や法則を説明できる。 結合や化学反応について論理的に説明できる。 化学反応の量的な計算ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 実験を見通しをもって取り組んでいる。 				
評価方法	小テスト，定期考査，行動観察， ・小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。		実験レポート，定期考査 ・実験レポートの記述内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。		行動観察，実験レポート ・実験中の操作，結果，他者との協力を行動観察し，評価する。 ・講義，実験の内容を思考，考察しているかを，実験レポートの記述内容を基に評価する。				
月	学習の単元		学習の内容						
一学期	4	1章 物質の状態と平衡	<ul style="list-style-type: none"> 結晶 物質の構造と融点・沸点 熱運動と気体分子 気体の状態方程式 溶解 溶解度と溶解平衡 希薄溶液の性質 コロイド溶液 						
	5	固体の構造							
時間	6	状態変化・気体の性質	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応と熱エネルギー ヘスの法則 化学反応と光エネルギー 電池 電気分解 脂肪族炭化水素 酸素を含む脂肪族化合物 						
	48	7 溶液							
二学期	9	2章 物質の変化と平衡	<ul style="list-style-type: none"> 芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物 混合物の分離 合成高分子化合物 						
	10	化学反応と熱・光エネルギー							
時間	11	化学反応と電気エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物 混合物の分離 合成高分子化合物 						
	56	4章 有機化合物							
三学期	12	脂肪族化合物	<ul style="list-style-type: none"> 芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物 混合物の分離 合成高分子化合物 						
	1	芳香族化合物							
時間	2	5章 高分子化合物	<ul style="list-style-type: none"> 芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物 混合物の分離 合成高分子化合物 						
	36	3 合成高分子化合物							
講習	休業中には、発展的な内容の講座を開講する。（希望者のみ）								

化学の学び方

○「化学」の内容

「化学」では、「化学基礎」を土台として発展的な内容を学習する。化学は範囲が広いので2年生と3年生に分けて学習する。

1) 1・2学期前半は「理論」

電池・電気分解・物質の状態変化・気体や溶液の性質・化学反応とエネルギーなどについて、物質変化の理論を学ぶ。理論分野ではファラデーの法則・ボイルシャルルの法則・状態方程式・分圧の法則・溶解度・浸透圧・凝固点降下・沸点上昇・反応エンタルピーなど、法則や数学的な量計算が中心となる。実験も定量的になってくる。難しくなるので、1年次に学習する「化学基礎の反応式と量的な計算」(モル計算)を習熟しておくことが大切だ。

2) 2学期後半は「各論」 有機化合物

有機化合物は炭素を骨格とした化合物のことである。有機化合物の、骨格・官能基(炭素骨格と結合する特有の性質をもつ原子団のこと)・反応などについて学ぶ。

分子の構造や名称をきちんと覚えながら、連続する有機化合物の変化を、反応系統図にして書けるようにしたい。また有機化合物の構造決定にはとくに演習を積んで欲しい。

○化学の留意点

「化学」の留意点も基本的に「化学基礎」と同じである。良く見、良く聞き、良く考え、問題演習で定着させよう。覚えることは覚えよう。

その上で、「化学基礎」を学び終わっている君たちにはもう一段深い学習を勧める。

深い学習とは「疑問を持ち、自分で調べ、考え、試す」ことに尽きる。実験を例に考えてみよう。

1) 実験の予想を立てよう。

まずは教科書通りに学んだ知識を活かして実験に臨もう。実験の狙いを考え、起こるべき反応を予想しよう。果たして結果は教科書通りなのか。

2) 結果を記録しよう

実験はなかなか教科書通りに行かないものだ。温度・濃度や量が少し違っても、順序を一つ違えても結果が変わることがある。完全に教科書通り行っても、期待通りの結果にならないことさえ多い。

期待された結果と異なっても、自分の結果を受け止め、起こったことを記録しよう。実験で起こったことはその都度できるだけ細かく記録しよう。大学で卒論を書くときも、実験ノートが命と心得よ。

3) 理由を考えよう

結果が異なった原因を教科書、資料集、参考書、インターネットなどで調べたり、条件を変えてやり直したり、もっと良いやり方を考えたり・・・試行錯誤をすることが本当の実験である。調べること、考えること、試すことが君たちを真に成長させる。

「物理・化学・生物・地学は4つ揃って理科の教養」……広く浅くもアリです。

2学期は3年次の選択科目に悩む季節。

「生物(物理)に進むのだけど、化学は受験教科ではないので選択しないで良いでしょうか。」と質問を受けます。「受験教科以外の勉強をしている余裕はない。」という理由。深刻です。

「全力を注がなくてもいいから、聞くだけ聞いておいたら。」と答えています。

生物は全て有機物で出来ているので、有機化学を知らないと大学で困るからです。近年遺伝子や、IPS細胞など、生物と化学にまたがる生化学という領域に人気がありますが、内容はまさに化学です。

科目分けされるのは受験だけです。

大学や社会ではトータルな理科の素養が必要です。広く浅くてもゼロよりはまし。化学は、生物学・農学、栄養学・建築・工学・医学・看護・地学、教育(理科)・・・にも必要な素養です。同様に化学志望者は、物理の素養がないと苦労します(大学の化学はまるで物理)。理科はつながっている！

化学探究（3 学年）

学習目標

実験、観察を通じて化学的な知識、理論を学び、探求する態度と能力を高校生として完成させる。
 自然や日常生活の様々な事物・現象に対する化学的な視野を高校生として完成させる。
 受験応用問題に対処できる学力を得る。

3 学年化学探究年間授業計画

科目	化学		履修	必修		学年	3	単位	4 単位
講座名	化学探究		担当						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 物質の化学式や構造式，化学反応式を正確に記す。 化学の原理や法則を理解する。 化学実験において，安全に，他者と協力して取り組む。 化学実験で，実験器具を適切に選択し，正しく操作する。 		<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について，共通点や相違点を見つけ，原理や法則について考える。 結合や化学反応について論理的に説明できる。 化学反応の量的な関係について正確に計算できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連づけながら化学に関心をもっている。 見通しをもって観察，実験を行おうとしている。 学習内容について自ら化学的に思考したり，考察する。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 物質の化学式や構造式，化学反応式を正しく書ける。 学習内容の原理や法則を正しく理解している。 安全に留意し，正しい操作で実験を行うことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 化学的な事象から共通点や相違点を見つけ，原理や法則を説明できる。 結合や化学反応について論理的に説明できる。 化学反応の量的な計算ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 実験内容や結果を日常生活や既存内容と関連づけることできる。 実験を見通しをもって取り組んでいる。 				
評価方法	小テスト，定期考査，行動観察， ・小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。		実験レポート，定期考査 ・実験レポートの記述内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。		行動観察，実験レポート ・実験中の操作，結果，他者との協力を行動観察し，評価する。 ・講義，実験の内容を思考，考察しているかを，実験レポートの記述内容を基に評価する。				
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	4	天然高分子化合物	<ul style="list-style-type: none"> 天然高分子化合物 反応の速さ 反応速度を変える条件 反応のしくみ 可逆反応と化学平衡 化学平衡の移動 電解質水溶液の平衡 非金属元素 						
	5	反応の速さとしくみ 化学平衡							
	6	3 章 無機物質							
時間	48	元素と周期表 非金属元素							
二 学 期	9	典型金属元素	<ul style="list-style-type: none"> 典型金属元素 遷移元素 金属イオンの分離と確認 無機物質と人間生活 入試総合演習 						
	10	遷移元素							
	11	入試演習							
時間	56								
三 学 期	1	入試演習	<ul style="list-style-type: none"> 入試総合演習 						
	2								
	3								
時間	36								
講習	休業中には、大学受験に向けた内容の講座を開講する。（希望者のみ）								

化学探究の学び方

○「化学探究」の内容

3年次の「化学」では、2年次に残した反応の速さとしくみ、化学平衡、天然高分子化合物、無機化合物を学習する。化学を理解するのに重要な分野であり、受験頻出でもある。確実にこなしていきたい。

1) 1学期前半は天然高分子化合物 反応の速さとしくみ 化学平衡

天然高分子化合物は、糖・タンパク質・核酸といった身近な物質を取り扱う。2年次の有機化合物の内容を踏まえての話となる。

化学平衡の分野では反応速度や、化学平衡、平衡定数などを学ぶ。これまで学んだ様々な理論や反応を使うため、難易度の高い分野です。具体的には、酸塩基の電離・気体の溶解・アンモニアの合成・塩の沈殿などの多岐にわたる変化について、反応速度や反応量を考える。1, 2年次の復習もしながら授業を受けよう。

2) 1学期後半からは無機化学を学習する

様々な物質の具体的な性質を周期表に沿って学んでゆく。物質の製法、性質、利用法などが中心になり、覚えることも多いが、物質の変化そのものを味わえる分野なので、とても化学らしい範囲だ。観察できる物質の性質はそれだけでも面白いが、ここまで学んできた理論が随所にあらわれて実際の性質とリンクするとき、化学の面白さは倍増するだろう。

○化学受験について

1) 共通テスト 化学基礎について

- ・基礎科目は理科4科目のうち2科目を選択する。2科目あわせて試験時間は60分。
- ・主に国公立大学文系の受験者に課せられる。
- ・看護系の学部でも受験科目として指定されることがある（大学により異なる）。
- ・教科書傍用の問題集で復習後、共通テスト用の化学基礎の問題集を解いて慣れると良い。

2) 共通テスト 化学について

- ・専門（基礎でない）理科の試験時間は1科目60分。正確さと速さが要求される。
- ・国公立大学の理系では、理科4科目のうち専門2科目を選択させることが多い。
- ・慣れが必要である。教科書傍用の問題集で復習後、共通テスト用の化学の問題集を解くと良い。

3) 個別試験 化学について

- ・大学によって出題傾向や難易度はかなり違う。
- 教科書傍用の問題集を繰り返し演習し、化学重要問題集にも取り組めると良い。

問題集に解いた記録を残そう …忘れる前に見直す…そして記憶に残していく

基礎の問題集でも受験問題集もまずは2周しましょう。解いたときの感触を○△×で問題集に直接付けておきましょう。絶対大丈夫なときだけ○を付けましょう。△は解けても、ちょっと怪しいと思うとき付けます。繰り返す回数ごとに記号の色を変えるとわかりやすいですね。

△×であった問題は、忘れないうちに復習する。何週間もたってからやり直すと、また忘れてははじめからやり直し。問題集と勝負するのではなく、仲良くしましょう。受験直前には「全部知ってます」と豪語できるくらいに。

できるようになったら、「速く」を意識してください。解答時間の短縮、勉強時間の短縮…勉強量の増加にもつながります

生物基礎

学習目標

身の回りの自然や日常生活や社会との関連性を意識しながら、生物や生物現象にかかわる基礎的な内容を理解する。

1 学年生物基礎年間授業計画

科目	生物基礎	履修	必修	学年	1	単位	2 単位
講座名	生物基礎	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の基本単位である細胞、エネルギーを得る仕組みである代謝、遺伝情報であるDNAから体が形成される仕組み、体内環境の維持、植生、生態系の構造について科学的な理解を深めることができる。 ・光学顕微鏡や実験器具を用いて基本的な実験、観察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する生命現象について、共通点や相違点を見つけ、その原理や法則性について考察することができる。 ・得られたデータから、現象を読み解くことができる。 ・生命現象を解明するために必要な実験、仮説を考察する。 ・科学的用語を用いて現象を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会と関連づけながら生物や生命現象に興味・関心を持って活動することができる。 ・授業内容とのかかわりを意識しながら積極的に実験、観察、探究活動、発表学習等に参加することができる・学習内容について自ら科学的に思考、考察しようとしている。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子等の分子、細胞、個体、生物集団、生態系などの構造や様々な学習する生命現象の仕組みについて科学的に理解しているか。 ・基本的な科学用語の正しい理解ができているか。 ・実験において基本的な観察技能を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する生命現象について、共通点や相違点を見つけ、その原理や法則性について考察できているか。 ・データ等から現象を読み解き、考察したり、必要な実験について考察することができるか。 ・生命現象について科学的用語を適切に用いて説明できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会と関連づけながら生物や生命現象に興味・関心を持って学習に取り組んでいるか。 ・班のメンバーと協力して実験、探究活動、発表等に積極的に取り組むことができているか。 ・実験レポート等の提出物に積極的に取り組み、過程を振り返って評価・改善したりしようとしているか 				
評価方法	行動観察、小テスト及び定期考査 ・学習への取り組みの様子、発言、記述内容。 ・定期考査、小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。	レポート、ワークシート等提出物及び定期考査、行動観察 ・レポート、ワークシートの記述内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 ・実験、発表等での発言内容	行動観察、提出物 ・実験レポート、レポート等提出物、レポート振り返り評価 ・発表・探究活動での作成資料 ・他者との協力行動、実験、発表等への取り組み				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	1 章 生物の特徴	1 節 生物の多様性と共通性					
	4 章 生物の多様性と生態系	2 節 生物とエネルギー					
時間		1 節 植生と遷移					
	24	2 節 植生とバイオーム					
		3 節 生態系と生物の多様性					
		4 節 生態系のバランスと保全					
二学期	2 章 遺伝子とその働き	1 節 遺伝情報とDNA					
	3 章 ヒトのからだの調節	2 節 遺伝情報とタンパク質の合成					
時間		1 節 体内環境					
	28						
三学期	3 章 ヒトのからだの調節	2 節 体内環境の維持のしくみ					
			3 節 免疫				
講習							

生物基礎を学ぶにあたって

○生物基礎の特徴

生物基礎は

1. DNAなど現代生物学の基盤となる内容
2. ホルモンや免疫など健康にかかわる内容
3. 生態系など環境の科学的な理解にかかわる内容

を学ぶことを通して日常生活や社会との関連を学習し、生物や生命現象への関心を高めることを狙いとしている。

また、生物や生命現象の中から問題を見出し、観察・実験を通して、探究の過程をたどり、科学の方法を習得し、生物学的に探究する力と態度を育てることを目的としている。

さらに、生物や生物現象は多様性に富んでいるが、多様であってもすべての生物に共通した基本的な機能や普遍的な特性が存在していることを理解し、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解することが求められている。共通性と多様性を理解するためには、現存している生物が起源を共有しているということを踏まえて学習していくことが大切である。

○具体的な学び方

- ① 日常の身近な自然現象や体験を手掛かりにして関心を持って授業に臨み、授業の流れに沿って自分の頭で考えることが大切である。
- ② 集中して授業に参加し、考えながらノートをとる。板書以外にも必要に応じてメモを取る。
- ③ 次の授業までに復習を行い、疑問点は早めに自分で学習するか、質問をして解決しておく。
- ④ 用語、事象や仕組みを羅列して覚えるのではなく、以前に学習したことと関連させ、体系的に、系統的に結び付けて理解する。
- ⑤ 実験、観察に必要な技能や方法(顕微鏡の操作、観察したものを正確に記録・表現する方法など)を積極的に習得し、結果を比較して、客観的、科学的に分析・考察・探求する習慣を身に付け、レポートを作成する。
- ⑥ 考査前には、問題集を用いて各自、復習を行う。

○参考図書

- ・岩波新書カラー版 細胞紳士録 藤田恒夫 牛木 辰男 岩波書店
- ・ブルーバックス 新「細胞を読む」 山科正平 講談社
- ・カラー図解 アメリカ版 ブルーバックス 「大学生物学の教科書」 1：細胞生物学
2：分子遺伝学
3：分子生物学 講談社
- ・生物の中の時間 時計遺伝子から進化まで 西川 伸一 倉谷 滋 上田 泰己
PHPサイエンスワールド新書
- ・単純な脳 複雑な「私」 池谷 裕二 朝日出版社

○大学受験に際して

国公立文系を志望する生徒は、大学入学共通テストにおいて理科基礎2科目から選択する。生物基礎を選択する場合は、1年間のブランクを経て、大学入学共通テスト対応の演習問題に取り組む必要があるため、自由選択で生物基礎演習(1単位)を選択するのが望ましい。生物基礎を受験で選択することを決めたら、2年次のうちに1年次の問題集を用いて復習をしておく。

理系生物系進路を志望する生徒は、3年次で生物の学習が始まり、生物基礎の復習に時間をとることが難しくなるため、やはり2年次のうちに1年次の問題集を用いて復習をしておく。

生物・生物探究

学習目標

「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象をさらに広範に取り扱い、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。生物と生物探究において生物を総合的に学習する。

3 学年 生物年間授業計画

科目	生物・生物探究	履修	必選・自選	学年	3	単位	6 単位
講座名	生物・生物探究	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 生命現象の基本である生体物や細胞、タンパク質の性質から、代謝等の生命現象、遺伝情報の発現の仕組みやその組み合わせによる進化の仕組み、環境応答、生態系の構造と仕組みについて科学的な理解を深めることができる。 代謝、発生の仕組みを観察する実験、観察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する生命現象について、共通点や相違点を見つけ、その原理や法則性について考察することができる。 得られたデータから、現象を読み解くことができる。 生命現象を解明するために必要な実験、仮説を考察する。 科学的用語を用いて現象を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会と関連づけながら生物や生命現象に興味・関心を持って活動することができる。 授業内容とのかかわりを意識しながら積極的に実験、観察、探究活動、発表学習等に参加することができる・学習内容について自ら科学的に思考、考察しようとしている。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子等の分子、細胞、個体、生物集団、生態系などの構造や様々な学習する生命現象の仕組みについて科学的に理解しているか。 基本的な科学用語の正しい理解ができているか。 実験において基本的な観察技能を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する生命現象について、共通点や相違点を見つけ、その原理や法則性について考察できているか。 データ等から現象を読み解き、考察することや、必要な実験について考察することができるか。 生命現象について科学的用語を適切に用いて説明できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会と関連づけながら生物や生命現象に興味・関心を持って学習に取り組んでいるか。 小テスト、実験レポート等に積極的に取り組み、間違いや過程を振り返って改善したりしようとしているか 				
評価方法	定期考査、小テスト、行動観察 ・学習への取り組みの様子、発言、記述内容。 ・定期考査、小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。	提出物及び定期考査、行動観察 ・レポート、ワークシートの記述内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 ・実験、発表等での発言内容	小テスト、提出物、行動観察 ・実験レポート等提出物 ・他者との協力行動、実験、授業、探究活動への取り組み				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	第1編 生物の進化 第2編 生命現象と物質 第3編 遺伝情報の発現と発生	1章 生物の進化 2章 細胞と分子 3章 代謝 4章 遺伝情報の発現と発生					
時間		72					
二学期	第3編 遺伝情報の発現と発生 第4編 生物の環境応答 第5編 生態と環境	4章 遺伝情報の発現と発生 5章 動物の反応と行動 6章 植物の環境応答 7章 生物群集と生態系					
時間		84					
三学期	入試問題演習	入試問題演習					
時間							
講習	夏に4日程度の授業の補習と問題演習の講習を行う						

生物の学習

○「生物」の特徴

- ・近年の生命科学の急速な進歩を反映した内容を取り入れて、「生物基礎」と合わせて学習内容が再構築されている。
- ・生物現象の仕組みや概念相互の関係を扱い、「生物基礎」で学習した生物や生物現象の概念の理解をさらに深めさせるよう構成されている。
- ・生物や生物現象を分子の変化や働きを踏まえて扱う内容、動物や植物について主に個体レベルでみられる現象やそのしくみ、生態や進化など生物界全体を概観する内容など
マイクロレベルからマクロレベルまで幅広い領域を学ぶ構成になっている。

○「生物」の学び方のポイント

- ①本来の「生物」の学習は、興味・関心の高い生徒にとっては生命の神秘を探究する興味深いテーマが盛りだくさんではあるが、受験科目としての「生物」は1年次に学習した「生物基礎」から一年のブランクを経て新たにスタートするにもかかわらず、広範囲な内容を細かい部分までかなり詳しく勉強する覚悟がいる。かつ入試にも対応できる力をつけるには、やり抜く強い信念と忍耐力、集中力も必要となる。
- ②分野ごとに、教科書、図説、プリントの内容を詳しく、用語、仕組みなどに注目し、正確に理解する。
- ③単元ごとの内容の理解に合わせ、同時進行で演習問題に取り組み、共通テストまでに実戦問題レベルまで力をつける必要がある。(生物探究にて授業の進度に合わせて演習を進める)
- ④学習してきた内容を体系的に、総合的に結び付けることが重要である。一つの生命体としていろいろな働きがどのようなつながりを持って有機的に機能しているかを把握する。さらに、その生物が生命誕生以来長い歴史の末に今日に至った経緯を遺伝子のレベルを念頭に置きながら追って理解できることが大切である。
- ⑤大学入学共通テストに対応できる演習や、個別入試対策のための記述式問題に対応する練習問題も短い時間で行わなければならないため、教科書の学習と演習を並行して行う。
- ⑥生物を受験科目として選択することを決めたら、2年生の間に1年次に使用した問題集を用いて生物基礎の復習を終わらせておくことよい。
- ⑦一般向けの科学雑誌(例;Newton)や、新聞、テレビ等で生物学関連の時事問題や知識に触れていると学習の理解に役立つ。それについて自分の意見を持ち、家族と議論するなどまとめておくことよい。



地学基礎

学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 学年地学基礎年間授業計画

科目	地学基礎		履修	必修選択		学年	2	単位	3 単位
講座名	地学基礎		担当						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 地学の基本的な概念や原理・法則を理解させることで、科学に対する基本的な概念を育む。 		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高めることで、科学的な見方や考え方を養う。 		<ul style="list-style-type: none"> 常に目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な科学用語の正しい理解ができているか。 実験や実習において基本的な観察技能を身につけているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 地学的な現象について、共通点や相違点を見つけ、その原理や法則性について考察できているか。 データ等から現象を読み解き、考察したり、必要な実験について考察することができるか。 様々な地学的現象について科学的用語を適切に用いて説明できているか。 		<ul style="list-style-type: none"> 地学的な現象に対して、広く日常生活や社会と関連づけながら興味関心を持って学習に取り組んでいるか。 協力して実験、探究活動等に積極的に取り組んでいるか。 提出物に積極的に取り組み、その過程を振り返って評価・改善したりしようとしているか。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 平素の授業での取り組みの様子、発言、授業ノートの記述内容に基づいて評価する。 		<ul style="list-style-type: none"> 授業ノート等の提出物の記述内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 実験、発表等での発言内容。 		<ul style="list-style-type: none"> 平素の授業での様子、提出物で評価する。 自らの振り返りで評価する。 発表・探究活動での作成資料で評価する。 他者との協力行動、実験等への取り組みを用いて評価する。 				
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	第 1 部 固体地球とその変動		第 1 節 地球の概観 第 2 節 地球の内部構造 第 1 節 プレートテクトニクスと地球の活動 第 2 節 地震 第 3 節 火山活動と火成岩の形成						
	第 1 章 地球	第 2 章 活動する地球							
時間	第 2 部 移り変わる地球		第 1 節 堆積岩とその形成 第 2 節 地層と地質構 第 3 節 地球の歴史の区分と化石						
36	第 1 章 地球史の読み方								
二 学 期	第 2 章 地球と生命の進化		第 1 節 先カンブリア時代 第 2 節 顕生代						
	第 4 部 宇宙の構成								
時間	第 1 章 太陽系と太陽		第 1 節 太陽系の天体 第 2 節 太陽系の誕生 第 3 節 太陽						
	第 2 章 恒星としての太陽の進化								
42	第 3 章 銀河系と宇宙		第 1 節 太陽と恒星 第 2 節 太陽の誕生と進化 第 1 節 銀河系とまわりの銀河 第 2 節 宇宙の姿						
三 学 期	第 3 部 大気と海洋								
	第 1 章 大気の構造								
時間	第 2 章 太陽放射と大気・海水の運動		第 1 節 日本の位置 第 2 節 冬から春の天気 第 3 節 夏から秋の天気						
	第 3 章 日本の天気								
27	第 5 部 自然との共生		第 1 節 地球環境と人類 第 2 節 火山・地震災害と社会 第 3 節 気象災害と社会 第 4 節 人間生活と地球環境の変化						
講習	必要に応じて講習を行う。成績不良者には課題の提出や追試験を実施することもある。								

地学基礎の学び方

○地学とは

地球科学の略称である地学は、地球と宇宙のしくみと成り立ちを考える学問であり、日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察・実験などを通して、科学的な見方や考え方を養う科目です。したがって、地学は自然を物理・化学・生物の分野から総合的に研究する学問であるともいえます。よって地学を学ぶためには、最新情報に気を配りながら常に身の回りの地学的な事物・現象に関心を持ち、主体的・積極的に関わっていくことが大切です。

○学習をする上で留意すること

1) 自然との関わりを意識しよう！

東京は世界一都市化が進んでいる場所のひとつですが、意識すれば日常生活のいたるところに地学で学ぶことが発見できます。また3.11で思い知らされたように、日本は世界的な地震国です。東京に住んでいる以上、今後も大きな地震を避けて通ることは出来ません。自らの身を守るためにも、地学の学習を通して自然についての正しい知識・理解を身につけてほしいと思います。

2) 自然現象に好奇心を持とう！

例えば、なぜ今日はこうした天気なのだろうか？と考えてみて下さい。その他、新聞やテレビなどで報道される地震、火山、天文などのニュースに興味を持つ気持ちが地学の学習を一層面白くします。昼間は風が吹き、空に雲が浮かび、太陽が東から西の空へ動いていきます。夜は光害の空であっても、月や金星・木星などの惑星が輝いています。そして三田高校に至る「綱の手引坂」も、坂がそこにある理由があるのです。

3) 実習・観察などに積極的に参加して、よく考えよう！

答を待っている態度では、いつになっても学習効果は上がりません。自らの手や目、頭を大いに働かせて考えることが肝心です。そのためには、例えば「銀河学校」(東京大学木曾観測所で毎年開催されている高校生を対象とした天文学実習)など、校外で行われているイベントにも積極的に参加してみよう！

○最後に

主に文系の国公立大学を目指す人で、身近な科学的な現象に興味を持てる人は、「地学基礎」を得意科目にして、共通テストに利用すれば大いなる武器になることでしょう。

「縞縞学」(地球のリズミカルな変動)

私たちの身のまわりには様々な縞模様があります。例えば木の年輪や木星の表面の縞模様など。

地球科学の分野の発展に最も大きな影響を与えた縞模様は、海洋底の地磁気の縞模様でしょう。海底の大山脈である中央海嶺をはさんで海洋底の地磁気の縞模様が対称であることから、海洋底拡大説が注目され、さらにプレート・テクトニクスへと発展していったことはよく知られています。

ところで南オーストラリアには、約6億年前に堆積した「エラチナ砂岩層」と呼ばれる、砂岩と泥岩がリズミカルに堆積し美しい縞模様を成した氷河時代の地層があります。この潮汐リズムを記録した部分の岩石の残留磁気を研究した結果、この地層は赤道に近い地域で堆積していたことが分かりました。このことから約6億年前には氷河作用が赤道にまで及んでいた、つまり地球全体が凍結していたという「スノーボール・アース仮説」が提唱されるようになったのです。

縞模様の刻まれた地層は、地球史を記録した証です。それらを従来とは異なる視点で捉えることで、「新しい地球観」が誕生したのです。

保健体育科

保健体育科学習指導計画

教科の学習目標

保健体育科では、健康の保持増進と体力の向上を図り、個人的にも社会的にも健康で安全な生活を営む態度や習慣を育成する。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
保健	1	共通	1	現代高等保健体育 （大修館書店）	
体育	1	共通	2	現代高等保健体育〔体育編〕 （大修館書店）	
保健	2	共通	1	現代高等保健体育 （大修館書店）	
体育	2	共通	2	現代高等保健体育〔体育編〕 （大修館書店）	
体育	3	共通	3	現代高等保健体育〔体育編〕 （大修館書店）	）

三ヶ年間の授業計画を組み、陸上競技・球技・水泳・ダンスと保健を学習することになっている。

保健体育を学ぶにあたって

○体育

高校期は、体格や体力の充実期に当たっている。しかし、近年高校生の体格の伸びは著しい反面、筋力・持久力などがそれに伴った発達をしていないという指摘がある。この時期に十分な運動刺激を与えて体力の充実を図ることは大変に重要なことである。同じことが運動技能についても言える。例えば、水泳は高校までに泳げるようになっていない場合、それ以後は殆ど学習する機会はない。たとえ、機会があっても覚えるのが非常に難しくなる。他の種目についても同じことが言える。従って、高校の保健体育では、筋力・持久力・柔軟性・調整力などの体力を直接的に高めることをねらいとし、運動技能を身に付けて動きやすいからだを作ることを学習の一つのねらいとしている。

○「一校一組運動」

本校では、体力の維持増進として授業ごとにラジオ体操を徹底して行っている。ラジオ体操は、生涯にわたって行うことができる運動である。

○「5月6月体力テスト月間」

東京都の運動能力・体力測定を5月6月に実施する。

『からだを使って脳を鍛える』

脳の訓練とは、「頭を使えば、頭が良くなる」ということである。筋肉を使うことで筋肉が増強されるのと同じで、脳も積極的に使うことで訓練されるのである。もちろん、学校生活でも脳を積極的に使いたいものである。

ところで、「頭を使う」というと何かを深く考えることだけのように思いがちだが、そうではない。脳は、外部からの情報を取り入れ、それを総合的に判断して全身をコントロールする司令塔である。そこで、脳に情報を送り込む身体を鍛えることが、脳を鍛えることにもつながる。

筋肉には、脊髄から出ている運動神経の情報を受けて収縮し、骨を動かすが、収縮の精度を高めるために、脊髄から出る筋紡錘という感覚神経もまた筋肉につながっている。筋肉を動かすと、筋紡錘からの感覚神経が情報を脊髄に送り、運動神経を微調整する。

すべての筋肉運動に脳を活性化する効果があるが、その程度には違いがある。筋紡錘から脳への情報の強さは、筋肉の太さに比例する。筋肉で最も太いのは大腿筋であるから、ウォーキング・ジョギング（走る、駆け足）など、大腿筋を使う運動が脳の働きを最も効率よく高めることになる。そのほか、腕立て伏せ・柔軟体操・咀嚼（噛むこと）・指の運動などは、手軽にできる脳の活性化法である。

脳は、身体を動かしているが、逆に、身体を動かすことが刺激となって脳の活動が増す。脳と身体の動きは一方通行ではなく、相互通行である。

すなわち、机に向かって勉強するばかりが脳の性能を高める方法ではない。宮本武蔵に代表される一流の武芸者たちが、文武両道に励んだことから分かるように、スポーツの練習ばかりが、競技会で好成績を上げる方法ではない。

保健（1年）

1 学年保健年間授業計画

科目	保健		履修	必修			学年	1	単位	1 単位	
講座名	保健		担当								
	【知識及び理解】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】					
目標	現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、それを表現することができる。		現代社会と健康について、課題の解決を総合的に考え、判断し、それを表現することができる。			現代社会と健康について、意欲的に学習に取り組もうとする。					
評価規準	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。		現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、総合的に考え、判断し、それらを表現している。			現代社会と健康について、健康を保持増進するために、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。					
評価方法	考査 レポート		行動観察 発表 レポート			行動観察 発表 レポート					
月	学習の単元			学習の内容							
一 学 期	時間	4	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方		わが国における健康水準の向上・健康問題の変化を理解する。 健康についての基本的な考え方、とらえ方を学び理解する。 適切な意思決定・行動選択が必要であり社会的要因が影響することを理解する ヘルスプロモーションの考え方について理解を深める。 生活習慣病の発病や進行について理解し、生活習慣が重要であることを理解する 健康の保持増進にとって食事は特に重要な要素であることを学び理解する。 運動の意義を学び、運動を継続していくために何が必要かを理解する。 疲労回復等、よりよい休養・睡眠のあり方について理解する。 禁煙社会を実現するには社会全体での取り組みが重要であることを理解する。						
		5	健康と意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり								
二 学 期	時間	9	飲酒と健康								
		10	薬物乱用と健康 精神疾患と健康								
三 学 期	時間	11	現代の感染症 感染症の予防								
		12	性感染症・エイズとその予防 ヘルスプロモーションと健康								
一 学 期	時間	1	交通事故の現状と要因 交通社会における運転者の資質と責任								
		2	安全な交通社会づくり 応急手当の意義とその基本								
二 学 期	時間	3	心肺蘇生法 日常的な応急手当								
		3.11を忘れない									
講習											

保健の学び方

○保健の学習について

人は誰しも健康を望んでいる。にもかかわらず、個人生活・社会生活のいずれにも健康を害するようなことを容易に見過ごす傾向がある。それには、正しい知識をもたないためにそうなっている場合と、知っていながら、なおかつそうなっている場合と二通りが考えられる。

保健学習の狙いは、一つは健康安全についての正しい知識を習得し、もう一つは理解したことを日常生活で実践する態度習慣を身に付けることによって、真に健康な個人生活・社会生活を営む能力を養うことにある。これは保健を学習する二ヶ年に限らず生涯続くべきものである。刻々変容する社会に生きる皆さんは、10年先20年先に、現在予測できないような変化に対した場合にも“人類の健康”を基盤とした正しい対処のしかたができるような考え方を養って行かなくてはならない。

本校の保健体育科のカリキュラムは、以上のような観点から立てられている。学習する皆さんもこのような点を十分意識して学習し、効果を上げてほしい。このことは保健体育の正課の授業だけでなく、部活動その他の活動をするときには常に心がけてほしいことである。さらに、日常生活のすべての面に押し広げていくことによって、皆さんが健康で、学級・学校という集団社会での生活が円滑に行われるような生活習慣を身に付けることを期待します。

○3. 11を忘れない

3. 11を教訓として、防災意識を高めるために、東京都教育委員会より配付された冊子『災害の発生と安全・健康』東京が震える前というテキストを使用して防災に対する意識を高めるために科目『保健』の中に取り入れて授業を行うことにしている。

1) 地震による被害 一大都市東京への教訓—

2) 東京にも大地震が来るのだろうか

(なぜ地震が多いのか・関東大震災について・活断層について・首都直下で起こる地震・液状化現象)

3) 地震・津波を知る

(断層運動によっておこる・海底の変動が津波を起こす・余震の発生が続く)

4) 緊急地震速報を有効に活用するために

5) 高校生ができること —自助・共助—

①自助～まず自分の命を守る

家具等への備えチェック

②共助～身近な人を助け、さらに地域に貢献する

初期消火・応急手当・倒壊家屋等からの救出・怪我をした人の搬送

6) 避難訓練や防災訓練の意義 —4回の避難訓練・宿泊防災訓練の実施

7) 『171 (災害用伝言ダイヤル)』の利用法

『心の免疫を高めよう』

①プラス思考：全てのことをポジティブに捉える習慣をつける。失敗したらどうしようというのではなく、「これから先は必ずよくなる」と成功した自分を思い浮かべる。

②持続する意欲、意志：意欲は待っていれば出てくるものではありません。意欲をもつ、物事に集中するという精神の働きは生まれつきのものではなく、環境や習慣によって形成されるところが大きいのです。意欲をもつ訓練をし、それを持続させる努力をすることが重要です。

③生きがい：家族や友人を大切に思い、周りの意見を受け入れ、自分について知る。また、芸術やスポーツなど苦しいときに自分を支えてくれる「生きがい」をもつ。

保健（2年）

2 学年保健年間授業計画

科目	保健		履修	必修			学年	2	単位	1 単位								
講座名	保健		担当															
	【知識及び理解】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】												
目標	現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、それを表現することができる。		現代社会と健康について、課題の解決を総合的に考え、判断し、それを表現することができる。			現代社会と健康について、意欲的に学習に取り組もうとする。												
評価規準	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。		現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、総合的に考え、判断し、それらを表現している。			現代社会と健康について、健康を保持増進するために、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。												
評価方法	考査 レポート		行動観察 発表 レポート			行動観察 発表 レポート												
月	学習の単元		学習の内容															
一 学 期	4	・ライフステージと健康	○生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を実践する。 ・ペアワーク、グループワークの実施 ・プレゼンテーションの実施 ・調べ学習レポート課題の実施 等を行い、内容の定着を図る。															
	5	・思春期と健康																
時間	6	・性意識と性行動の選択																
	7	・妊娠、出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活																
二 学 期	9	・大気汚染と健康									○健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を実践する。 ・ペアワーク、グループワークの実施 ・プレゼンテーションの実施 ・調べ学習レポート課題の実施 等を行い、内容の定着を図る。							
	10	・水質汚濁、土壌汚染と健康																
時間	11	・環境と健康にかかわる対策																
	12	・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動 ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用																
三 学 期	1	・さまざまな保健活動や社会的対策	○健康を支える環境づくり、オリンピックパラリンピックについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を実践する。 ・ペアワーク、グループワークの実施 ・プレゼンテーションの実施 ・調べ学習レポート課題の実施 等を行い、内容の定着を図る。															
	2	・健康に関する環境づくりと社会参加																
	3	・オリンピック、パラリンピックについて																
講習																		

保健の学び方

○保健の学習について

人は誰も健康を望んでいる。にもかかわらず、個人生活・社会生活のいずれにも健康を害するようなことを容易に見過ごす傾向がある。それには、正しい知識をもたないためにそうなっている場合と、知っていながら、なおかつそうなっている場合と二通りが考えられる。

保健学習の狙いは、一つは健康安全についての正しい知識を習得し、もう一つは理解したことを日常生活で実践する態度習慣を身に付けることによって、真に健康な個人生活・社会生活を営む能力を養うことにある。これは保健を学習する二ヶ年に限らず生涯続くべきものである。刻々変容する社会に生きる皆さんは、10年先20年先に、現在予測できないような変化に対した場合にも“人類の健康”を基盤とした正しい対処のしかたができるような考え方を養って行かなくてはならない。

本校の保健体育科のカリキュラムは、以上のような観点から立てられている。学習する皆さんもこのような点を十分意識して学習し、効果を上げてほしい。このことは保健体育の正課の授業だけでなく、部活動その他の活動をするときには常に心がけてほしいことである。さらに、日常生活のすべての面に押し広げていくことによって、皆さんが健康で、学級・学校という集団社会での生活が円滑に行われるような生活習慣を身に付けることを期待します。

A I D S

■エイズは人間の免疫を破壊する病気です。

○エイズは

Human Immunodeficiency Virus (H I V) の感染で引き起こされる、
ヒト 免疫不全 ウイルス

Acquired ImmunoDeficiency Syndrome (A I D S) の頭文字をとった病名です。
後天性 免疫不全 症候群

○人間の体は、いろいろな病原体から身を守る力が備わっています。これを**免疫**といいます。

H I Vは、人間の免疫の中心的な役割を果たすヘルパーT細胞（CD4リンパ球）に感染し、これを破壊します。このため、免疫力が低下して、様々な病原体による感染症にかかりやすくなります。（悪性腫瘍等）

■H I Vに感染しても自分では気が付きません。

○H I Vに感染してからの経過は、6ヶ月～10年以上の無症状期があり、すぐには症状が現れません。（この期間にも他の人に感染する可能性があります）

○自分の大切な人を守るためには、早期発見が大切です。感染したかどうかは、H I V検査（血液検査）を受けることにより、感染しているかどうかを知ることができます。

○エイズの治療

完全に治す薬はありませんが、治療を受けることによって発病を抑えることができるようになりました。（ART療法：長期生存が可能となった）

■H I Vの感染経路

○①血液を介する感染 ②性的接触による感染 ③母子感染の三つの経路です。

■H I V感染の予防

○H I Vの感染を予防するために一人一人ができること。

感染経路を絶つこと。性的接触をしないこと。

■H I V感染者やエイズ患者であるということで偏見や差別に苦しんでいる人がいます。H I V感染者やエイズ患者と共に生きる社会づくりを目指しましょう。

体育実技（1 学年）

1 学年体育年間授業計画

科目	体育		履修	必修		学年	1	単位	2 単位
講座名	体育		担当						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、各単元において、示された技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、継続して、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				
評価規準	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。		自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している		運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組もうとしている。				
評価方法	行動観察 スキルテスト 学習カード		行動観察 学習カード		行動観察 学習カード 出欠状況				
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期 時間	4	男女共通 ・水泳 ・バレーボール ・体育理論	○水泳 ・平泳ぎおよびクロールの習得						
	5		○バレーボール ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。						
	6		○体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解						
	7								
二 学 期 時間	8	男女共通 ①バドミントンまたはテニスまたはサッカーから選択 ②バドミントンまたはソフトボールまたは卓球から選択 ・体育理論	○バドミントン・テニス・卓球 ・サーブ、サービスや基本的なラケット動作の習得 ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。						
	9		○サッカー・ソフトボール ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。						
	10		○体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解						
	11								
12									
三 学 期 時間	1	男女共通 ・持久走 ・硬式テニスまたはバスケットボール ・体育理論	○持久走 ・距離走、タイム走を通して、自己の課題を見つけ、体力の向上を図る。						
	2		○硬式テニス ・サーブやストロークなどの基本的な運動動作の習得						
	3		○バスケットボール ・基礎基本的な個人スキルの習得 ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 ○体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解						
講習									

体育の授業を受けるにあたって

○単位の履修・修得と評価に関して

- ①単位：1週当たりの授業時間：1学年と2学年は男女とも2単位。3学年は男女とも3単位。
- ②履修：各学年とも体育は必履修科目。学校が定めた欠席時間数を超えた場合は、履修が認められず、未履修となる。
- ③修得：実授業数の欠席数が多い場合は評価「1」とする。また、総合的に判定した結果、評価を「1」とすることがある。学年末で評定「1」となった場合は、未修得となる。
- ④評価・評定：実技テスト、出席状況、授業態度を総合して評価される。従って、運動能力の優劣だけの評価ではないので、運動が不得意であっても出席や授業の取り組み姿勢で、ある程度カバーすることができる。

○遅刻・見学について

- ①遅刻：必ず更衣・出席した時点で担当教諭に申し出る。
：大幅な遅刻は欠席扱いとなる。授業に参加することは構わない。
- ②見学：見学理由を生徒手帳の諸届欄に記入し、事前に担当教諭に届け出て確認を得る。
：病気・負傷等により長期間の見学を要する場合には、診断書を提出するとともに各担当教諭の指示を受ける。

○更衣について

- ①更衣は迅速に行い「体育」の授業は勿論のこと、次の授業にも支障のないようにすること。
- ②更衣場所は、男子は各教室、女子は体育館1階更衣室を利用する。水泳の授業では、男女ともプール更衣室を使用すること。

○体育着について

- ①授業時には、学校指定のトレーニングウェアを着用する。
 - ・トレーニングシャツの下に着るTシャツは、学校指定の半そでTシャツとする。
 - ・ハーフパンツも学校指定のものとする。
- ②運動靴
 - ・校庭（テニスコート）・ピロティアーは、学校指定の校内運動靴を使用する。
 - ・体育館およびグラウンド授業のときは、専用の運動靴をそれぞれ用意する。(学校指定品ではない)
- ③水着について
 - ・水着は、紺又は黒の競泳用水着かスクール水着とする。(学校指定品ではない)
 - ・水泳用の帽子を着用する。色・形・素材は自由。
 - ・ゴーグルの使用は自由とする。

○授業中の注意に関して

- ①時計及び装身具（ネックレス・指輪・ピアス・ブレスレット等）は、危険防止のため一切身に付けないこと。また、長い髪は束ねること。
- ②体調に異変が生じた場合は、無理をせず直ちに運動を中止し、担当教諭に申し出る。
- ③軽率な行動で怪我をすることのないよう、安全には十分注意すること。
- ④授業中の給水は、担当教諭の許可を得てから行うこと。
- ⑤貴重品の管理は、個人で管理するか、担当教諭に管理してもらう。

体育実技（2学年）

2学年体育年間授業計画

科目	体育		履修	必修		学年	2	単位	2単位
講座名	体育		担当						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、各単元において、示された技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、継続して、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				
評価規準	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。		自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している		運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組もうとしている。				
評価方法	行動観察 スキルテスト 学習カード		行動観察 学習カード		行動観察 学習カード 出欠状況				
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共通 体育理論 ・男子：サッカー・バレーボール ・女子：水泳またはバドミントン ソフトボールまたは卓球 	<input type="checkbox"/> 水泳 <ul style="list-style-type: none"> ・背泳ぎおよびバタフライの習得 						
	5		<input type="checkbox"/> バレーボール・サッカー・ソフトボール・卓球・バドミントン <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 						
	6		<input type="checkbox"/> 体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解						
	時間								
二 学 期	8	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共通 体育理論 ・男子：水泳、ハンドボール 陸上競技 女子：バドミントンまたは水泳 バレーボールまたは卓球 ダンス 	<input type="checkbox"/> 水泳 <ul style="list-style-type: none"> ・背泳ぎおよびバタフライの習得 						
	9		<input type="checkbox"/> 陸上競技 <ul style="list-style-type: none"> ・リレーや短距離走を通して、スタートの技術習得、バトンパススキルの向上を目指し、仲間と課題を発見し、改善する。 						
	10		<input type="checkbox"/> バレーボール・バドミントン・ハンドボール <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 						
	時間								
三 学 期	11	<ul style="list-style-type: none"> 男女共通 ・持久走 ・硬式テニスまたはバスケットボール ・体育理論 	<input type="checkbox"/> ダンス <ul style="list-style-type: none"> ・創作ダンスを行う 						
	12		<input type="checkbox"/> 体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解						
	時間								
三 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> 男女共通 ・持久走 ・硬式テニスまたはバスケットボール ・体育理論 	<input type="checkbox"/> 持久走 <ul style="list-style-type: none"> ・距離走、タイム走を通して、自己の課題を見つけ、体力の向上を図る。 						
	2		<input type="checkbox"/> 硬式テニス <ul style="list-style-type: none"> ・サーブやストロークなどの基本的な運動動作の習得 						
	3		<input type="checkbox"/> バスケットボール <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本的な個人スキルの習得 ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 						
時間	<input type="checkbox"/> 体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解								
講習									

各領域別の内容

○運動に関する内容

1. 体力を高めるための体操
2. スポーツの技能を高めるための体操
3. 健康増進のための体操

○陸上競技

走、跳、投などの運動で、より速く走る、より遠くへ跳ぶ、より高く跳ぶ、より遠くへ投げることをねらいとし、自己の記録を高めたり、定められたルールや条件のもとで時間や距離、高さを競い合ったりする運動。

したがって、自己の記録を向上するための各種の技能を高め、記録の向上の喜びや競争の楽しさを味わうことができるようにすることが大切。

○水泳

浮く、泳ぐ、呼吸をするなどの技能によって成立している運動で、各種の泳法で、より長く、しかも速く泳ぐことをねらいとし、自己の課題を達成したり、競争したりする運動。

自己の目標を達成するための技能を高め、記録の向上の喜びや競泳の楽しさを味わうことができるようにすることが大切。

○球技

ボールなどを媒介にして集団的技能、個人的技能を発揮し、集団対集団あるいは個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとする運動。

球技では、技能の習熟程度に応じた作戦を立てて勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わうことができるようにすることが大切。

○ダンス

自己の感情や考え方を全身の動きで美しく表現したり、伝承されてきた踊りを仲間と踊ったりする運動で、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることをねらいとしている。

イメージにふさわしい表現の仕方を工夫して美しい作品を創作し、感じを込めて踊ることができるようにすることが大切。

体育実技（3学年）

3学年体育年間授業計画

科目	体育	履修	必修	学年	3	単位	3単位
講座名	体育	担当					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】		
目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、各単元において、示された技能を身に付けるようにする。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、継続して、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
評価規準	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。		自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している		運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組もうとしている。		
評価方法	行動観察 スキルテスト 学習カード		行動観察 学習カード		行動観察 学習カード 出欠状況		
月	学習の単元		学習の内容				
一 学 期 時間	4	男女共通 ・水泳 ・アルティメットまたはバレーボールまたは卓球またはユニホック ・男子：バドミントンまたはハンドボール ・女子：バドミントンまたはソフトボール	○水泳 ・4泳法の復習および100m個人メドレーの計測				
	5		○バドミントン・卓球 ・ダブルスやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 ・学習カードを用いて、振り返りを行う。				
	6		○バドミントン・卓球以外 ・リーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 ・学習カードを用いて振り返りを行う。				
	7		○体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解				
二 学 期 時間	8	男女共通 ・バスケットボール ・サッカーまたはテニス ・アルティメットまたはバレーボールまたは卓球またはユニホック ・体育理論	○テニス・卓球 ・シングルスやダブルスを通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 ・学習カードを用いて振り返りを行う。				
	9		○テニス・卓球以外 ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。				
	10		○体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解				
	11						
12							
三 学 期 時間	1	特別時間割	○特別時間割				
	2						
	3						
講習							

体づくり運動

○歴史

「体づくり運動」は、1999年（平成11年）、高等学校学習指導要領が改訂された際に、『体操』から「体づくり運動」へと名称が変更された。

体操は、古代ギリシャや紀元前の中国で行われていた身体の鍛錬、健康法、養生法などにその起源をさかのぼることができる。今日的な意味では、18世紀以降にドイツやスウェーデン、デンマークなどで教育や軍隊のために取り入れられたギムナスティック（近代体育の父・グーツムーツ氏が命名。語源は古代ギリシャのギムナスティーク）を起点として考えられる。

○日本への普及

江戸時代に活躍した儒学・医者であった貝原益軒が書した「養生訓」に運動の必要性が記載されている。体操という名称は幕末から明治初年に使われるようになった。

1868年（明治元年）にはドイツの体操が軍隊に取り入れられ、1878年（明治11年）にはアメリカ人のリーランド氏がヨーロッパで台頭してきた体操を日本の学校体育の現場へ伝えた。

1924年（大正13年）から1943年（昭和13年）にかけて行われた明治神宮競技大会（国民体育大会の前身）では集団体操が盛んに行われていた。「ラジオ体操」は、1928年（昭和3年）から開始された。

その後、学校現場での体操は「体づくり運動」と名称を変更したが、健康志向の高まりとともに、家庭内での実施や体操クラブとして子どもから高齢者まで幅広く実施されている。

○特性

体づくり運動は、いつでも・どこでも・だれでもできる運動であり、「器具や用具を用いない運動」と「器具や用具を用いる運動」に大別できる。他者と勝ち負けを競うものではなく、各自のライフスタイルに合わせて、心と体をほぐしたり、よく動ける体を獲得したり、体力を高めたりする運動。

○体づくり運動の学習

□目的

- ①心と体の関係に気づいたり、体の調子を整えたり、仲間と交流したりする運動。
- ②柔軟性を高める運動。
- ③持久力を高める運動。
- ④筋力を高める運動。
- ⑤調整力を高める運動。

□ねらい

- ①運動不足を解消する。
- ②スポーツのウォームアップに活用する。
- ③スタミナをつける。
- ④用具を用いてスポーツに必要な体力要素を高める。
- ⑤運動を通じて仲間と交流を深める。

○ルールを理解しゲームに臨む

3年生になると、選択授業が多く、ゲーム中心となることが多くなる。怪我の防止やルールを知ることによってその種目の運動特性もよくわかるようになり、チームの作戦も立てやすくなり、内容の濃い、また、高度な技能の習得にもつながります。副読本のステップアップ高校スポーツをよく読んで授業に臨んで下さい。

芸術科

芸術科学習指導計画

教科の学習目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

1年生では、音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰのいずれかを必ず履修する。

3年生は自由選択科目として、ソルフェージュ演習（音楽科）を開講する。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
音楽Ⅰ	1	必修	2	MOUSAI （教育芸術社）	
美術Ⅰ	1	必修	2	高校生の美術Ⅰ （日本文教出版）	
書道Ⅰ	1	必修	2	書Ⅰ （光村図書）	高校硬筆の練習 （教育出版）
ソルフェージュ 演習	3	自選	2	なし	

芸術を学ぶにあたって

○教科「芸術」で身につけて欲しいこと

芸術の授業で学んだ内容を進学準備に活かす必要性を感じる人は少ないと思われませんが、人としてのものの見方や考え方の幅を広げていく上で不可欠な分野です。芸術の受講によって生涯にわたって芸術を愛好する感性や人間性を身につけてほしいと考えています。

○授業の受け方

芸術Ⅰの授業は、音楽・美術・書道の中から1科目選択しますが、選択理由は各々異なるとはいえ、自ら選んだその科目さえも、決して得意とは言えない人から卒業後も専門的に学びたい人まで様々だと思います。その中でも、時に自分自身の思考力や表現力と向き合い集中しながら、向上心を持ち主体的な取り組みを期待します。

○展覧会・音楽会に出かけましょう！

教室で受ける授業は、きっかけでしかありません。音楽であれば、オーケストラやオペラなどの演奏会や舞台・アーティストのコンサート、ミュージカル鑑賞など、また美術・書道であれば、美術館や博物館、イベント、町の建造物や施設に溢れるデザイン・映画など、素晴らしい作品にたくさん触れてください。それらから受けた刺激が、芸術的感受の視点において計り知れない影響を与えてくれることに気づくはずですよ。ぜひ時間をつくって展覧会や音楽会に足を運んでほしいと願っています。

音楽 I

年間授業計画

科目	音楽 I		履修	必選			学年	1	単位	2 単位
講座名	音楽 I		担当							
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	楽典に関する理解を深め、歌唱・器楽分野の基礎的・基本的な演奏法を理解しながら、正しい発声や姿勢だけでなく、高度な演奏技能を身に付けられるようにする。		・音楽の美しさを味わい、演奏しながら表現を工夫できるようにする。 ・作品の背景や内容、音楽的特徴を捉え、言葉や音で表現できるようにする。			音楽の諸要素を感じ取り、言葉や演奏で表現しようとする態度、高度な技能習得に取り組もうとする態度を養う。				
評価規準	・楽典に関する理解を深めることができている。 ・歌唱・器楽分野の基礎的・基本的な演奏法を理解している。 ・正しい発声や姿勢だけでなく高度な演奏技能を身に付けられている。		・音楽の美しさを味わい、演奏しながら表現を工夫できている。 作品の背景や内容、音楽的特徴を音楽的に捉え、言葉や音で表現できている。			・音楽の諸要素を感じ取って、言葉や演奏で表現しようとしている。 ・高度な技能習得に取り組もうとしている。				
評価方法	行動観察 小テスト 実技テスト		行動観察 ワークシート 実技テスト			行動観察 振り返りシート 小テスト				
月	学習の単元		学習の内容							
一 学 期	4	学習について (歌唱) 発声法 日本語や外国語による歌曲	授業時の注意事項や年間計画を理解する。 発声時における正しい体の使い方や呼吸法を身につける。 日本語や外国語の発音や特徴を理解し、その美しさを歌唱により表現する。 合唱曲の構造とパートの役割、ハーモニーを感じ取りながら歌唱する。 箏の構造と基本的な演奏法を身につけ、易しい楽曲を演奏できるようになる。 正確にリズムを読みとり、他との調和をイメージしながら演奏する。 合奏の難しさを把握し、他パートとの聴き合いを大切にして演奏精度を上げる。							
	5	合唱曲								
	6	(器楽) 箏曲								
時間	24	7	クラッピングカルテット							
	二 学 期	9	(歌唱) 日本歌曲 イタリア歌曲 混声四部合唱	正しい発声と美しい発音で歌唱する。 曲種に応じた表現を工夫する。 イタリア語の発音の特徴を把握する。 作品の内容に合った歌唱表現について考える。 1 学期の内容を発展させ、箏の様々な奏法を用いて楽曲演奏できるようにする。 正確なリズムと速度で、16小節程度の課題に取り組む。						
10		混声四部合唱								
11		(器楽) 箏曲								
時間	28	12	リズム打ち							
	三 学 期	1	(器楽) アンサンブル	グループ編成からアンサンブル演奏まで、常に周囲に配慮しながら主体的に活動に取り組む。 歌唱法と表現方法を考えながら、歌唱できるようにする。 1 年のまとめとして、表現の工夫も加えて通奏する。						
2		(歌唱) 独唱曲								
3		混声四部合唱								
時間	18									
	18									
講習										

音楽の学び方

○学習内容について

高等学校学習指導要領で示される「音楽Ⅰ」は、「表現」と「鑑賞」の2分野に分けられ、さらに「表現」は「歌唱・器楽・創作」に細分されています。週1回2時間の授業時間において、それら全てを網羅することはなかなか容易なことではありませんので、必然的に各学校・各担当者の重点の置き方によって、様々な授業内容が展開されます。

本校の音楽Ⅰでは、主に歌唱及び器楽を扱いますが、歌唱分野においては、日本語による作品だけでなく、外国語（イタリア語など）の独唱曲、合唱曲にも取り組み、発音や詩の理解、発声法、表現法について学び、独唱・合唱できる技能を身につけます。

さらに歌唱以外の活動として、箏やリズムに関する活動を行います。中学校で箏や三味線に触れたことがある人も多いと思いますが、箏曲を演奏できるようにして、我が国の伝統文化に親しみます。各受講者の指に合わせた箏爪を購入してもらいますので、入学後授業の中でご案内します。また手拍子（クラッピング）やひざ打ち、ボディパーカッションの活動では、リズムを正確に読みとり体で表現する力をつけ、アンサンブルにも取り組みます。アンサンブルでは、他の受講者との合わせにおいて速度感覚や拍節感の違いによる課題に気づき、グループ内での学び合いを大切にして活動してください。正しいリズム感覚を身につけることが、歌唱力や楽器演奏力の向上だけでなく、音楽以外の生活や仕事においても役立てられる場面が多くあることは言うまでもありません。

○学習上の留意点

音楽の学習の大半は歌唱と器楽に関する活動です。音楽は一人では成り立ちません。一緒に演奏する仲間や聴いてくれる人がいて、「音楽」が生まれます。

一年間、ともに受講する仲間と常に協力して取り組んでください。読譜が苦手な人は、読める人も頼りながら、ぜひ読めるようになりましょう。歌が得意な人は、積極的に歌唱して周囲をリードし、講座全体で伸びやかに歌える教室空間にしていきましょう。

苦手な分野がある人は少しでも克服できるように、限られた時間の中ですが、常に前向きに取り組みましょう。

美術 I

年間授業計画

科目	美術 I	履修	必選	学年	1	単位	2 単位
講座名	美術 I	担当					
目標	【知識及び技能】 基礎的な技法や制作過程の習得を通し、造形的な見方・考え方を深める。	【思考力、判断力、表現力等】 主題性のある表現を追求し、また、発想し構想したことを鑑賞に生かす。	【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決に結びつく視点や考え方を考察し、学習に主体的に取り組む。				
評価基準	形の特徴を捉えた観察表現、テーマを捉えた平面構成やポスター制作、特性を理解した切り絵表現が制作されていること。	アイデアスケッチや完成に至る過程に、発想の自発性や集中力、研究的な活動が認められること。	制作の全体を振り返ることで考察を深め、評価・改善が認められること。				
評価方法	学習状況（発想の自発性、研究心、集中度）および提出状況（完成作品）	学習状況（発想の自発性、研究心、集中度）および提出状況（アイデアスケッチや中間提出）	振り返りシートの提出				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	4 (鑑賞) オリエンテーション (表現・鑑賞・絵画)	学習のあり方と目標について					
	5 自然物や人工物の観察表現 (表現・鑑賞・デザイン)	表現の意図と構図 物体の構造や形の特徴を観察し、鉛筆の線やトーンの変化で表現する。					
	6 平面構成制作	美の秩序と色彩調和 観察表現したモチーフを画面に配置し、配色計画に基づき着彩表現する。					
	時間 2 4	7 (鑑賞) まとめ	一学期の学習を振り返る。				
二学期	9 (表現・鑑賞・絵画) 鳥の観察表現	表現の意図と構図 鳥の骨格を理解し、形態・動静・質感を鉛筆で表現し、混色と重色により着彩（淡彩画）表現する。					
	10 (鑑賞) 名画の鑑賞	西洋と日本の美術文化 時代・作者・技法について知識を深め、作品を鑑賞する。					
	11 (表現・鑑賞・デザイン) 国際理解ポスター制作	コピー文とレタリング テーマを捉えるコピー文と伝達したい場面のアイデアスケッチを基に、ポスターでメッセージを表現する。					
	時間 2 8	12 (鑑賞) まとめ	二学期の学習を振り返る。				
三学期	1 (表現・鑑賞・絵画) 切り絵制作	線と面による構成 「身近な生活から」をテーマに人物と背景をアイデアスケッチし、切り絵で表現する。					
	2						
	時間 1 8	3 (鑑賞) まとめ	一年間の学習を振り返る。				
講習	制作の間に合わない生徒には、適宜、放課後の補講を設定する。						

美術の学び方

○学習内容

最近、芸術関係の仕事が脚光を浴びているようです。特に生活美術、応用美術面での、デザインという名のつく職業です。服飾デザイン、工芸デザイン、インテリアデザイン、コンピューターグラフィックデザインなど、多種多様に専門化されています。若い人達があこがれる花形の職業となっているようです。本校の美術の学習は、将来のエキスパートを育てるための予備学習ではありませんが、生徒の美的感性に刺激を与えて、自分の適性の発見に役立つように、授業は段階的に進めていきます。自然物や人工物を描写してその仕組みを観察したり、表現技法を研究すると同時に観賞する力も養います。高校は、それぞれ設備環境が異なるので、画一的な「美術」というものではありません。油絵に重点を置くところ、彫刻などの立体造形に重点を置くところ等、多様です。本校では、基本学習に重点を置き、絵画、デザインの制作を中心におこないます。

本校では毎年、美術関係への進学希望者がいます。大学や専門学校を卒業して、美術教師、写真、TV演出、美術印刷等の仕事で活躍している先輩もいます。将来、専門家にならなくても、一般的な絵の表現力、鑑賞能力、美術全般への理解力を美術Iで身に付けて欲しいと願っています。美術に必要な用具については、1年生の最初の授業で説明いたします。準備はそれからでも間に合います。特別に高価な品を買い揃える必要はありません。

美術の学習は、自分の目の前にあるモデルを、用具を使って表現する仕事ですから、作業のプロセス、完成までの時間配分など、計画的な思考態度がいつも要求されます。精神を集中してまじめに仕事に取り組む、芸術する態度の中から未知の可能性が芽生えることを、一人でも多くの生徒に体験して欲しいと願っています。

○学び方

美術Iは、中学校美術の基礎の上に立ち、さらに、表現力や観賞力を身に付けていく教科目です。単元ごとの学習では、教科書の技法資料やデジタルコンテンツ（QRコード）を活用し、基礎事項の確認をおこないながら進めていきます。

・**人工物や自然物の観察表現**—1学期のはじめは、石膏でできた幾何形体を描きます。ノートをとる時の姿勢と指先のストロークでは描くことはできません。「デッサン」という方法を身に付けます。2学期の鳥の剥製画では、自然物の色合いを捉えるため、重色や混色を研究しながら制作する必要があります。

・**平面構成・ポスター制作・切り絵**—いずれも、予め決められたテーマから構想し表現する課題です。平面構成やポスターでは、効果的な構成とともに配色を工夫することが大切です。ポスターは、最近では、「Cool Japan」、「個人でできるSDGs」をテーマに取り上げており、イラスト・コピー文・マークを画面に構成します。

切り絵は、人物と背景を構成するスケッチから始め、黒ラシャ紙にスケッチを転写したのち、線と面の効果を確認しながらカット作業を進めていきます。

・**鑑賞**—教科書を使用し、課題制作とともにおこなう鑑賞のほか、「作家探求—レオナルド・ダ・ヴィンチ」、「浮世絵版画の魅力」など、教科書に設けられている鑑賞を行います。

○諸注意

- ・定められた用具（ポスターカラー絵具セット、スケッチブックF6、鉛筆等）を持参してください。
※購入する用具の詳細は、初回の授業で説明します。（スケッチブックのみメーカーと型番を指定）
- ・授業が中心です。（正当な理由のない自宅制作は、評価対象外になります。）
- ・他者の迷惑にならない、協力的な姿勢を常に考えて行動してください。

書道 I

年間授業計画

科目	書道 I	履修	必選	学年	1	単位	2 単位
講座名	書道 I	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 書表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書美を味わい捉えたりすることができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 書表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している 	<ul style="list-style-type: none"> 書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書美を味わい捉えたりしている 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品の内容 ワークシートの記録 学習過程の記録 学習活動の様子 	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品の内容 ワークシートの記録 学習過程の記録 学習活動の様子 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況や様子 課題の提出状況 作品・ワークシート・学習過程の記録の取り組み状況 				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期 時間	4	<ul style="list-style-type: none"> 導入 漢字の書 	<ul style="list-style-type: none"> 用具・用材について 書美について 姿勢・執筆法 楷書…古典の臨書、鑑賞 行書…特徴、用筆法、字形のとり方 				
	5						
	6						
24	7						
二学期 時間	9	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書 仮名の書 	<ul style="list-style-type: none"> 行書…創作 隷書…特徴、用筆法、字形のとり方、創作 仮名の成立 仮名の筆づかい 連綿と変体仮名 古典の臨書・鑑賞 散らし書き 				
	10						
	11						
28	12						
三学期 時間	1	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書 	<ul style="list-style-type: none"> 仮名と漢字の調和 創作 落款と篆刻 鑑賞 				
	2						
	3						
18	3						
講習	必要に応じて補講を行う。						

書道の学び方

○学習内容

まずは、筆の扱い方に慣れ、書の基本を身に付けることから始めます。

書道用具・用材についての歴史・製法・性質・扱い方を知り、楷書・行書・隸書・仮名を古典（歴史的に評価の定まった書跡）の臨書・鑑賞を通して学習していきます。

その後、自分の選んだ言葉や詩文を題材にし、自分の思いを表現する作品を作ります。

また、日常生活に生かせるよう、硬筆（ペン字）も毛筆に関連させて学習します。

○学習の方法

自分が思う（考える）通りに文字を表現するためには、目標を持って学習する必要があります。そのためには、「書く」「見る」「考える」という3つの練習が不可欠です。とにかく、毎時間毎時間の授業を大切に、3つの練習をたくさんしましょう。

完成度の高い作品が提出できるよう、主体的・意欲的に学習に取り組みましょう。限られた時間の中でも、効率よく練習することで、必ず上達します。

様々な用筆・運筆を学習することにより、表現できる線質や趣の幅が広がります。単なる新しい技法の習得に終わることなく、自分の新しい表現力として積極的に活用していきましょう。

○学習上の留意点

(1) 良い用具を選び、しっかり手入れをする。

- ・墨で根元から穂先までカチカチになってしまった筆
- ・ほとんど洗ったことがなく、墨がすれないような硯
- ・折りジワが細かくついて平らにならない下敷き
- ・用具の箱を開けたらカビだらけ などなど

これでは、いくら能力があっても、うまく書くことはできません。用具にも寿命がありますから、使用できなくなった用具は無理に使い続けるのをやめて新しく用意しましょう。その際には、できるだけ書道専門店で買うことをお勧めします。100円ショップでも買うことはできますが、寿命の短いものが多く、結局何度も買い換えることになる可能性が高いです。

良い用具を用意すれば、おのずと手入れにも身が入り、長く使うことができます。用具のせいでうまく書けないとしたら、もったいないと思いませんか？良い用具をしっかり手入れし、いつも使いやすい状態にしておきましょう。

(2) 1つの課題に対して、繰り返し練習する。

「うまく書けない」「どうせ無理」と諦める前に、時間が許すぎりぎりまで練習をしましょう。でも、ただ何枚も書けばよいのではなく、自分で前に書いた作品と比較しながら、よく考えて書くことが必要です。

同じことを繰り返し、繰り返し練習することは辛いことですが、それを成し遂げてこそ、初めて納得のいく1つの作品が完成するものなのです。

(1) と (2) を実行するだけでも、作品の出来ばえが比較にならないほど良くなります。

自分の書く文字に、自信が持てるよう頑張りましょう。

外国語科

外国語科（英語）学習指導計画

教科の学習目標

英語を読む、書く、話す（発表・やり取り）、聞く、の4つの技能をバランスよく身に付けることを目標とする。

大学受験で英語は大きなウエイトを占める教科だが、本校の英語教育は難関大学突破に必要な英語力ばかりでなく、大学入学後、ひいては社会に出たあと役立つ英語力の土台をつくることを目指している。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
英語コミュニケーションⅠ	1	共通	3	CROWN English Communication I（三省堂）	CROWN English Communication I サブノート、CROWN English Communication I WORKBOOK Advanced, CROWN English Communication I（以上三省堂）英単語ターゲット1200、英単語ターゲット1900、タンゴスタ（旺文社）Reading Express Book 2（Z会）、英語の正しい発音の仕方 基礎編（研究社）、cutting edge yellow（エミル出版）
論理・表現Ⅰ	1	共通	3	Vision Quest English Logic and Expression I（啓林館）	Vision Quest 総合英語 Ultimate、Vision Quest 論理・表現Ⅰ Advanced WORKBOOK（以上啓林館）、Listening Laboratory Standard α（数研出版）、CNN Workbook（朝日出版社）、多読教材
英語コミュニケーションⅡ	2	共通	4	CROWN English Communication II New Edition（三省堂）	CROWN English Communication II 予習サブノート、CROWN English Communication II WORKBOOK Advanced、（以上三省堂）、UNITE STAGE 3（数研出版）、Cutting Edge Green（エミル出版）、英文速読10分テスト Reading Express Book 3（Z会）、英単語ターゲット1900（旺文社）、
論理・表現Ⅱ	2	共通	3	Vision Quest English Logic and Expression II（啓林館）	Vision Quest 総合英語 Ultimate、Vision Quest II Ace WORKBOOK Vision Quest Insight（以上啓林館）、SDGs 英語長文 Core（三省堂）、ゲートウェイ英作文（文英堂）、Listening Essentials 2, Listening Essentials 2.5（啓隆社）
英語コミュニケーションⅢ	3	共通	4	Ellement English Communication III（啓林館）	Ellement English Communication III サブノート、Cutting Edge（エミル出版）、SDGs 英語長文 Core（三省堂）、英単語ターゲット1900（旺文社）、Listening Essentials 2.5（啓隆社）
論理・表現Ⅲ	3	共通	2	FACTBOOK English Logic and Expression III（桐原書店）	Write to the Point（数研出版）、CLOVER 英文法・語法ランダム演習—入試発展（数研）、Vision Quest 総合英語 Ultimate（啓林館）、英文法・語法 Vintage（いづな書店）
英語発展演習	3	必選/ 自選	2		現代を探る[Advanced]（いづな書店）
英語標準演習	3	自選	2		現代を読む[Standard]（いづな書店）

英語を学ぶにあたって

英語の学習は日々の授業への取り組みはもちろんのこと、4つの技能「読む・書く・話す（発表・やり取り）・聞く」の習得が欠かせません。どの観点においてもバランスよく学習し、生きて使える英語の力をつけていきましょう。学び方は各科目のページを参照してください。英検等、英語4技能外部検定試験にもチャレンジします。

<科目構成>

英語コミュニケーション 4技能5領域を総合的に扱うことを重視し、総合的な英語力の向上を図る

1年生 英語コミュニケーションⅠ（3単位） 3単位中2単位はJETとTT

2年生 英語コミュニケーションⅡ（4単位） 4単位中2単位はJETとTT
タブレットを用いた「オンライン英会話」隔週

3年生 英語コミュニケーションⅢ（4単位）

論理・表現 「話すこと」及び「書くこと」の発信力の強化を図る 習熟度別少人数授業

1年生 論理・表現Ⅰ（3単位） 3単位中1単位はALTとTTで1クラス2展開

2年生 論理・表現Ⅱ（3単位） 3単位中1単位はALTとTT、ALTがない2単位は1クラス2展開

3年生 論理・表現Ⅱ（2単位） 2クラス3展開 3回の授業につき1度ALTとTT（9月まで）

JETやALTの先生方は、普段の授業はもちろん、休み時間や放課後には検定試験のスピーキング対策もさせていただきます。



<評価について> 観点別に評価を行っています。評価材料は各科目のページをご覧ください。

観点ごとのポイント

「知識・技能」 各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価

「思考・判断・表現」 各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価

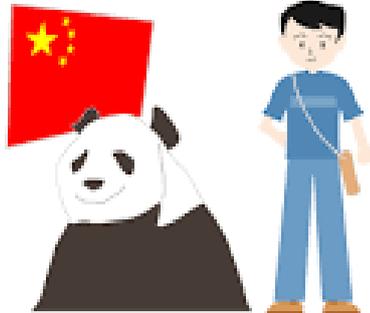
「主体的に学習に取り組む態度」 各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価

第二外国語（自由選択）

第二外国語「中国語」「ドイツ語」「フランス語」の3教科が1年時の自由選択科目として設定されている。それぞれの講座は週1回2時間連続で、日本人の教員とネイティブの外国人教員とのチームティーチングで授業を行う。楽しく実践的に学びながらそれぞれの言語の基礎を身につけていく。ただし、単なる会話の授業ではない。

放課後の時間に設定されている講座なので大変な面もあるが、今までに受講した生徒は皆意欲的に取り組んでいる。また第二外国語を学ぶことによって語学全般に対する見識が深まり、視野が広がる。結果的に英語やその他の教科の向上にもつながることが多い。

第二外国語を受講する生徒にとって大切なのは、あくまで意欲である。ぜひ積極的な態度とチャレンジ精神を持って、主体的・前向きに努力して欲しい。また、これは英語の学習についても同じことが言えるが、新しい言語を学ぶ際には日本語に引きずられないことが肝要である。日本語的な感覚にとらわれるよりも、新しいセンスを身につけるつもりで学んでほしい。発音についても全く新しい母音・子音があるので、日本語風に発音せずに、聞いたとおりの音を忠実に真似して発音するようにしよう。きれいな発音ができるようになると学習が楽しくなり、一気にその語学が上達するであろう。



第二外国語 中国語

年間授業計画

科目	中国語		履修	自由選択			学年	1	単位	2単位
講座名	中国語		担当							
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	中国語学習の基礎となる「簡体字」（簡略化された漢字）と「ピンイン」（音声を表記するローマ字）を習得するとともに、初歩的な文法事項を理解できるようにする。		文の構造を把握し、前後の文脈もふまえて中国語の文章を理解し、簡単な中国語の会話と作文ができるようにする。あわせてインターネット上の情報を正しく活用できる力を養う。			中国語の読解や会話・作文に積極的に取り組む態度、他者に学ぼうとする態度、文化的背景にも理解を深めようとする態度を養う。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 簡体字が正しく書けている。 ピンインのルールを正しく理解し、発音ができています。 基本的な中国語の文法事項を理解できています。 		<ul style="list-style-type: none"> 文の構造を把握し、前後の文脈もふまえて中国語の文章が理解できています。 簡単な中国語の会話と作文ができています。 中国語の文章の内容読解や会話・作文をする際にインターネット上の情報を正しく活用できている。 			<ul style="list-style-type: none"> 中国語の読解や会話・作文に積極的に取り組もうとしている。 会話練習などの際、ALTのアドバイスを取り入れるだけではなく、他の受講生の発表からも学ぼうとしている。 中国の文化についても理解を深めようとしている。 				
評価方法	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取組の様子、発言の内容、ワークシートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。		行動観察、ワークシート、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取組の様子、発言の内容などに基づいて評価する。 ・ワークシートを回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。			行動観察、ワークシート、小テスト ・ワークシートの記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。				
月	学習の単元		学習の内容							
一学期	4	発音	<ul style="list-style-type: none"> 中国語の特徴 四声／声調の変化 単母音／子音／複合母音／鼻母音 ピンインのきまり 							
	5									
時間	6	第1課 “你是中国人吗？” 1. 人称代名詞 2. “是”の文	<ul style="list-style-type: none"> “是”が述語になる文のきまり “吗”を使った疑問文のきまり 名前の言い方 簡単なあいさつ 							
	7									
二学期	9	第2課 “这是什么？” 1. 指示代名詞（1） 2. 疑問詞疑問文 3. “的”の用法（1） 4. 副詞	<ul style="list-style-type: none"> 指示代名詞“这”“那”“哪”のきまり 疑問詞疑問文のきまり 所有を表す“的”の用法 副詞“不”“也”の用法 							
	時間									
30	10	第3課 “你去哪儿？” 1. 動詞の文 2. 「所有」を表わす“有” 3. 省略疑問の“呢”	<ul style="list-style-type: none"> 動詞が述語になる文のきまり 動詞“有”の「所有」の用法 省略疑問文を作る“呢”の用法 							
	11									
時間	12	第4課 “这个包多少钱？” 1. 量詞 2. 指示代名詞（2） 3. 形容詞の文 4. “几”と“多少”	<ul style="list-style-type: none"> 量詞（助数詞）の用法 形容詞が述語になる文のきまり 疑問詞“几”と“多少”の用法 							
	12									

三 学 期	1	第5課 “你下午有事吗？” 1. 数字 2. 日付・時刻を表わす語 3. 「動作の時点」を言う表現	<ul style="list-style-type: none"> ・数字のきまり ・名詞（数詞）が述語になる文のきまり ・日付・曜日・時刻の表現 ・「動作の時点」のきまり 	
	2			
時間	20			3
講習	なし			

中国語の学び方

発音の学び方

- ・中国語の入門段階では発音の学習を中心とします。特に音声を表記するローマ字であるピンインのきまりを理解することが最大の課題です。中国語ではアクセントを間違えるとまったく意味が変わってしまいます。たとえば「コップはどこにありますか」と言いたいのに、アクセントを間違えてしまうと「布団はどこにありますか」になってしまうこともあります。そのため入門期では発音のきまりを理解することがとても大切なのです。
- ・ピンインに慣れるには、まず繰り返し音読することです。教室ではALTの先生について大きな声で発音をしてください。指名されて音読する時も間違いをおそれずに発音してください。
- ・それから、ピンインを実際に書いて視覚的に覚えることもおすすめします。付属のCDを聞いてピンインを書き取ってみることも一つの方法です。ピンインは覚えるまでに一定の時間がかかりますが、練習を繰り返していくと初めて見る単語のピンインでも読めるようになっていきます。
- ・中国語の発音は難しそうだと感じるかもしれませんが、音の豊かさ也是中国語の魅力の一つです。中国語の面白さに触れるつもりで発音を学んでください。

簡体字・単語の学び方

- ・簡体字は日本語の常用漢字と書き方が違うものだけを覚えれば良いので難しくありません。
- ・単語は同じ漢字を使っても日本語と意味の異なるものに注意して覚えてください。

文法の学び方

- ・一年という期間に限定すると、中国語は語尾の活用がないので活用のある外国語よりも多くの表現を学ぶことができます。
- ・中国語の文法学習のポイントは語順を覚えることです。中国語は語尾の活用がないかわりにアクセントや語順によってそれぞれの言葉の意味が決まるからです。
- ・学び始めたばかりの頃は、中国語の語順は英語のようだという印象を持つかもしれませんが。しかし中国語は漢字や単語だけではなく、文法にも日本語に似ている所がたくさんあります。そのため日本語と比べて中国語の語順を理解することが有効です。
- ・日本語と中国語との比較を続けていくうちに、今まで意識していなかった日本語の特徴にも気づくはずです。そうした言葉に関するだけでなく、文化的な背景や中国の人々の価値観などについても、みなさんが中国語を学ぶことでたくさんの発見をすることを願っています。

第二外国語 ドイツ語

年間授業計画

科目	ドイツ語		履修	自由選択	学年	1	単位	2
講座名	ドイツ語		担当					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	ドイツ語の発音やイントネーションを身に付け、英語との共通点と相違点を意識しながらドイツ語文法の基本的な特徴を掴み、基礎級の語彙を覚える。		・自分の思想を表現する時に現れる語学上の問題を認識する。 ・ドイツ語に存在するルールを独自に発見してそして適確に応用する。 ・日常生活の場面で適切な表現で自分の意志を表現する。		基礎級の会話が出来る様に成る為に必要な語彙を暗記し、文法のルールを覚え、授業内容を深める為の宿題に真面目に取り組み、主体的、自律的にドイツ語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。			
評価規準	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。		コミュニケーションの相手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題についての情報や考えを伝える。		自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、日常的な話題について工夫して伝え合おうとしている。			
評価方法	授業中の発言・行動観察・宿題・小テスト 学習への取り組みの様子、発言の内容などに基づいて評価する 期末試験も実施し、その結果に基づいて評価する 授業中の発言等：50% 宿題・小テスト：20% 期末試験：30%		授業中の発言・行動観察・宿題・小テスト 学習への取り組みの様子、発言の内容などに基づいて評価する 期末試験も実施し、その結果に基づいて評価する 授業中の発言等：50% 宿題・小テスト：20% 期末試験：30%		生徒の発達の段階や一人ひとりの個を十分に考慮しながら、授業中の発言、ペア・グループワークの時のパートナーとの共同作業、メモを取る事、集中的に内容に取り組み、授業が進む様に貢献する態度、授業時間以外の学習態度を観察して評価する			
月	学習の単元		学習の内容					
一 学 期	4	持ち込みプリント 第0課7頁～9頁 第1課10頁～13頁	ドイツ語圏、ドイツ語の世界の中の地位；平叙文、補足疑問文、決定疑問文 アルファベットと発音、数（10迄） 挨拶					
	5	第1課14頁～15頁 第2課16頁～19頁	動詞の現在形人称語尾変化（単数のみ） 紹介、数（11から100迄）、性別による名詞の接尾語の有無					
時 間	6	第2課20頁～21頁 第3課22頁～25頁	動詞の現在形人称語尾変化（複数）、sein動詞の特殊変化 持ち物について述べる、名詞の性、冠詞（定・不定・否定）					
	1 8	第3課26頁～27頁 持ち込みプリント	名詞の複数形のタイプ 総合復習及び試験					
2 0	9	第4課28頁～29頁 第4課30頁～31頁 第4課32頁～33頁	食べ物を買う 名詞と冠詞の格変化（4格） haben, möchten, nehmen動詞の変化					
	1 0	第5課34頁～37頁 第5課38頁～39頁	家族構成；所有冠詞 人称代名詞の格変化					
1 1	1 1	第6課40頁～43頁 第6課44頁～45頁	好みを表現する事、a→ä及びe→i(e)タイプの不規則動詞 命令形					
	1 2	第7課46頁～49頁 第7課50頁～51頁 持ち込みプリント	衣類、名詞・人称代名詞の三格 前置詞の格支配 総合復習及び試験					
時 間	1	第8課52頁～53頁 第8課54頁～55頁 第8課56頁～57頁	道案内 3／4格支配前置詞 分離動詞					
	1 6	第9課58頁～61頁 第9課62頁～63頁 第10課64頁～67頁 第10課68頁～69頁 持ち込みプリント	話法助動詞 未来形 再帰代名詞・動詞 従属接続詞と副文構造 総合復習及び試験					

ドイツ語の学び方

語学も、他の事と同様に、効果を上げるには復習が必要である。宿題・復習・予習も必要である。なお、授業中に消極的な態度で講師の説明を聞くだけでなく、提示された内容を直ぐに応用しようと言う意欲が不可欠である。そのため、積極的に問題意識を磨きながら、ドイツ語の特性を発見したり、マスターしようとしたりする態度で授業に臨むことが望ましい。毎回、辞書(オンラインの物も可)を持参する事が望ましい。

第二外国語 フランス語

年間授業計画

科目	フランス語		履修	自由選択	学年	1	単位	2 単位
講座名	フランス語		担当					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	<ul style="list-style-type: none"> フランス語で基礎的な 4 技能（読む、書く、話す、聞く）ができるようにする。 フランス語圏の文化や習慣、考え方について理解を深める。 		<ul style="list-style-type: none"> 文の構造を把握し、前後の文脈もふまえてフランス語を理解し、簡単な会話と作文ができるようにする。 綴り字と発音の関係を理解し、正確に聞き取り正しく発音ができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> フランス語の読解や会話、作文、聞き取りに積極的に取り組む態度、他者に学ぼうとする態度、他者と共に学ぼうとする態度、文化的背景にも理解を深めようとする態度を養う。 			
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> フランス語で基礎的な 4 技能（読む、書く、話す、聞く）ができている。 フランス語圏の文化や習慣、考え方について理解できている。 		<ul style="list-style-type: none"> 文の構造を把握し、前後の文脈もふまえてフランス語を理解し、簡単な会話と作文ができている。 綴り字と発音の関係を理解し、正確に聞き取り正しく発音ができている。 		<ul style="list-style-type: none"> フランス語の読解や会話、作文、聞き取りに積極的に取り組もうとしている。 他者に学ぼうとしている、他者と共に学ぼうとしている。 文化的背景にも理解を深めようとしている。 			
評価方法	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子、発言の内容、ワークシートの記述内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 		行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> 学習への取組の様子、発言の内容、ワークシートの記述内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 		行動観察、ワークシート、小テスト、グループ発表 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記述内容に基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 グループ発表を実施し、その結果に基づいて評価する。 			
月	学習の単元		学習の内容					
一 学 期	4	Leçon 0- 4	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、数字1-20、フランス語のルール 自己紹介（国籍・身分・職業） パン屋で買い物 不定冠詞・定冠詞、提示の表現 動詞 être / avoir / 第1群規則動詞（er動詞） 都市や言語、旅に関する語彙 疑問文と答え方 					
	5							
	6							
時間	7							
16								
二 学 期	9	Leçon 5 - 7	<ul style="list-style-type: none"> 部分冠詞、形容詞：人について特徴・状態・所有を言う 食べ物、飲み物、家族、色の表現 否定文 パリの市場で買い物 映画館やカフェに誘う フランス語検定5級試験準備 					
	10							
	11							
時間	12							
22								
三 学 期	1	Leçon 8	<ul style="list-style-type: none"> レストランやカフェで注文 パリの街を散策する、パリの地図を使ってみる フランスの地方についてのグループ発表 					
	2							
	3							
時間	3							
10								
講習	なし							

フランス語の学び方

ー 学習にあたって大切なこと ー

フランス語の発音に最初は戸惑うかもしれませんが、フランス語の読み方には規則性がありますので、一定のルールを覚えると、初めて出会う単語も発音できるようになります。授業中は大きな声で発音しましょう。小さい声で発音をしていると、正しく発音をしているのか、こちらには聞こえないので、発音を直すことができません。

英語コミュニケーション I

年間授業計画

科目	英語コミュニケーション I	履修	必修	学年	1	単位	3 単位
講座名	英語コミュニケーション I	担当					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】		
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる。 		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。		
評価方法	授業内でのテスト、および定期考査 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートへの取り組み、記述内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 		授業内でのテスト、ワークシート、および定期考査 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートへの取り組み、記述内容などに基づいて評価する。 ノートやワークシート等、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 		振り返りシート、授業内でのテスト、プレゼン等 <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートを回収しその記述内容に基づいて評価する。 テストや課題への取り組みに基づいて評価する。 		
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	4	Lesson 1 The Blue White Shirt	<ul style="list-style-type: none"> 和製英語について、理解して考えを深める。 片づけの専門家・近藤麻理恵さんの生き方や片づけに関する考え方について、理解して考えを深める。 アーティスト・ミヤザキケンスケさんの活動や考え方について、理解して考えを深める。 縄文時代の人々の暮らしや土器、土偶などについて、理解して考えを深める。 				
	5	Lesson 2 Does It Spark Joy?					
時間	6	Lesson 3 Hatching the Egg of Hope	<ul style="list-style-type: none"> 人間と動物の共生や環境保護に関するジェーン・グドール博士の考えについて、理解して考えを深める。 スマートフォンの使用に関するよい点と問題点について、理解して考えを深める。 写真家・星野道夫さんの自然に対する考え方、アラスカの自然や人々の暮らしについて、理解して考えを深める。 戦争の悲惨さや平和の重要性、写真の持つ力について、理解して考えを深める。 				
	7	Lesson 4 Digging into Mystery					
36							
二学期	9	Lesson 5 Roots & Shoots	<ul style="list-style-type: none"> 旧宗主国と旧植民地の間に存在する文化財返還問題について、理解して考えを深める。 『ピーナッツ』の世界的人気の理由や作者のチャールズ・M・シュルツさんが考える「人生の成功」について、理解して考えを深める 				
	1	Lesson 6 You and Your Smartphone — Who's in Charge?					
時間	1	Lesson 7 Living in Alaska	<ul style="list-style-type: none"> 旧宗主国と旧植民地の間に存在する文化財返還問題について、理解して考えを深める。 『ピーナッツ』の世界的人気の理由や作者のチャールズ・M・シュルツさんが考える「人生の成功」について、理解して考えを深める 				
	1	Lesson 8 Not So Long Ago					
42							
三学期	1	Lesson 9 Our Lost Friend	<ul style="list-style-type: none"> 旧宗主国と旧植民地の間に存在する文化財返還問題について、理解して考えを深める。 『ピーナッツ』の世界的人気の理由や作者のチャールズ・M・シュルツさんが考える「人生の成功」について、理解して考えを深める 				
	2	Lesson 10 Good Ol' Charlie Brown					
時間	3		<ul style="list-style-type: none"> 旧宗主国と旧植民地の間に存在する文化財返還問題について、理解して考えを深める。 『ピーナッツ』の世界的人気の理由や作者のチャールズ・M・シュルツさんが考える「人生の成功」について、理解して考えを深める 				
	27						
講習	長期休業中に必要に応じて補習・講習を行う						

英語コミュニケーション I の学び方

○読解をベースとする 4 技能の育成

教科書：CROWN English Communication I (三省堂)
副教材：CROWN English Communication I サブノート (三省堂)
CROWN English Communication I WORKBOOK Advanced (三省堂)
英単語ターゲット 1200 (旺文社)
英単語ターゲット 1900 (旺文社)
タンゴスタ (旺文社)
Reading Express Book 2 (Z 会)
英語の正しい発音の仕方 基礎編 (研究社)
Cutting Edge Yellow (エミル出版)

英語の授業では、英語学習における 4 技能 5 領域（読む、書く、聞く、話す「発表・やり取り」）を身につけることを目標とし、そのために必要な学習活動をバランス良く行う。グローバル社会においては、英語を通じて情報を的確に理解すること、また自分の考えを英語で適切に表現することが必要となる。1 年のうちから英語のインプットとアウトプットをしっかりと行い、豊かな語学力とコミュニケーション能力を育成することが重要となる。それが結果として、将来の進路実現にも繋がっていく。

1 年生では、英語コミュニケーション I が 3 単位ある。そのうち 2 単位は、JET と日本人教員のティームティーチングを行う。

○読解力の育成

英語コミュニケーション I では、ある程度の長さの英文を、できるだけ速く的確に内容把握し、それを要約して英語または日本語で他者に伝えたり書いたりする力を身に付けることを目標とする。英語表現でも学習する文法・語法の知識を活かし、必要に応じて辞書・参考書を活用しながら、自ら英文を読解する力を身に付けていく。多種多様な学習活動を通じて授業を展開する。

○発話力の育成

英語話者にきちんと伝わる発音やイントネーションで英語を発話する力を身に付ける。そのために音声教材の活用および音読は必須である。正確な発音を手本に音読することで、英語独特のリズムや発音を身に付け、表現を自分のものとし、自ら英語を話し書く力を育てる。

○語彙の育成

家庭学習課題と小テスト等を通じ、語彙知識の定着も図る。英語を理解するうえで語彙の知識は不可欠である。わかるだけでなく使える語彙の定着を図る。音声教材も活用しながら声に出して発音し、スペルを書いて覚える習慣をつけることが望ましい。単語の意味を理解した段階で教科書の音読を繰り返すとより効果的である。学習した単語に何度も出会う機会を作ることが記憶の定着に役立つ。

○英語 4 技能外部検定試験

GTEC 受験予定

論理・表現 I

年間授業計画

科目	論理・表現 I		履修	必修			学年	1	単位	3 単位	
講座名	論理・表現 I		担当								
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】					
目標	外国語を用い、やりとり、発表、書くことの三つの領域で必要となる言語に関する特徴やきまりとそれに基づく運用能力を身に付け、発信力を強化することを目標とする。		内容の論理構造や展開を工夫し、基本的な語句や文を用い、日常的な話題について、支援を活用しながら情報や考え、気持ちなどを伝達・発表できることを目標とする。			内容を論理的かつ効果的に伝えるために、提示されたモデルを積極的に分析・活用し、かつ聞き手、読み手の理解度を考慮しながら伝達方法を改善できる態度を身に付ける。					
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・表現のモデルに従いパターンを正確に運用できる。 ・会話、発表、ディスカッション・ディベート等で必要な基本的技能を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・会話、発表、ディスカッション・ディベート等で、伝えたい内容が十分整理され、まとまっている。 ・論理展開、表現等が、相手により伝わるように工夫されている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容について、モデルで提示された内容にとどまらず、自主的に発展させている。 ・相手の知識や理解度に合わせ表現など発展的に改善されている。 					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストおよび定期考査の結果 ・ワークシート、課題等の記述内容 ・発表原稿等の内容・表記 ・発表時の言語運用能力 上記の点に基づいて評価する。		<ul style="list-style-type: none"> ・発表原稿および定期考査の結果 ・発表原稿等の語彙・表現方法、論理展開における工夫 ・発表時の表現方法 上記の点に基づいて評価する。			<ul style="list-style-type: none"> ・回収した振り返りシートの記述内容 ・発表原稿等の内容の発展性 ・提示モデルを離れた自主研究・自己探求の程度 上記の点に基づいて評価する。					
月	学習の単元		学習の内容								
			α (2単位分)						β (1単位分)		
一学期	4	(Vision Quest I) Lesson 1 I want to introduce my new friend.	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介 応答する、理由を述べる／文の種類 ・学校生活 賛成・反対する、聞き直す／文型と動詞 ・旅行・観光 激励する・励ます、計画する・予定する／時制 						<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感想や意見に基づいたスピーチやプレゼンテーションを行う。 ・クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションを適切に評価する。 ・身近な内容についてネイティブスピーカーの先生とやり取りをする。 		
	5	Lesson 2 How about joining our group?									
時間	6	Lesson 3 I'm planning a day trip this weekend.	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味・関心 経験を訪ねる、初めての経験を述べる／完了形 						<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感想や意見に基づいたスピーチやプレゼンテーションを行い、それに対する質問に答える。 ・クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションを適切に評価し、質問ができるようにする。 ・身近な内容についてネイティブスピーカーの先生とやり取りをする。 		
	7	Lesson 4 Have you ever tried it before?									
二学期	9	Lesson 5 What do you want to do after school?	<ul style="list-style-type: none"> ・将来・進路 許可を求める・依頼する、義務・必要を表す、回想する・自省する／助動詞 ・日常生活 原因・影響を表す、喜び・驚きを表す／受動態 ・交流・交通 感謝する、謝罪する、弁解する／不定詞 ・スポーツ・健康 誘う・申し出る、推薦する／動名詞 ・メディア・コミュニケーション 描写する、判断の根拠を述べる／分詞 ・文化・異文化理解 定義する、言い換える、経緯を説明する／関係詞 						<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感想や意見に基づいたスピーチやプレゼンテーションを行い、それに対する質問に答える。 ・クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションを適切に評価し、質問ができるようにする。 ・身近な内容についてネイティブスピーカーの先生とやり取りをする。 		
	10	Lesson 6 Did you hear about the new shop?									
	11	Lesson 7 I'm happy to have you with us.									
	12	Lesson 8 What sport do you like playing?									
時間	12	Lesson 9 Digital media has come a long way.	<ul style="list-style-type: none"> ・国際問題 提案する、賞賛する／比較 ・社会問題 助言を求める・助言する、願望を表す／ 						<ul style="list-style-type: none"> ・国際問題 提案する、賞賛する／比較 ・社会問題 助言を求める・助言する、願望を表す／ 		
	42	Lesson 10 That's why I decided to go back.									
三学期	1	Lesson 11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones?	<ul style="list-style-type: none"> ・国際問題 提案する、賞賛する／比較 ・社会問題 助言を求める・助言する、願望を表す／ 						<ul style="list-style-type: none"> ・国際問題 提案する、賞賛する／比較 ・社会問題 助言を求める・助言する、願望を表す／ 		
	2	Lesson 12 If I were you, I'd see it as a positive.									
時間	3	Lesson 12 If I were you, I'd see it as a positive.	<ul style="list-style-type: none"> ・国際問題 提案する、賞賛する／比較 ・社会問題 助言を求める・助言する、願望を表す／ 						<ul style="list-style-type: none"> ・国際問題 提案する、賞賛する／比較 ・社会問題 助言を求める・助言する、願望を表す／ 		
	27										
講習	長期休業中に必要に応じて補習・講習を行う										

論理・表現 I の学び方

■論理・表現 I (α) 2単位

○英文構成力・文法力・表現力・会話力の育成

教科書：Vision Quest English Logic and Expression I Advanced (啓林館)

副教材：Vision Quest 総合英語 Ultimate (啓林館)

Vision Quest 論理・表現 I Advanced WORKBOOK (啓林館)

Listening Laboratory Standard α (数研出版)

英語表現 I (α) では、英文の文章構造、発音、イントネーション、語彙力など、基礎となる知識・能力を体系的に身に付け、自ら表現していく能力を高めていくことを目標とする。基本的な文法事項を学習しながら、基本例文をほぼ自動的に発話できる状態まで高めることで、英文をすばやく読み、正確に聞き、的確に話し、書く能力を向上させる。また、文法・語彙知識を活用して、ある程度のまとまった英文を書くことを目指す。発音学習とリスニングにおいては「音声変化」を体系的に学ぶとともに、英検・GTEC・TEAP・各種模試などの多様なリスニング問題に対応できる力をつけながら、実際の英会話能力を高める。

文法知識は理解しただけでは不十分であり、自らのコミュニケーション・ツールとして使えるまで体得することが必須である。

■論理・表現 I (β) 1単位 (ALT とのティームティーチング)

○コミュニケーション力・表現力の育成

副教材：CNN Workbook 2025 Intensive Course (朝日出版社)

ALT と日本人教員とで少人数の授業を行う。プレゼンテーションやスピーチ、また ALT とのやり取りを通してコミュニケーション能力の伸長を図る。論理・表現 I (α) やコミュニケーション英語 I で得た知識や技能を積極的に使用していく姿勢が望まれる。また、他教科での学びや探求活動での学びが各自のプレゼンテーションの内容に活かされることも期待している。自分を豊かに表現するためにも、日ごろから様々なことに興味を持ち、幅広い視野や教養を身に付ける努力をしてほしい。

英語コミュニケーションⅡ

年間授業計画

科目	英語コミュニケーションⅡ	履修	共通	学年	2	単位	4単位
講座名	英語コミュニケーションⅡ	担当					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】		
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
評価規準	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。		
評価方法	授業内でのテスト、および定期考査・ワークシートへの取り組み、記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。		授業内でのテスト、ワークシート、および定期考査・ワークシートへの取り組み、記述内容などに基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。		振り返りシート、授業内でのテスト・プレゼン等 ・振り返りシートを回収しその記述内容に基づいて評価する。 ・テストや課題への取り組みに基づいて評価する。		
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	4	Lesson1 Lost in Translation	<ul style="list-style-type: none"> ・翻訳できないことばについて理解し、意見交換をする。 ・アジアの国々の子どもたちへ絵本を届けるシャンティ国際ボランティア会の活動に関する雑誌記事について理解し、シャンティボランティア会の活動のエピソードに関連して意見や情報を交換する。 ・障害者のために活動するジョシュ・グリズデイルさんについて理解し、観光バリアフリーやジョシュ・グリズデイルさんの活動に関連して意見や情報を交換する。 ・貫戸医師の「国境なき医師団」での体験についての講演について理解し、貫戸医師の経験に関連して意見や情報を交換する。 ・決められたスケジュールに従って単語テストを実施し語彙力の増強を図る。 				
	5	Lesson2 One Book Can Empower a Child					
時間	6	Lesson3 Accessible Japan					
7	Lesson4 Crossing the Border						
36							
二学期	9	Lesson5 Mental Toughness	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにおけるメンタル・タフネスについての雑誌記事について理解し、意見や情報を交換する ・サグラダファミリアの主任彫刻家、外尾悦郎さんについてのインタビュー記事を読み、外尾さんのエピソードに関連して意見や情報を交換する。 ・新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」について理解し、自然と人間の共存やバイオミミクリーについて意見や情報を交換する。 ・コートジボワールのカカオ農園の女性たちの活動についてのレクチャーから、概要や要点、詳細を聞き取ったり読み取ったりし、ジェンダーギャップについて意見や情報を交換する。 ・決められたスケジュールに従って単語テストを実施し語彙力の増強を図る。 				
	10	Lesson6 Walking in Gaudi's Footsteps					
時間	1	Lesson7 Why Biomimicry?					
1	Lesson8 Invisible No Longer						
42							
三学期	1	Lesson9 Nudges	<ul style="list-style-type: none"> ・ナッジについての論説文から、概要や要点、詳細を聞き取ったり読み取ったりし、その考え方や実例について意見や情報を交換する ・リチャード・ドーキンス博士による地球外生命体の探索についての論説文から、概要や要点、詳細を聞き取ったり読み取ったりし、宇宙探査に関連して意見や情報を交換する。 ・決められたスケジュールに従って単語テストを実施し語彙力の増強を図る。 				
	2	Lesson10 Are We Alone?					
時間	3						
27							
講習	長期休業中に必要に応じて補習・講習を行う						

英語コミュニケーションⅡの学び方

○読解力の育成

教科書：CROWN English Communication Ⅱ（三省堂）

副教材：CROWN English Communication Ⅱ 予習サブノート（三省堂）

CROWN English Communication Ⅱ Workbook Advanced（三省堂）

日常生活・学校生活、ネット情報社会、言語・民族、比較文化、平和や地球環境、国際協力、科学技術や冒険、社会貢献、伝統文化、歴史、人間としての生き方などの様々な内容の英文を読むことで、それぞれの分野の背景知識の基礎を培い、今後触れるであろう大学入試問題に対応できる基礎力を養う。また、音読活動を多く取り入れることで、英文の直読直解力を養い、様々な表現を身につける。

○読解力の育成

副教材：UNITE STAGE 3（美誠社）、Cutting Edge Green（エミル出版）

Reading Express Book 3（Z会）

200～300語程度のまとまった英文を読み共通テストで要求される速読力を養う。また多様な話題に触れることで、読解に必要な基礎知識を培う。

○語彙の育成

副教材：英単語ターゲット1900（旺文社）

1年生に使用した英単語ターゲットを繰り返し扱い、語彙力や熟語の知識の伸長を図る。アプリ等を利用し、単語帳を見ながら、聴き・発音し・スペルを書くことで単語を覚える習慣をつけることが望ましい。反復練習を毎日欠かさず行うことが重要である。週1回の単語テストを実施することで、語彙の定着を図る。

○英語4技能外部検定試験

GTEC 受験予定

論理・表現Ⅱ

年間授業計画

科目	論理・表現Ⅱ		履修	必修		学年	1	単位	3単位
講座名	論理・表現Ⅱ		担当						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	外国語を用い、やりとり、発表、書くことの三つの領域で必要となる言語に関する特徴やきまりとそれに基づく運用能力を身に付け、発信力を強化することを目標とする。		日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いた、読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち、また意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。		内容を論理的かつ効果的に伝えるために、提示されたモデルを積極的に分析・活用し、かつ聞き手、読み手の理解度を考慮しながら伝達方法を改善できる態度を身に付ける。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 言語の働きや役割などを理解し、表現モデルに従いパターンを正確に運用できる。 会話、発表、ディスカッション・ディベート等で必要な基本的技能を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 場面・目的・状況等に応じて、日常的や社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 論理展開、表現等が、相手により伝わるように工夫されている。 		<ul style="list-style-type: none"> 発表内容について、モデルで提示された内容にとどまらず、自主的に発展させている。 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いた、読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テストおよび定期考査の結果 ワークシート、課題等の記述内容 発表原稿等の内容・表記 発表時の言語運用能力 上記の点に基づいて評価する。		<ul style="list-style-type: none"> 発表原稿および定期考査の結果 発表原稿等の語彙・表現方法、論理展開における工夫 発表時の表現方法 上記の点に基づいて評価する。		<ul style="list-style-type: none"> 回収した振り返りシートの記述内容 発表原稿等の内容の発展性 提示モデルを離れた自主研究・自己探求の程度 上記の点に基づいて評価する。				
月	学習の単元		学習の内容						
			α (2単位分)			β (1単位分)			
一学期	4	Lesson 1 Future Goals Lesson 2 School Life Build Up 1 名詞と冠詞	適切な主語を用いる 適切な動詞を用いる			<ul style="list-style-type: none"> ALT とのチームティーチング Activity 1 Interview Activity 2 Negotiation 修学旅行に向けた表現活動を行う。 			
	5	Lesson3 Sports Lesson4 Information Age Build Up 2 主語と動詞の呼応・時制の一致	時を表す 義務・必要・推量を表す						
6									
時間	7								
36									
二学期	9	Lesson5 Environmental Issues Lesson6 Cultures	情報を加える (1) 情報を加える (2)			<ul style="list-style-type: none"> ALT とのチームティーチング Activity 3 Facts and Opinions Activity 4 Compromise 自分が選んだトピックにおいて発表を行う。 			
	10	Build Up 3 英語の情報構造 Lesson7 Language Education	情報を加える (3) 情報を伝える						
	11	Lesson8 Society Build Up 4 前置詞	条件と仮定を表す						
12	Lesson9 Wishes								
時間	42								
三学期	1	Lesson10 Science and Technology	数量を表す			<ul style="list-style-type: none"> ALT とのチームティーチング Activity 5 Research Activity 6 Planning 発表活動 			
	2	Build Up 5 ポライトネス Lesson11 Health	比較を表す						
	3	Lesson12 Business Build Up 6 コミュニケーションのためのストラテジー	否定を表す						
時間	27								
講習	長期休業中に必要に応じて補習・講習を行う								

論理・表現Ⅱの学び方

■論理・表現Ⅱ(α) 2単位 習熟度別授業

○文法力・語彙力・表現力(作文力)の育成

教科書: Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace (啓林館)

副教材: Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace WORKBOOK (啓林館)

Vision Quest Ultimate (啓林館)

Vision Quest Insight (啓林館)

Listening Essentials 2 (啓隆社) Listening Essentials 2.5 (啓隆社)

1年生の時に基礎的な文法の力を身につけ、そのアウトプット活動をしてきた。英語は繰り返し学ぶことが肝要なので、2年次では文法項目全般の総復習をおこない、さらに会話練習を重ねる。Ultimateを軸に、文法の基礎固めから応用力をつける。ここで学習する基本的な文法の力は、英語の4技能を高める上で基礎となる大切な力であり、大学受験に際しても最も必要とされる。品詞の語法や入試問題も含めた幅広い事項に対応できるようにしたい。

Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Aceの教科書は、基本的な文法事項や構文を取り扱いながら、英文のトピックを意識して、英文を作る力を養うためのものである。英文を作る際にカギとなる文法事項を取り扱い、また実践的な場面で英文を使うテクニックも扱われている。パラグラフの知識、そしてプレゼンテーションやディスカッションのテクニックについても取り上げられており、基本的な文法力を元にして英語を使いこなすための力を養うことができる。

Vision Quest Ultimateは文法について系統的にまとめられた参考書であり、文法事項の総まとめとして使用すると共に、わからない文法事項を辞書のように引いて確認するために使うこともできる。面倒くささらずに、ひとつひとつ地道に文法事項を確認することが、英語力育成には不可欠である。

■論理・表現Ⅱ(β) 1単位 ALTとのティームティーチング

○コミュニケーション能力の育成

教科書: Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace (啓林館)

副教材: ゲートウェイ英作文 (文英堂)

1年次、ALTとのティームティーチングにより、プレゼンテーション、ディスカッション活動などを行い、実践的なコミュニケーション能力の基礎を身に付けてきた。2年生でも、引き続き、コミュニケーション活動をおこなっていく。ただし2年次は習熟度別ではなくクラス単位で行う。

英語コミュニケーションⅡや論理表現Ⅱ(α)で身に付けた語彙力や表現力を使ってALTとコミュニケーションをとりながら大学入試で活用できる表現力を学び、さらに社会で通用する英語力の習得を目指す。

英語コミュニケーションⅢ

学習目標

英語の四技能の習得、向上を目指し、「読む」「聞く」に終始することなく、「書く」「話す」といったアウトプットの活動を通して、総合的な英語力を高める。

3学年英語コミュニケーションⅢ年間授業計画

科目	英語コミュニケーションⅢ	履修	共通	学年	3	単位	4単位
講座名	英語コミュニケーションⅢ	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
評価基準	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。				
評価方法	授業内でのテスト、および定期考査 ・ワークシートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。	授業内でのテスト、ワークシート、および定期考査 ・ワークシートの記述内容などに基づいて評価する。 ・ワークシート、レポート等の内容に基づいて評価する。 ・定期考査の結果に基づいて評価する。	振り返りシート、授業内での発表活動等 ・振り返りシートの記述内容に基づいて評価する。 ・テストや課題、ワークシートへの取り組みに基づいて評価する ・発表活動への取り組みに基づいて評価する。				
	月	学習の単元	学習の内容				
一学期	4	Lesson 1 Energy Cutting Edge 1, 2,	交通機関ごとのエネルギー消費について考える。(SDG7)				
	5	Lesson 2 Environment and Life Cutting Edge 3, 4	バイオ燃料の是非とオランウータンの保護について考える。(SDG15)				
	時間	6	Lesson 3 Health and Life Cutting Edge 5, 6	睡眠不足によっておこる健康被害について考える。(SDG3)			
48	7						
二学期	9	Lesson 5 Diversity Cutting Edge 11, 12	多様性がどのように絵文字に反映されてきたかについて考える				
	10	Lesson 7 Miracles of Nature Cutting Edge 13, 14	鳥の卵の形が異なる理由について理解を深める。				
	時間	11	Lesson 9 Art and Heart Cutting Edge 15, 16	有名な絵画にまつわる物語文を読み、概要や詳細を理解する。			
56	12	共通テスト問題 Cutting Edge 17, 18	過去問及び予想問題を用いての演習				
三学期	1	共通テスト問題	過去問及び予想問題を用いての演習				
	2		記述式試験対策				
	時間	3					
4							
講習	必要に応じて補習・講習を行う。						

英語コミュニケーションⅢの学び方

○教科書を出発点とした4技能の育成

教科書：Ellement English Communication Ⅲ（啓林館）

副教材：Ellement English Communication Ⅲ サブノート（啓林館）

English Communication Ⅲの授業は、大学入試や四技能試験で必要となる英語の四技能を授業の中で総合的にバランスよく向上させることに主眼を置いている。

○精読を中心とした読解力の育成

副教材：Cutting Edge Blue（エミル出版）

入試に出題される様々なテーマの長文を精読しながら、入試突破のために必要な単語・熟語・文法、語法などの力を養っていく。

○速読を通じた読解力の育成

共通テスト対策として、速読の訓練を行う。近年、語数が増加し続ける共通テストでは、限られた時間内に正確に必要な情報を読み取る力が必要とされる。そのためには、問題傾向の把握も重要であり、教科書や共通テストのリーディングに特化した問題集を使ってトレーニングを行っていく。

○リスニング力の育成

副教材：Listening Essentials 2.5（啓隆社）

3学年では、共通テスト対策に対応したリスニング問題のトレーニングを行う。

共通テストリスニングは、30分間、休みなしに音声を聞かなければならないが、30分間、集中して音声を聞き続けることは、想像以上に大変な作業であるので、日頃から英語の音に慣れておくことが大切である。

英語が聞き取れないのは、流れてくる英語のスピードに自分の頭の処理能力が追いつかないということである。そこで、リスニング音声に慣れ、処理スピードをつける練習として、共通テスト試験のリスニングに特化した問題集を使ってトレーニングを行っていく。

○語彙力の育成

副教材：英単語ターゲット1900（旺文社）

語彙力は、実戦的な長文読解や英作文を進めていく中でも、引き続き並行して身に付けていかなければならない力である。機械的に暗記するのではなく、ジャンルや使用場面などによって分類しながら身に付けていくことで、より深い理解を伴った語彙力を習得することができる。上記教材は2年で使用したものであるが、より確実な知識として使えるようになるまで引き続き使用する。

○英語4技能外部検定試験

GTEC 受験予定

論理・表現Ⅲ

学習目標

英語の4技能の習得、向上を目指し、「読む」「聞く」に終始することなく、「書く」「話す」といったアウトプットの活動を通して、総合的な英語力を高める。

3 学年英語表現Ⅲ年間授業計画

科目	論理・表現Ⅲ	履修	共通	学年	3	単位	2 単位
講座名	論理・表現Ⅲ	担当					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】		
目標	外国語を用い、やりとり、発表、書くことの三つの領域で必要となる言語に関する特徴やきまりとそれに基づく運用能力を身に付け、発信力を強化することを目標とする。		内容の論理構造や展開を工夫し、基本的な語句や文を用い、社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを伝達・発表できることを目標とする。		内容を論理的かつ効果的に伝えるために、聞き手、読み手の理解度を考慮しながら伝達方法を改善しようとする態度を身に付ける。		
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 表現のモデルに従いパターンを正確に運用できる。 会話、発表、ディスカッション・ディベート等で必要な技能を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 会話、発表、ディスカッション・ディベート等で、伝えたい内容が十分整理され、まとまっている。 論理展開、表現等が、相手により伝わるように工夫されている。 		<ul style="list-style-type: none"> 発表内容について、自主的に発展させている。 相手の知識や理解度に合わせ表現など発展的に改善されている。 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テストおよび定期考査の結果 ワークシート、課題等の記述内容 発表原稿等の内容・表記 発表時の言語運用能力 上記の点に基づいて評価する。		<ul style="list-style-type: none"> 発表原稿および定期考査の結果 発表原稿等の語彙・表現方法、論理展開における工夫 発表時の表現方法 上記の点に基づいて評価する。		<ul style="list-style-type: none"> 回収した振り返りシートの記述内容 発表原稿等の内容の発展性 提示モデルを離れた自主研究・自己探求の程度 上記の点に基づいて評価する。		
	月	学習の単元	学習の内容				
一学期	4	【FACTBOOK English Logic and Expression III (桐原書店)】 Unit 1, 3, 4 【英作文 Write to the Point (数研出版)】 Lesson 1～8 【CLOVER 英文法・語法 入試発展 (数研出版)】 Lesson 1～6	【FACTBOOK English Logic and Expression III (桐原書店)】 Future of jobs in the AI era, How do people use different types of media? 3R approach in order to save the environment 【英作文 Write to the Point (数研出版)】 基本的な構文を使った英作文 【CLOVER 英文法・語法 入試発展 (数研出版)】 入試に対応した文法・語法の発展問題	時間	24		
	5				6		
二学期	9			【FACTBOOK English Logic and Expression III (桐原書店)】 Unit 6, 8, 10 【英作文 Write to the Point (数研出版)】 Lesson 9～16 【CLOVER 英文法・語法 入試発展 (数研出版)】 Lesson 7～14 共通テスト対策演習	【FACTBOOK English Logic and Expression III (桐原書店)】 Are artificial additives really bad for us? Will we live in a decarbonized society in the future, The way we live together in the sane world 【英作文 Write to the Point (数研出版)】 応用的な構文を使った英作文 【CLOVER 英文法・語法 入試発展 (数研出版)】 入試に対応した文法・語法の発展問題	時間	26
	10	11					
	12						
三学期	1	共通テスト対策演習 個別指導 個別指導	過去問及び予想問題を用いての演習 過去問及び予想問題を使って入試の直前対策を実施する。 記述式試験対策 各大学の記述式試験に対応した指導を実施する。	時間			
	2				3		
	3						
講習	必要に応じて補習・講習を行う。						

論理・表現Ⅲの学び方

■習熟度別授業

○ライティング・スピーキング全般について

教科書：FACTBOOK English Logic and Expression Ⅲ（桐原書店）

副教材：入試必携 英作文 Write to the Point（数研出版）

Vintage（いっずな書店）

入試のライティングで大切なのは、いかに減点されない答案を作るか、ということです。名詞は単数か複数か。冠詞の使い分けは適切か。動詞の時制は、現在、過去、未来、完了、仮定法などどの形を使うのが適切か。簡潔な表現で文法ミスによる減点をなくすことを意識しましょう。また、自分で書いておしまいせず、添削等をしてもらうことも必要です。授業内またはJETの先生などにも協力してもらいましょう。

3年生では、英検やTEAP等の外部試験に向けて、スピーキングの練習を積み重ねていきます。これまでの2年間の学習を踏まえて、社会問題やSDGsに関連させた内容について、自らの意見を発表する時間を設けます。自分の発話する英語が正確であるのか、論理的に矛盾はないのか、授業内に積極的に確認しましょう。

1、2学年で学んできた文法項目を踏まえ、大学入試に対応した問題演習に取り組んでいきます。今までに学んできた単語・熟語、文法を基礎にして、大学入試で実際に出題される形式の問題を解きながら、実践的な力を養います。

和文英訳の入試問題では、そのままでは英語にするのが難しいような出題がされることがありますが、そこで必要とされているのは、難しい単語や構文を使って英文を完成させる力ではなく、どのようにしてわかりやすい英文で書くかという能力です。単語・熟語・文法の力をつけるのはもちろんのこと、授業を通してこのようなセンスを磨くことが大切です。

○文法・語法力の育成

副教材：CLOVER 英文法・語法ランダム演習 入試発展 数研出版

Ultimate 総合英語（啓林館）、

Vintage（いっずな書店）

入試対策の勉強をする時には、応用・難解問題に目がいきがちだが、基礎問題で抜けているところがないようにすることが合否のカギになる。その意味で、抜けている文法事項が無いように基礎を徹底することが大切である。1、2年生で学習した教科書やワークの内容をしっかりと復習しておくこと。

日々の授業、小テスト、模擬試験や過去問でわからない文法事項は必ず確認し、文法知識を確実なものにしておくことが必要である。この際不明な点については『Ultimate』を活用して、解説を読んで基本的知識を確認したり、その知識をより発展的な内容に深めたりしていくことが可能である。丁寧な取り組みが大学受験に対応できる力を身に着けることにつながるため、授業と並行して学習計画を立て、着実に学習を進めていくことが重要である。応用力を養成するためには、関連問題集を最低でも3周以上、暗記ではなくしっかりと理解した上で自分で復習しておきたい。

○コミュニケーション能力の育成

1・2年次は、ALTとのティームティーチングにより、プレゼンテーション、ディスカッション活動などを行い、実践的なコミュニケーション能力の基礎を身に付けてきた。3年次は、随時ALTとのティームティーチングを行い、大学入試で活用できる表現力を学び、さらに社会で通用する英語力の習得を目指す。

家庭科

家庭科学習指導計画

教科の学習目標

家庭科の学習目標は、豊かで幸せな人生を送るために「日常生活に必要な知識や技術を身につける」と共に「社会の状況を的確に判断し、自ら考え選択できる力を備える」ことにあります。そのためには、男女が互いを尊重し協力していく姿勢が欠かせません。生涯に渡って人生の様々な場面で、悔いのない判断をする力、自分だけでなく周りの人々も尊重できる態度を身につけて欲しいと考えています。

本校の家庭科は、学習指導要領に明記された12領域を全て学びます。領域を選択して学習する学校が多い中で、幅広い内容を学習する皆さんにとっては大変な事かも知れません。しかし皆さんは、社会に出て様々な分野で活躍する可能性を持っています。将来どの分野に進んだとしても「知らない」事がないようきちんと考え判断できる力を備えて欲しいと思います。

家庭科は、生活に関わる基礎的・基本的な知識と技術の習得だけでなく、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する力、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる教科です。衣食住だけに囚われることなく社会全体を見据え、諸外国や未来にも目を転じてください。

大学受験科目として「家庭基礎」はありません。しかし、家庭科で学んだ様々な視点や考え方は多くの大学で取り上げられ、問題内容として取り扱われています。真剣に家庭科を学んだ生徒は、必ず家庭科の意義がわかるはずです。

【衣生活と健康の学習目標】

日常生活に必要な被服材料の基礎的な知識を身につけると共に、目的に応じた被服を選択・管理し、健康で快適な衣生活を営む事ができるようにする。また、布及び被服材料を用いた実習を通して、被服管理に必要な基礎的な技術を身につけると共に、モノを創造する喜びを知る。生産・流通から衣料廃棄、再資源化について考える力を養う

【住生活と住環境の学習目標】

ライフステージに応じた適切な住居の計画・管理ができるようになると共に、防災や環境に配慮し社会全体として住環境を考える力を養う。日本の住生活の特徴を理解し、エネルギーや環境問題についても考える。

【高齢期の生活と福祉および共生社会と福祉の学習目標】

高齢期の心身の変化を踏まえた自立生活について考え、高齢者を取り巻く社会福祉の現状、自立生活支援や介護について学び、家族、地域及び社会の果たす役割について考察する。高齢社会の今後について考える。

【子供の生活と保育の学習目標】

乳幼児の心身の発達や親の役割、子供の育つ環境について理解し、子供を産み育てることの意義を考える。また、子供の健やかな発達のために、親や家族及び地域社会の果たす役割を知る。少子化、次世代育成について考察する。

【食生活と健康の学習目標】

栄養素の基礎と健康や環境に配慮した食生活について理解し、食生活の管理・計画に必要な知識と調理の技能を身につける。食品の安全や食文化の継承について考えると共に健康で豊かな食生活を営む力を身につける。

【青年期の自立と家族・家庭及び生涯の生活設計の学習目標】

現代の家族や家庭生活の在り方、高齢者の生活について考え、共に支えあって生活する重要性を知る。また、生涯を見通した自己のライフプランについて考えると共に、社会システムや家族を支えるしくみについて理解を深める。

【生活における経済の計画、消費行動と意思決定及び持続可能なライフスタイルと環境の学習目標】

消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護のしくみについて理解する。生活情報を適切に収集・整理して悪質商法や詐欺に惑わされない力をつける。また将来にわたり安全で安心な持続可能社会を目指して主体的に行動できるようにするとともに、資産の運用や形成について理解を深める。

【ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の学習目標】

自己の家庭生活の中から生活上の課題を見つけ、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身につける。研究結果をまとめる力、プレゼンする力を養う。また、多幸の生徒との交流を通して視野を広げ、生活や地域の生活課題に進んで取り組み、生活者として積極的に生きる力を身につける。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
家庭基礎	1	必修	2	家庭基礎 気づく力 築く未来 実教出版	生活学 Navi 資料+成分表 実教出版

家庭科を学ぶにあたって

○学習上の留意点

家庭科は非常に身近な教科です。社会で起きている出来事に関心を持ち、新聞やメディア媒体を通し、様々な領域のニュースに触れるよう心がけましょう。驚くほど家庭科に関する内容が多いことに気が付くと思います。それは生活に密着した教科ならではの、家庭科を学ぶことの意義です。

そしてこの蓄積が「教養」となり「豊かな人生を歩む土台」となります。けれども「土台」を作っても、活用しなければ意味がありません。その活用として、本校では学校家庭クラブとホームプロジェクトの活動を行っています。学校家庭クラブとは、家庭科で学んだ知識や技術を生かして、地域社会にある課題に学校単位で取り組む実践活動です。またホームプロジェクトは、家庭生活から身近な課題を発見し(See)、解決、改善のために解決方法を考え計画を立て(Plan)、実践し(Do)、反省・評価(See)するという実践活動です。本校では、ホームプロジェクトに対する取り組みには伝統と実績があり、1年生全員が夏休みに取り組んでいます。その成果を発表すると共に、優秀な作品は全国コンクールに応募しています。

日ごろから家庭内や自己の問題を発見し解決できるよう行動し、授業内容の理解を深めましょう。

また家庭科の授業は週に1度、2限続けての授業になります。体調管理を行い欠席のないよう心がけましょう。

○授業の受け方

1クラスを出席番号前半クラスと後半クラスに分け、2グループでの展開授業になります。約20名の少人数クラスになり、学習内容によって担当教員が変わります。学習範囲も広く授業のテンポも速いため、中学校の家庭科とは大きく様子が違い初めは戸惑うかもしれません。また、夏休みにはホームプロジェクトの課題があります。授業やホームプロジェクトを円滑に進めるためにも、日頃から12領域に興味関心を持ち、そのニュースに対し積極的に自分の意見や考えを述べられるよう心がけましょう。

授業内では、教科書、資料集の他に、教員作成のプリントが配布されます。家庭科用ファイルを用意しましょう。授業内に、プリントに書いてある内容に関して様々な補足説明が行われます。内容を理解するだけでなく、「自分ならどうするか」「どのような事態が想定されるか」社会と結びつけて考える習慣をつけてください。他者の意見も聞き、理解し、様々な価値観があることを知ってください。

実習では、時に上手くいかない時もあるでしょう。しかし一生懸命取り組むことが重要です。個々の技能には差があると思いますが、どれだけ「できるようになった」か、「目標を達成できた」かに力点を置きましょう。到達度を尊重します。実習は、知識や知恵、技術や経験の定着が目的であり、初めから全て完璧に出来る必要はありません。出来ないからこそ家庭科で学ぶのです。そして最後までやり遂げること。本校では作品は最後まで仕上げ提出することを義務づけています。授業を欠席することも予定時間内に完成しないこともあるかも知れません。そんなときは自ら補って最後までやり遂げてください。未提出は論外です。わからない点は積極的に教員に聞き、自らの力にしていきましょう。



科目名 家庭基礎（1年）
年間授業計画

科目	家庭基礎		履修	必修	学年	1	単位	2 単位
講座名			担当					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	人の一生を生涯発達の視点で捉え、家族・家庭の意義、家族家庭と社会の関わり方について理解する。生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得する。		現状の生活課題などを自ら発見し解決する方法を考え、家庭生活の充実向上を図る力を身につける。		家族・家庭と社会の関わりを理解して、日常の中で生活を改善しようとする態度を身につける。			
評価規準	生きていく上で必要な「生活」にかかわる基本的な知識を身につけ、理解している。 自立するために必要な調理技術、縫製技術、また家族介護のための基礎的技術などを身につけることができる。		学習した内容を理解した上で自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのような事ができるのかを思考し、判断した内容をレポートや発表を通して表現することができる。		自分の生活課題や社会的な課題にアプローチし、解決のために具体的に行動し、改善に努めている。			
評価方法	定期考査 レポートおよびワークシートの記録 提出作品の内容 学習活動の様子		提出作品の内容 ワークシートの記録状況 レポートの内容 発表の様子、発表内容 学習活動の様子		学習活動への参加状況や様子 課題の提出状況 振り返りシートの提出 学習活動の様子			
月	学習の単元		学習の内容					
一 学 期	4	子どもとかかわる 食生活を作る	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身の発達や親の役割、子どもの育つ環境について理解し、子どもを産み育てることの意義を考える。 ・子どもの健やかな発達のために、親や家族および地域社会の果たす役割を知る ・栄養素の基礎と健康や環境に配慮した食生活について理解し、食生活の管理・計画に必要な知識と調理の技能を身につける。 ・食品の安全や食文化の継承について考えると共に健康で豊かな食生活を営む力を身につける。 ・自己の家庭生活の中から生活上の課題を見つけ、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身につける。 ・生活者として積極的に生きる力をつける。 					
	5 6 7							
時間	夏	ホームプロジェクト						
24	休 み							
二 学 期	9	衣生活をつくる 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な被服材料の基礎的な知識を身につけると共に、目的に応じた被服を選択・管理し健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。 ・布および被服材料を用いた実施を通してものを作る喜びを知る。 ・ライフステージに応じた適切な住居の計画・管理ができるようになると共に、防災や環境に配慮し社会全体として住環境を考える力を養う。 ・高齢者の心身の変化を踏まえた自立生活について考え、高齢者を取り巻く社会福祉の現状について考察する。 					
	10 11 12							
時間	28	高齢者とかかわる						
三 学 期	1	これからの人生について考える 自分らしい生き方と生活 消費行動を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の家族の抱える様々な問題点を理解し、原因と解決方法を考える。家族生活と社会の関わりや未来について考え、自己の人生を見つめ、人生のプランについて考える力を養う。 ・消費者の権利と責任を理解し、消費生活の現状と課題、意思決定や契約の重要性、消費者保護のしくみについて理解する。 ・貯蓄・負債・保険・金融商品について学び将来の家計管理について理解する。 					
	2 3							
時間	18	経済的に自立する						
講習	必要に応じて補講を行う。							

家庭基礎の学び方

【衣生活と健康 学習の留意点】

私たちが身につけている衣服の材料について、その特徴を知り、どのように選び、どのように着装すればよいか科学的に学びます。ファッション性や流行に目を奪われがちな衣生活ですが、被服を賢く選択する事で、より快適な衣生活を送ることができます。また、ファストファッションや新素材など、現代注目されている衣料問題も扱います。私たちを取り巻く環境を社会的な目で考えてみましょう。作品製作については、自己の目標を設け、努力して最後まで仕上げるのが大切です。技量に個人差はあるかもしれませんが、作品の出来栄より「どの位真剣に取り組んだか」を評価しています。

【住居と住環境 学習の留意点】

住居の機能性や住居が様々な地域や歴史・自然環境と密接に関わっていることを学びます。ライフプランに伴って変化する住居計画を学んだ後、一人暮らしを想定した物件選び、家具家電の配置と試算を考えます。自分が暮らすうえで必要なものは何か、学習に入る前に考えておくことで円滑に課題に取り組むことができます。また、防災など安全に配慮した住環境についても学びます。

【高齢期の生活と福祉および共生社会と福祉 学習の留意点】

身近な高齢者、街行く高齢者を観察してみましょう。加齢に伴う心身の変化を踏まえた自立生活について考えていく中で高齢者の視力や歩行などを体験する時間を設けます。そこで得た経験を活かし、手助けが必要な方々に（高齢者に限らず障がいのある方、妊婦、幼児など）思い切って声をかけてみてください。自分が社会の一員として生きている実感を得ることができると思います。どのような支援ができるのかを考えましょう。共生社会と福祉では、セーフティネットを理解した後、高齢者に関する介護保険と年金を中心に学んでいきます。年々変わる保障や制度を学び、自分のライフプランをイメージしながら、どう生きるかを考察してみましょう。ノーマライゼーションとインクルージョンについて、共に学習しましょう。

【子供の生活と保育 学習の留意点】

中学までは、自分が子供だった時代を思い出し、子供について学んでいましたが、高校では「将来、あなたが親になった時」を想定して子供について学習します。子供特有の発達や思考、行動様式を発達心理学の視点から学びます。将来子育てをするかどうかわからない、結婚しないかも知れないという人もいるかも知れませんが、社会に出て大人になった時、どういう態度、役割を担うべきか学んでいきましょう。大人としての考え方が必要になります。「次代を担う子供達の育ちを社会全体で支える」つもりで学習してください。

【食生活と健康 学習の留意点】

日々の食事の栄養素の役割や食材の組み合わせ方、調理性について学びます。また、日頃食べている食について、どこで収穫、加工され、どのような原材料が入っているか、パッケージの裏面には何が書かれているか気に留めてみましょう。健康面や社会経済に配慮した食材選択についても考えます。

調理実習では、基本的な調理技能を学びますが、切り方、加熱の仕方、調味のしかたなど「なぜそうするのか」を考えてください。必ず理由があります。調理は科学です。理由が理解できれば次回からもきっと同様にすることは可能です。それが調理技能が身についた、と言うことです。また、近年忘れられがちな日本の食文化についても先人の知恵をたどり学んでいきます。

【青年期の自立と家族・家庭及び生涯の生活設計 学習の留意点】

少子化、超高齢社会、単独世帯の増加、非婚や晩婚化、貧困や格差、家庭内にある暴力など、現代の家族は様々な問題を抱えています。これからの時代、男女が協力して、家族の一員として役割を果たすことが求められます。また将来どのような生き方を選択し、どんな家庭を築くか、しっかり考えることが重要です。多様な価値観の中で、自分も他人も大切にしながら、共に幸せな生涯を送るために必要な考え方を身につけましょう。

【生活における経済の計画、消費行動と意思決定及び持続可能なライフスタイルと環境 学習の留意点】

高校生が詐欺などの犯罪に巻き込まれる事例が多くあります。金銭問題が生じる前、相談する勇気を持つことを忘れずに、どのような対処法があるか学んでいきましょう。またSNSの取り扱いに関して、メリット、デメリットを考えておきましょう。経済では「家庭」を通してお金の流れを学んでいきます。将来のライフプランに必要なお金について考察していくため、自分は5年後、10年後、あるいは老後どのような生活を送りたいかを漠然とでも良いので考えておくことで良いでしょう。消費生活では、マクロな視点からの消費問題も学びます。持続可能な社会に向けて何ができるか、TPPやパリ協定などにも触れて考えます。これからの日本、世界の在り方について日頃から関心をもち、様々なニュースにも耳を傾けましょう。

【ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 学習の留意点】

ホームプロジェクトは、一人ひとりが自分の家庭生活を見つめて、その生活向上を目指す活動です。家庭科の学習で習得した知識と技術を生かし、あなた自身が主体的に取り組む問題解決的な学習活動です。本校では、夏休み宿題として全員が取り組みます。実施に当たっては問題発見(See)→計画(Plan)→実施(Do)→反省・評価(See)の形をとり、そのプロセスをレポートにまとめて提出してもらいます。夏休み明けに授業で発表をしてもらい、他の生徒からの意見・評価ももらいます。学校家庭クラブ活動は、本校の生徒全体で学校や地域生活の充実・向上を目指す実践活動です。他校の生徒と交流し、情報を交換・共有したり協力して活動に参加する事もあります。

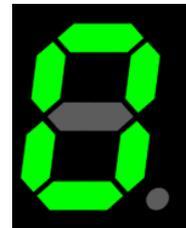
情報科学学習指導計画

教科の学習目標

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、必要な情報リテラシーの習得、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）
情報 I	1	共通	2	高等情報 I Python（実教出版）



科目名 情報Ⅰ
年間授業計画

科目	情報Ⅰ	履修	必修	学年	1	単位	2単位
講座名	情報Ⅰ	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを構成する装置や主な機能を理解する。 ・情報に関する権利と法を理解する。 ・プログラムとアルゴリズム、それを表現する方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に向けて目的や方法を意識しながら計画を立てられるようになる。 ・収集した情報を適切に整理・加工ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や実習の内容を振り返り、適切に改善できるようになる。 ・情報社会のルールやマナーを守り、これからの社会の課題に対して、情報技術を活用しながら積極的に関わろうとする態度を養う。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習内容の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物の内容 ・実習、発表等内容 ・学習活動の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況や様子 				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期 時間	4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器を使うために必要なこと ・情報の伝達 ・コミュニケーションに必要なこと ・情報通信ネットワークの構成 ・情報の安全を守るしくみ ・権利と法 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会のルールやマナーについて理解する。 ・情報の伝達、情報とデータについて理解する。 ・コミュニケーションにおける情報の適切な利用の仕方を学習する。 ・情報通信ネットワークの構成と、それぞれの機器の役割を理解する。 ・情報セキュリティに関する考え方を学習する。 ・産業財産権と著作権について理解する。 				
	5 6 7						
二学期 時間	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを構成する主な装置の機能 ・表計算ソフトの実習 ・コンピュータの内部処理 ・モデル化とシミュレーション ・プログラミング1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェア、五大機能を理解する。 ・アナログとデジタルの違いを学習する。 音のデジタル化（標本化、量子化、符号化） ・画像のデジタル化（解像度、画像の色の表現、ピクセル） ・表計算ソフトの基礎を学習する。 ・表計算ソフトを使用し、シミュレーションを行う。 ・プログラミング言語を学習し、順次構造、分岐構造、反復構造を学習し、フローチャートで表す。 				
	1 2 3						
三学期 時間	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング2 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング言語を学習し、整列、ソート、探索について学び、プログラムを制作し、実行する。 				
講習	必要に応じて補講を行う。2・3学年時にも行う予定。						

「情報Ⅰ」の学び方

○「理論」分野の学習

高等学校での共通教科「情報」は、「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」の2科目あるが、三田高校では、全国での必修科目である「情報Ⅰ」を履修し、小学校、中学校で学んだ技能、基礎的な理論をもとに、さらに理論的な分野について深く追及し、さらに実務演習を行っていく。

(3年時に自由選択として情報Ⅰ演習、情報Ⅱがあるので必要な生徒は選択することができる。)

学習方法としては、「復習」を中心に学習を進めていけば、すべての生徒が同じスタートの位置に立って学習する教科なので、授業をよく聞いていけば十分についていけると考える。日頃の授業のノートづくりをしっかりと行う必要がある。(2年時、3年時に春季・夏季・冬季講習を実施している。)

また、2025年度1月実施の大学入学共通テストより「情報Ⅰ」が導入されたので、入試傾向を分析して学習内容に取り入れていく予定である。

「理論」分野においては以下のような項目について理解を深めていく。

情報化の進展により社会が発展し、生活が便利になる一方で、さまざまな問題も生じてきている。情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解を進めていく。

サイバー犯罪などの被害を避け、コンピュータやインターネットを安全に活用するために、セキュリティを確保するためのさまざまな方法を理解していく。

多くの情報が公開され、流通していく中、情報を保護することの必要性とそのための法律や個人の責任について理解していく。

情報は、いろいろな方法で表現されるが、アナログ情報とデジタル情報の2つに分類することができる。アナログとデジタルの違いと、特徴を理解していく。特に、2進数、16進数、10進数の特徴について触れる。

情報を処理する上で基礎となるコンピュータの基本的な仕組みについて学ぶ。また、コンピュータにつながっているさまざまな装置の働きについても理解する。

文字、数値、音声、画像、動画などの情報がデジタル情報としてどのようにしてあらわされるかを理解する。また、圧縮する仕組みと意義についても理解していく。

インターネットには、さまざまなサービスがある。インターネットの特性を理解し、それぞれのサービスを活用する上での注意点を理解する。

情報発信の注意点や情報の活用方法を理解する。

○「技能」分野の学習

コンピュータを使った効果的な情報の表現について理解していく。

「技能」分野においては以下のような項目について理解を深めていく。

身の回りにはさまざまな問題があるが、すぐには解決ができないものも多いが、コンピュータを使うと即座に解決することができる場面がある。問題を解決するための手順や方法を理解し、技能の習得に結び付けていく。

調査・分析においては、表計算ソフトの基本的なリテラシーの習得を行い、分析を行う際における重要点を理解し、数値的な分析力を身に付ける。

2学期にプログラム言語を使い、プログラミング能力を養うためのアルゴリズムや簡単なプログラミングの実習を行う。

総合的な探究の時間

三田高校での総合的な探究の時間について

I. はじめに 本校の経緯

73期生から都の指定事業である「知的探究イノベーター推進校」に指定されたことで、総合的な探究の時間の取り組みを整理し、1・2年の2年間のカリキュラム編成での実施が開始されました。現在で8年目を迎えています。

II. 探究学習の目的

課題研究活動や論文を創り上げることを通して、「志・教養」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を鍛え、目の前の新しい問題や課題に立ち向かっていくことのできる力（＝創造力）を培う。

III. 本校のカリキュラムと学習の位置づけ

「課題研究のイメージ図」

<1学年> 2単位

- ・クラスごとの授業で2学年での研究に向けた準備Ex)・SDGsとブレインストーミング
 - ・ジグソー法
 - ・RQ（リサーチクエスチョン）、仮説の導き方
 - ・研究手法を学ぶ など

- ・最終到達点 リサーチクエスチョン講評会
外部講師を招き、2年次での本調査に向けた準備完成させる。

思考力・判断力・表現力等の向上

主体的に学ぶ態度の向上

進路（学問）選択

調査活動・論文執筆・発表

2学年

- ・ゼミ形式の研究指導
- ・（必要に応じて）外部機関訪問
- ・課題研究中間発表、最終発表

課題研究に必要な資質・能力を育成

1学年

- ・リサーチクエスチョン設定の考え方
- ・仮説の設定
- ・論理的思考力の育成
- ・読解力の育成

⇒次年度の研究へとつながるように「RQとはなにか？を知る事」、「探究を楽しむこと」を目的とする

<2学年> 1単位

- ・ゼミ形式で研究
 - ゼミでの進捗報告・質疑応答、メンター教員からの講評
 - 調査対象（生徒・企業など）へインタビュー調査、アンケート調査
- ・最終到達点 課題研究論文執筆・課題研究発表会
4000字以上の論文を作成し、プレゼンテーションする

⇒「RQが適切であるかを問い続ける事」「自分が知りたいことに近づく楽しさを味わう事」を目的とする

総合的な探究の時間（1年）

年間授業計画

科目	総合的な探究の時間	履修	共通	学年	1	単位	2単位
講座名	総合的な探究の時間	担当	1年生担任				
学習の目標	課題研究活動や論文を創り上げることを通して、「志・教養」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を鍛え、目の前の新しい問題や課題に立ち向かっていくことのできる力（＝創造力）を培う。						
月	学習の内容						
一学期	<ul style="list-style-type: none"> 読書プレゼンテーション 課題研究講演会（課題研究とは何か） グローバル市民デー 夢ナビライブ プレ探究（テーマ設定の方法・先行研究調査の方法・リサーチクエスションの設定方法・調査方法、実験の設定の方法） 						
時間							
24							
二学期	<ul style="list-style-type: none"> プレ探究（調査結果から結論・考察を導く方法） 2学年探究活動中間発表会の見学 プレ探究（発表資料の作成方法） プレ探究発表会 2年次探究活動のゼミ選択 						
時間							
28							
三学期	<ul style="list-style-type: none"> 本探究（テーマ設定・先行研究調査・リサーチクエスションの設定・調査方法、実験の設定） 2学年探究活動発表会見学 探究活動研究計画発表会 						
時間							
18							
評価の方法	課題の提出状況、発表状況、取り組みの様子などを総合的に評価する。						

総合的な探究の時間（2年）

年間授業計画

科目	総合的な探究の時間	履修	共通	学年	2	単位	1単位
講座名	総合的な探究の時間	担当	2年生担任他				
学習の目標	課題研究活動や論文を創り上げることを通して、「志・教養」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を鍛え、目の前の新しい問題や課題に立ち向かっていくことのできる力（＝創造力）を培う。						
月	学習の内容						
一学期	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動（優秀者発表会の視聴・指導教員への研究内容の報告・課題研究の進捗状況の報告） 調査活動 						
時間							
12							
二学期	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習グループ活動 探究学習中間発表会 探究学習の進捗状況の報告 研究要綱・論文作成 研究要綱作成・提出 						
時間							
14							
三学期	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習研究論文作成・提出 探究学習研究最終発表準備 探究学習発表会 探究学習のポートフォリオ作成 探究学習自己評価 探究学習のまとめ 						
時間							
9							
評価の方法	課題の提出状況、発表状況、取り組みの様子などを総合的に評価する。						